

ApeosWare Management Suite 2 Flow Management Option のヘルプ

- ①このマニュアルの編集、変更、または無断で転載はしないでください。
- ②このマニュアルに記載されている内容は、将来予告なしに変更されることがあります。
- ③このマニュアルに記載されている画面やイラストは一例です。ご使用の機種やソフトウェア、OS のバージョンによって異なることがあります。

「マニュアルと付属ツールについて」、「本書の表記」、および商標については、『セットアップガイド』を参照してください。

富士フイルムビジネスイノベーションに対するご意見、ご相談などは、お客様相談センターにご連絡ください。

フリーダイヤル 0120-27-4100

フリーダイヤル受付時間：土、日、祝日、および弊社指定休業日を除く 9 ～ 12 時、13 ～ 17 時

フリーダイヤルは、海外からはご利用になれません。また、一部の IP 電話からはつながらないことがあります。

お話の内容を正確に把握するため、また後に対応状況を確認するため、通話を録音させていただくことがあります。

インターネットホームページで商品情報を提供しています。

アクセス先は、https://www.fujifilm.com/fb/product/software/aw_manage_suite です。

1 共通項目について

画面について

Flow Management の画面で共通の項目について説明します。

ヘッダーのメニュー

次の項目が表示されます。

- {ログインユーザー}
ログインユーザーのユーザー名が表示されます。
- ログアウト
ApeosWare Management Suite の管理者画面からログアウトします。
- Language- {言語}
表示言語を切り替えます。{言語} は、現在の表示言語です。
- ユーザーポータル / 管理者ポータル
ApeosWare Management Suite のユーザー画面、管理者画面を表示します。
表示されるメニューは、ログインユーザーの権限によって異なります。
- ヘルプ
ApeosWare Management Suite の操作説明に関するメニューが表示されます。
[機能説明] を選択すると、表示中の Flow Management の画面に対応するヘルプが表示されます。

サイドメニュー

- フロー一覧
フローを新規に作成したり、作成済みのフローの状態を一覧で表示したりします。
- ジョブ一覧
Flow Management のジョブを一覧で表示します。
- 待ちジョブ一覧
対話処理待ちのジョブの一覧を表示します。
- サービス設定
Flow Management サーバーの情報を表示します。

ツールバー

画面上部の操作ボタンが表示されるエリアを「ツールバー」と呼びます。

表の設定

表形式で一覧を表示する画面に表示されます。表示項目を切り替えたり、項目の表示順序を変更したりできます。

クリックすると、[表の設定] 画面に移動します。

フィルター

一覧に表示する内容を抽出します。

- テキストボックス

条件値を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 1 ～ 32 です。

-  フィルター
テキストボックスに入力された文字列で、一覧の内容を抽出します。
-  [フィルター解除]
フィルターによる抽出を解除します。

選択状態の切り替え

- [すべて選択]
一覧に表示されているすべてのチェックボックスに、チェックマークを付けます。



補足

一覧に表示されていない項目は、選択されません。

- [選択を解除]
一覧に表示されているすべてのチェックボックスの、チェックマークを外します。

一覧

各メニューに関連した項目が表示されます。表示される内容は、メニューによって変わります。
項目列の表題をクリックすると、昇順（[▲]）と降順（[▼]）が切り替わり、内容が並び変わります。

ページのナビゲーション

オブジェクトの総数と、現在一覧表示されているオブジェクトの範囲が表示されます。
リンクをクリックしてページを移動します。

表示件数の切り替え

一覧に表示する件数を選択します。選択できる項目は、次のとおりです。

- 5
- 10
- 15
- 20
- 50
- 100
- 200

表の設定

[OK]

設定している内容を保存し、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄し、元のページに戻ります。

[元に戻す]

設定している内容を破棄し、前回、保存した内容を表示します。

[標準に戻す]

設定している内容を破棄し、初期値を表示します。

表示できる項目

元のページの一覧に追加できる項目が表示されます。

【追加】

【表示できる項目】でチェックマークを付けた項目が、【表示する項目】に移動します。
項目は、【表示する項目】でチェックマークが付いた状態になります。

【削除】

【表示する項目】でチェックマークを付けた項目が、【表示できる項目】に移動します。
項目は、【表示できる項目】でチェックマークが付いた状態になります。

表示する項目

元のページの一覧にある項目が表示されます。

【上へ移動】

チェックマークの付いた項目が、1 つ上に移動します。

【下へ移動】

チェックマークの付いた項目が、1 つ下に移動します。

2 各画面について

フロー一覧

フローを新規に作成したり、作成済みのフローの状態を一覧で表示したりします。

フローの新規作成、コピーおよびアップロードをするには、[フロー作成者] 権限が必要です。そのほかの設定には、[所有者] 権限が必要です。

操作権限については、『機能ガイド Flow Management Option 編』を参照してください。



フロー一覧ページでは、操作しているユーザー自身が [所有者] 権限を持つフローだけが表示されます。Apeos_Admin ユーザーでログインしている場合は、すべてのフローが表示されます。

ツールバー

- [ 新規作成]
フローを新規作成したい場合にクリックします。
[フローの新規作成] 画面に移動します。
- [ 検証]
フローを確認したい場合に、一覧で確認する対象 (複数可) にチェックマークを付けてからクリックします。
[検証] 画面に移動します。
- [ 有効化]
フローを有効化したい場合に、一覧で有効化する対象 (複数可) にチェックマークを付けてからクリックします。
[フロー有効化の確認] 画面に移動します。
作成したフローの処理を開始するには、フローを有効化する必要があります。
- [ 無効化]
フローを無効化したい場合に、一覧で無効化する対象 (複数可) にチェックマークを付けてからクリックします。
[フロー無効化の確認] 画面に移動します。
- [ 削除]
フローを削除したい場合に、一覧で削除する対象 (複数可) にチェックマークを付けてからクリックします。
[フロー削除の確認] 画面に移動します。
フローは、フローの状態が [無効] で、ジョブ、ジョブ履歴が存在しない場合に、削除できます。ジョブの状態は [ジョブ一覧] 画面で確認できます。
- [ ダウンロード]
作成済みのフローを、PC の指定のフォルダーにダウンロードしたい場合に、一覧でダウンロードする対象 (複数可) にチェックマークを付けてからクリックします。
[ダウンロード] 画面に移動します。
- [ アップロード]
PC にあるフローを Flow Management にアップロードしたい場合にクリックします。
[フローのアップロード] 画面に移動します。

一覧

一覧の項目は、次のとおりです。

- フロー
フローの状態が表示されます。有効、一部無効、無効のどれかが表示されます。
- 名称
フローの名前が表示されます。
- 更新日時
取り込み処理とフロー処理を行った日時のうち、最も新しい日時が表示されます。
- フロー ID
フロー ID が表示されます。
- アイコン
 をクリックすると、次のアイコンが表示されます。
 (編集)：フローを編集する場合にクリックします。[フローの編集] 画面に移動します。
 (コピー)：フローをコピーして、新しいフローを作成する場合にクリックします。
[フローの編集] 画面に移動します。
：フローの設定内容を確認する場合にクリックします。[フローのプロパティ] 画面に移動します。



補足

フローは、フローの状態が【無効】で、【実行待ち】、【実行中】 および 【作業待ち】 の状態のジョブが存在しない場合に、編集できます。ジョブの状態は【ジョブ一覧】画面で確認できます。

【最新の情報に更新】

一覧の項目を、最新の状態にする場合にクリックします。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

フローの新規作成

フローの新規作成 [フロー設定] タブ / フローの編集 [フロー設定] タブ

フローを新規作成、または編集します。



補足

- ・ フローを編集するには、次の条件が必要です。
 - ・ 【実行待ち】、【実行中】、【作業待ち】 状態のジョブがない
 - ・ フローが無効になっている
- ・ 新規に作成したフローは【無効】状態で作成されます。【無効】状態の場合、フローの処理を開始するには【有効】にする必要があります。フローの編集や削除をするときは、フローを【無効】にします。

ボタン

- [OK]
設定している内容を保存して、元のページに戻ります。
- [キャンセル]
設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

フロー設定

- フローの名称 (必須)
フロー名を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ～ 100 です。
- フローの説明

フローの説明を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ～ 1024 です。

- ジョブの順序保持をする

ジョブの入力順を保持して配信する場合に、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークが付いています。



[ジョブの順序保持をする] にチェックマークを付けた場合で [作業待ち] のジョブがあるときは、そのジョブの処理が再開されるまで、同じフロー内の同じ入力元から入力された後続のジョブは処理されません。

- 取り込み元 (必須)

- ・ 追加

追加する機能を選択します。[フォルダー]、[外部アクセス連携]、[ボックス] が選択できます。選択した機能の詳細設定画面に移動します。

- ・ [削除]

クリックすると、一覧でチェックマークを付けた取り込み元を削除します。

- ・ 一覧

- ・ 取り込み元

機能の詳細設定画面で設定した機能の名前が表示されます。

- ・ アイコン

 (編集) : クリックすると、機能の詳細設定画面に移動します。

- 加工方法

- ・ 追加

追加する機能を選択します。選択した機能の詳細設定画面に移動します。

(*) が付いた機能は、オプションのライセンスが必要です。

- ・ QR コードリーダー (*)

- ・ フォーマット変換

- ・ 属性加工 CSV 設定 (*)

- ・ イメージ加工

- ・ 属性加工 CSV 作成 (*)

- ・ 属性マッピング

- ・ 属性加工データ取り込み (*)

- ・ OCR

- ・ Database Query (*)

- ・ 文書名

- ・ フォーム解析 (*)

- ・ OmniPage (R) Barcode Reader (*)

- ・ OmniPage(R) OCR (*)

- ・ [組み合わせから追加]

組み合わせ機能から、設定内容を選択できます。

組み合わせ機能は、よく使う機能をあらかじめ組み合わせて設定したものです。次の組み合わせが選択できます。

メニュー名	機能	設定
PDF 変換し OCR を文書名に使用	イメージ加工	[ノイズ除去]、[自動正立]、[傾き補正] が設定されます。それ以外は、すべて初期設定のままです。  参照 「加工方法>イメージ加工>イメージ加工 - イメージ加工設定 [イメージ処理 / わく消し / 解像度変換] タブ」 (P.56)
	OCR 処理	[ページ指定] に、[指定ページの全文にわたって OCR をする]、[ページ数 (1 ~ 999)] に、[1] が設定されます。それ以外は、すべて初期設定のままです。  参照 「加工方法> OCR > OCR-OCR 設定」 (P.65)
	フォーマット変換	[フォーマット変換 - フォーマット変換設定] 画面の [フォーマット] に [PDF] が設定されます。それ以外は、すべて初期設定のままです。  参照 ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (TIFF 変換の場合)」 (P.39) ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (JPEG 変換の場合)」 (P.40) ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (TIFF/JPEG 変換の場合)」 (P.41) ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (DocuWorks 変換の場合)」 (P.41) ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (PDF 変換の場合)」 (P.51)
	文書名設定	文書名：[OCR] 機能の「ページ指定 OCR テキスト」、[区切り文字] にハイフン (-)、文字数制限ありで、制限文字数に 32 が設定されます。それ以外は、すべて初期設定のままです。  参照 「加工方法>文書名>文書名 - 文書名設定」 (P.69)

メニュー名	機能	設定
PDF 変換し白紙で分割	イメージ加工	[ノイズ除去]、[自動正立]、[傾き補正]、[白紙での文書分割] が設定されます。それ以外は、すべて初期設定のままです。  参照 「加工方法>イメージ加工>イメージ加工 - イメージ加工設定 [イメージ処理 / わく消し / 解像度変換] タブ」 (P.56)
	フォーマット変換	[フォーマット変換 - フォーマット変換設定] 画面の [フォーマット] に [PDF] が設定されます。それ以外は、すべて初期設定のままです。  参照 ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (TIFF 変換の場合)」 (P.39) ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (JPEG 変換の場合)」 (P.40) ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (TIFF/JPEG 変換の場合)」 (P.41) ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (DocuWorks 変換の場合)」 (P.41) ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (PDF 変換の場合)」 (P.51)
PDF 変換し白紙を除去	イメージ加工	[ノイズ除去]、[自動正立]、[傾き補正]、[白紙除去] が設定されます。それ以外は、すべて初期設定のままです。  参照 「加工方法>イメージ加工>イメージ加工 - イメージ加工設定 [イメージ処理 / わく消し / 解像度変換] タブ」 (P.56)
	フォーマット変換	[フォーマット変換 - フォーマット変換設定] 画面の [フォーマット] に [PDF] が設定されます。それ以外は、すべて初期設定のままです。  参照 ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (TIFF 変換の場合)」 (P.39) ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (JPEG 変換の場合)」 (P.40) ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (TIFF/JPEG 変換の場合)」 (P.41) ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (DocuWorks 変換の場合)」 (P.41) ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (PDF 変換の場合)」 (P.51)

メニュー名	機能	設定
PDF 変換しイメージを補正	イメージ加工	[ノイズ除去]、[自動正立]、[傾き補正] が設定されます。それ以外は、すべて初期設定のままです。  参照 「加工方法>イメージ加工>イメージ加工 - イメージ加工設定 [イメージ処理 / わく消し / 解像度変換] タブ」 (P.56)
	フォーマット変換	[フォーマット変換 - フォーマット変換設定] 画面の [フォーマット] に [PDF] が設定されます。それ以外は、すべて初期設定のままです。  参照 ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (TIFF 変換の場合)」 (P.39) ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (JPEG 変換の場合)」 (P.40) ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (TIFF/JPEG 変換の場合)」 (P.41) ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (DocuWorks 変換の場合)」 (P.41) ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (PDF 変換の場合)」 (P.51)

メニュー名	機能	設定
XDW 変換し OCR を文書名に使用	イメージ加工	[ノイズ除去]、[自動正立]、[傾き補正] が設定されます。それ以外は、すべて初期設定のままです。  参照 「加工方法>イメージ加工>イメージ加工 - イメージ加工設定 [イメージ処理 / わく消し / 解像度変換] タブ」 (P.56)
	OCR 処理	[全ページの全文にわたって OCR をする]、[OCR 結果をページごとに対応した属性として保存する] が設定されます。それ以外は、すべて初期設定のままです。  参照 「加工方法> OCR > OCR-OCR 設定」 (P.65)
	フォーマット変換	[フォーマット] に [DocuWorks] が設定されます。それ以外は、すべて初期設定のままです。  参照 ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (TIFF 変換の場合)」 (P.39) ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (JPEG 変換の場合)」 (P.40) ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (TIFF/JPEG 変換の場合)」 (P.41) ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (DocuWorks 変換の場合)」 (P.41) ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (PDF 変換の場合)」 (P.51)
	文書名設定	文書名: [OCR] 機能の「ページ指定 OCR テキスト」、[区切り文字] にハイフン (-)、文字数制限ありで、制限文字数に 32 が設定されます。それ以外は、すべて初期設定のままです。  参照 「加工方法>文書名>文書名 - 文書名設定」 (P.69)

メニュー名	機能	設定
XDW 変換し白紙で分割	イメージ加工	[ノイズ除去]、[自動正立]、[傾き補正]、[白紙での文書分割] が設定されます。それ以外は、すべて初期設定のままです。  参照 「加工方法>イメージ加工>イメージ加工 - イメージ加工設定 [イメージ処理 / わく消し / 解像度変換] タブ」 (P.56)
	フォーマット変換	[フォーマット] に [DocuWorks] が設定されます。それ以外は、すべて初期設定のままです。  参照 ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (TIFF 変換の場合)」 (P.39) ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (JPEG 変換の場合)」 (P.40) ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (TIFF/JPEG 変換の場合)」 (P.41) ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (DocuWorks 変換の場合)」 (P.41) ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (PDF 変換の場合)」 (P.51)
XDW 変換し白紙を除去	イメージ加工	[ノイズ除去]、[自動正立]、[傾き補正]、[白紙除去] が設定されます。それ以外は、すべて初期設定のままです。  参照 「加工方法>イメージ加工>イメージ加工 - イメージ加工設定 [イメージ処理 / わく消し / 解像度変換] タブ」 (P.56)
	フォーマット変換	[フォーマット] に [DocuWorks] が設定されます。それ以外は、すべて初期設定のままです。  参照 ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (TIFF 変換の場合)」 (P.39) ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (JPEG 変換の場合)」 (P.40) ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (TIFF/JPEG 変換の場合)」 (P.41) ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (DocuWorks 変換の場合)」 (P.41) ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (PDF 変換の場合)」 (P.51)

メニュー名	機能	設定
XDW 変換しイメージを補正	イメージ加工	[ノイズ除去]、[自動正立]、[傾き補正] が設定されます。  参照 「加工方法>イメージ加工>イメージ加工 - イメージ加工設定 [イメージ処理 / わく消し / 解像度変換] タブ」 (P.56)
	フォーマット変換	[フォーマット] に [DocuWorks] が設定されます。それ以外は、すべて初期設定のままです。  参照 ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (TIFF 変換の場合)」 (P.39) ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (JPEG 変換の場合)」 (P.40) ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (TIFF/JPEG 変換の場合)」 (P.41) ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (DocuWorks 変換の場合)」 (P.41) ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (PDF 変換の場合)」 (P.51)
XDW 変換しオリジナルデータを添付	イメージ加工	[ノイズ除去]、[自動正立]、[傾き補正] が設定されます。  参照 「加工方法>イメージ加工>イメージ加工 - イメージ加工設定 [イメージ処理 / わく消し / 解像度変換] タブ」 (P.56)
	フォーマット変換	[フォーマット] に [DocuWorks] が設定されます。[オリジナル文書を添付する] にチェックマークが付きます。それ以外は、すべて初期設定のままです。  参照 ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (TIFF 変換の場合)」 (P.39) ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (JPEG 変換の場合)」 (P.40) ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (TIFF/JPEG 変換の場合)」 (P.41) ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (DocuWorks 変換の場合)」 (P.41) ・「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (PDF 変換の場合)」 (P.51)

メニュー名	機能	設定
XDW 変換し OCR を貼り付け	イメージ加工	[ノイズ除去]、[自動正立]、[傾き補正] が設定されます。  参照 「加工方法>イメージ加工>イメージ加工 - イメージ加工設定 [イメージ処理 / わく消し / 解像度変換] タブ」 (P.56)
	OCR 処理	[全ページの全文にわたって OCR をする]、[OCR 結果をページごとに対応した属性として保存する] が設定されます。それ以外は、すべて初期設定のままです。  参照 「加工方法> OCR > OCR-OCR 設定」 (P.65)
	フォーマット変換	・ [フォーマット変換 - フォーマット変換設定] 画面の [フォーマット] に [DocuWorks] が設定されます。それ以外は、すべて初期設定のままです。 ・ [フォーマット変換-フォーマット変換設定-アノテーション設定] の「アノテーションとして貼り付ける文字列」で「属性から指定する」が選択され、OCR の属性「全文指定ページ別 OCR テキスト」が指定されます。 また、[貼り付けるページ] に [ページごとに対応した OCR 結果を貼り付ける] が設定されます。それ以外は、すべて初期設定のままです。  参照 ・ 「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (TIFF 変換の場合)」 (P.39) ・ 「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (JPEG 変換の場合)」 (P.40) ・ 「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (TIFF/JPEG 変換の場合)」 (P.41) ・ 「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (DocuWorks 変換の場合)」 (P.41) ・ 「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (PDF 変換の場合)」 (P.51) ・ 「加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - DocuWorks 変換設定 - アノテーション設定 -」 (P.43)

メニュー名	機能	設定
XDW 変換し OCR を埋め込む	イメージ加工	[ノイズ除去]、[自動正立]、[傾き補正] が設定されます。それ以外は、すべて初期設定のままです。  参照 「加工方法>イメージ加工>イメージ加工 - イメージ加工設定 [イメージ処理 / わく消し / 解像度変換] タブ」 (P.56)
	OCR 処理 (全ページ OCR)	[全ページの全文にわたって OCR をする]、[OCR 結果をページごとに対応した属性として保存する] が設定されます。それ以外は、すべて初期設定のままです。  参照 「加工方法> OCR > OCR-OCR 設定」 (P.65)
	フォーマット変換	[フォーマット変換 - フォーマット変換設定] 画面の [フォーマット] に [DocuWorks] が設定されます。それ以外は、すべて初期設定のままです。

- [削除]
クリックすると、一覧でチェックマークを付けた加工方法を削除します。
 - 一覧
 - ・ 加工方法
機能の詳細設定画面で設定した登録名が表示されます。複数の加工方法を設定している場合、加工方法の一覧に表示されている順序が、ジョブを処理するときの順序になります。
 - ・ 対話処理
対話操作の設定があるかどうかが表示されます。
 - ・ アイコン
 (編集) : クリックすると、[加工方法の編集] 画面に移動します。
 - 配信先 (必須)
 - ・ 追加
追加する機能を選択します。選択した機能の詳細設定画面に移動します。
- (*) が付いた機能は、オプションのライセンスが必要です。
- ・ アプリケーション連携
 - ・ フォーム解析結果出力 (*)
 - ・ 属性加工データ出力 (*)
 - ・ フォルダ保存
 - ・ プリンター出力
 - ・ メール送信 (SMTP)

・ [組み合わせから追加]

組み合わせ機能から、設定内容を選択できます。組み合わせ機能は、よく使う機能をあらかじめ組み合わせ設定したものです。次の組み合わせが選択できます。

メニュー名	機能	設定
スキャン文書の一覧表作成	配信前処理 (フォーマット変換)	配信時の【フォーマット】に【DocuWorks】が設定されます。それ以外は、すべて初期設定のままです。  参照 ・「加工方法＞フォーマット変換＞フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (TIFF 変換の場合)」 (P.39) ・「加工方法＞フォーマット変換＞フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (JPEG 変換の場合)」 (P.40) ・「加工方法＞フォーマット変換＞フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (TIFF/JPEG 変換の場合)」 (P.41) ・「加工方法＞フォーマット変換＞フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (DocuWorks 変換の場合)」 (P.41) ・「加工方法＞フォーマット変換＞フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (PDF 変換の場合)」 (P.51)
	フォルダー保存	【フォルダー保存 - フォルダー保存設定】画面が表示されるので、文書を保存するフォルダーの種類や場所を任意に設定します。
	文書属性の対応表出力	【取り込み元】に指定している【ボックス】の情報を利用して、文書属性の対応表を作成します。【文書属性の対応表出力カー対応表出力設定】画面が表示されるので、文書属性を出力するファイルの保存場所やファイル名を任意に設定します。 初期設定では、【列の情報】に次の内容が設定されています。 見出しー属性 デバイス名ーボックス：機種名 IPv4 アドレスーボックス：IPv4 アドレス (127.0.0.1) IPv6 アドレスーボックス：IPv6 アドレス (2001:0:0:0:0:0:1234) ホスト名ーボックス：ホスト名 ボックス名ーボックス：ボックス番号 結果ー「正常」 格納場所ーボックス：受信日時 格納時刻ーボックス：受信時刻 原稿サイズーボックス：用紙サイズ 原稿面数ーボックス：ページ数 カラーモードーボックス：圧縮形式 入力種別ーボックス：入力種別 ディレクトリーフォルダー保存：ディレクトリ 出力ファイル名ーフォルダー保存：出力ファイル名

・ [削除]

クリックすると、一覧でチェックマークを付けた配信先を削除します。

・ 一覧

・ 配信先

配信先機能の詳細設定画面で設定した登録名が表示されます。複数の配信先を設定している場合、配信先の一覧に表示されている順序が、ジョブを処理するときの順序になります。

- ・ 配信条件
配信条件が設定されている場合は「条件あり」が表示されます。設定されていない場合は空欄になります。
- ・ 配信前処理
配信前処理が設定されている場合は、設定された機能のアイコンが表示されます。
 (文書名)、 (フォーマット変換) のどちらか、または両方が表示されます。設定されていない場合は空欄になります。
- ・ 配信後処理
配信後処理が設定されている場合は、設定された機能のアイコンが表示されます。
 (完了通知)、 (文書属性の対応表出力) のどちらか、または両方が表示されます。設定されていない場合は空欄になります。
- ・ アイコン
 (編集)：クリックすると、[配信先の編集] 画面に移動します。
 (コピー)：クリックすると、選択した配信先をコピーします。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

取り込み元＞フォルダー＞フォルダー - フォルダー入力設定（ローカルフォルダーの場合）

Flow Management サーバーにあるフォルダーから文書を取り込むときに、取り込み元のフォルダーを設定します。



取り込み元フォルダーには、読み書き可能なリムーバブルメディアも選択できます。ファイルシステムは、NTFS、FAT、FAT32 に対応しています。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

名称

機能の名前を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ～ 512 です。

入力しないと、取り込み元フォルダーのパスが名前として設定されます。

フォルダーの種類

取り込み元フォルダーの種類を選択します。

【サーバーのローカルフォルダー】または【共有フォルダー】が選択できます。

サーバーのローカルフォルダーの場所（必須）

取り込み元フォルダーの設定方法を、[フォルダー一覧から選択する]、[フォルダーの場所を直接入力する] から選択します。

初期設定は、[フォルダー一覧から選択する] です。

- フォルダー一覧から選択する
あらかじめ登録してあるフォルダー一覧から取り込み元フォルダーを選択する場合に選択します。
[参照] をクリックして、表示されるフォルダー一覧から、対象のフォルダーを選択します。
テキストボックスに直接文字の入力はできません。
この項目を選択した場合、[ユーザー名] と [パスワード] は指定できません。選択したフォルダーへのアクセスは、Flow Management サービスの実行アカウント（NETWORK SERVICE）が使用されます。

- [参照]
クリックすると、[フォルダー - サーバーのローカルフォルダーの選択] 画面が表示されます。ここで、取り込み元のフォルダーを選択します。
- フォルダーの場所を直接入力する
取り込み元フォルダーのパスを直接入力する場合に選択します。
テキストボックスに、ドライブからの絶対パスを、UNC 形式で入力します。
フォルダーの区切り文字には、円 (¥)、またはスラッシュ (/) を使用します。
例：C:¥folder1¥sub1、C:/folder1/sub1
入力できる文字数は、全角で 0 ～ 128、半角で 0 ～ 256 です。



次の文字は使用できません。

コロン (:), カンマ (,), セミコロン (;), アスタリスク (*), クエスチョン (?), ダブルクォート ("), 山かっこ (<>), パイプ (|)

ただし、コロン (:) はドライブ文字には使用できます。

- ユーザー名
[フォルダーの場所を直接入力する] を選択した場合に、選択したフォルダーにアクセスするユーザー名を入力します。
入力できる文字数は、全角で 0 ～ 128、半角で 0 ～ 256 です。



次の文字は使用できません。

スラッシュ (/), 大かっこ ([], ダブルクォート ("), コロン (:), セミコロン (;), パイプ (|), 山かっこ (<>), プラス (+), イコール (=), カンマ (,), クエスチョン (?), アスタリスク (*)

- パスワード
[フォルダーの場所を直接入力する] を選択した場合に、選択したフォルダーにアクセスするときのパスワードを入力します。
入力できる文字数は、全角で 0 ～ 64、半角で 0 ～ 128 です。
- パスワードの確認
[フォルダーの場所を直接入力する] を選択した場合に、確認のためのパスワードを再入力します。

取り込み元＞フォルダー＞フォルダー - サーバーのローカルフォルダーの選択

文書を取り込むフォルダーを選択します。



ここで選択できるフォルダーは、あらかじめ [環境設定] > [初期設定] > [フロー管理の環境設定] > [各機能の設定] 画面で登録されたフォルダーだけです。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

一覧

一覧から、取り込み元に設定するローカルフォルダーを選択します。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

取り込み元＞フォルダー＞フォルダー - フォルダー入力設定（共有フォルダーの場合）

ネットワーク上の PC にある共有フォルダーから文書を取り込むときに、取り込み元のフォルダーを設定します。



取り込み元フォルダーには、読み書き可能なリムーバブルメディアも選択できます。ファイルシステムは、NTFS、FAT、FAT32 に対応しています。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

名称

機能の名前を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ～ 512 です。

入力しないと、取り込み元フォルダーのパスが名前として設定されます。

フォルダーの種類

取り込み元フォルダーの種類を選択します。[サーバーのローカルフォルダー] または [共有フォルダー] が選択できます。

共有フォルダーの場所（必須）

取り込み元フォルダーのパスを、¥ または // で始まる UNC 形式で入力します。

フォルダーの区切り文字には、円 (¥)、またはスラッシュ (/) を使用します。

例：¥hostname¥folder1¥sub1、//192.0.2.1/folder1/sub1

入力できる文字数は、全角で 0 ～ 128、半角で 0 ～ 256 です。

IP アドレスは v4 形式にだけ対応しています。ホスト名に「localhost」は指定できません。また、IP アドレスにループバックアドレスは指定できません。サブメニュー



次の文字は使用できません。

カンマ (,)、セミコロン (;)、アスタリスク (*)、クエスチョン (?)、ダブルクォート (")、山かっこ (<>)、パイプ (|)

ユーザー名（必須）

選択したフォルダーにアクセスするユーザー名を入力します。

入力できる文字数は、全角で 0 ～ 128、半角で 0 ～ 256 です。

[ユーザー名] にドメインを指定する形式は、以下の方法に対応しています。

- DNS 形式
「Domain.co.jp¥user」のように、「ドメイン名 ¥ ユーザー名」の形式で指定します。
- NetBIOS 形式
「DOMAIN¥user」のように、「NetBIOS ドメイン名 ¥ ユーザー名」の形式で指定します。
- UPN 形式
「user@Domain.co.jp」のように、「ユーザー名 @ ドメイン名」の形式で指定します。



次の文字は使用できません。

スラッシュ (/)、大かっこ ([])、ダブルクォート (")、コロンの (:)、セミコロン (;)、パイプ (|)、山かっこ (<>)、プラス (+)、イコール (=)、カンマ (,)、クエスチョン (?)、アスタリスク (*)

パスワード（必須）

選択したフォルダーにアクセスするときのパスワードを入力します。

入力できる文字数は、全角で 0 ～ 64、半角で 0 ～ 128 です。

パスワードの確認（必須）

確認のため、パスワードを再入力します。

ポーリング間隔（3 秒～ 59 分 59 秒）

ポーリング間隔を設定します。初期設定は [1] 分 [0] 秒です。

分は [0] ～ [59] から、秒は [0] ～ [59] から選択します。設定できる範囲は、3 秒～ 59 分 59 秒です。

取り込み元>外部アクセス連携>外部アクセス連携設定

機器の外部アクセス機能を使用して、スキャンした文書を Flow Management に取り込むための、[外部アクセス連携] 機能を設定または変更します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

名称

機能の名前を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ～ 512 です。入力しないと、[外部アクセス] が設定されます。

プレビュー設定

プレビュー設定の既定値を次から選択します。初期設定では、[プレビューしない] が選択されています。

- プレビューする
スキャン結果を機器の操作パネルに表示して確認する場合に選択します。
[出力フォーマット設定] の [フォーマット] で、[PDF] または [DocuWorks] を選択している場合は、選択できません。
- プレビューしない
スキャン結果を機器の操作パネルに表示しない場合に選択します。
- 操作パネルで変更可能にする
機器の操作パネルで、プレビューするかどうかの設定を変更できるようにする場合に、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークが外れています。

スキャン設定

外部アクセス連携を使用して機器でスキャンするときの初期値を指定します。

- カラーモード
初期設定では、[自動] が選択されています。



補足

[白黒] を選択した場合、[出力フォーマット設定] の [高圧縮] は [しない] に固定されます。

- 自動
ページごとに色を判断して、白、黒以外の色が使われているときはカラーに、白、黒だけが使われているときは白黒に切り替えてスキャンします。
- 白黒
白黒でスキャンします。

- 両面原稿送り
初期設定では、[片面] が選択されています。
 - ・ 片面
原稿を片面だけスキャンするときに選択します。
 - ・ 両面（左右開き）
両面原稿のおもてとうらで、イメージの上下が同じ場合に選択します。
 - ・ 両面（上下開き）
両面原稿のおもてとうらで、イメージの上下が逆転している場合に選択します。
- 原稿の画質
初期設定では、[文字] が選択されています。



[写真] を選択した場合、[出力フォーマット設定] の [OCR] は [しない] に固定されます。

- ・ 文字 / 写真
文字と写真が混在した原稿をスキャンするときに選択します。
- ・ 文字
文字の多い原稿をスキャンするときに選択します。
- ・ 写真
写真の多い原稿をスキャンするときに選択します。
- 読み取り解像度
初期設定では、[200dpi] が選択されています。
数値が大きくなるほど、細かくスキャンされますが、データ量は大きくなり、読み込み、および送信に時間がかかります。



[400dpi] または [600dpi] を選択した場合、[出力フォーマット設定] の [高圧縮] と [OCR] は、[しない] に固定されます。

- ・ 200dpi
- ・ 300dpi
- ・ 400dpi
- ・ 600dpi
- 操作パネルで変更可能にする
スキャンするときに、機器の操作パネルで設定を変更できるようにする場合は、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークが外れています。

出力フォーマット設定

スキャンした文書を出力するファイルのフォーマット、および加工方法を指定します。



出力フォーマットの設定値は、機器の操作パネルには表示されません。

- フォーマット
出力するファイルのフォーマットを指定します。初期設定では [TIFF (マルチページ)] が選択されています。
 - ・ TIFF (マルチページ)
[プレビュー設定] の [プレビューする] を選択できます。
[高圧縮]、[OCR]、および [OCR テキスト圧縮] は [しない] で固定されます。
 - ・ DocuWorks
[プレビュー設定] の [プレビューする] は選択できません。
[高圧縮] および [OCR] は [する] か [しない] かを選択できます。[OCR テキスト圧縮] は [しない] で固定されます。
 - ・ PDF
[プレビュー設定] の [プレビューする] は選択できません。
[高圧縮]、[OCR]、および [OCR テキスト圧縮] は [する] か [しない] かを選択できます。

- 高圧縮
高圧縮で出力するかしないかを選択します。初期設定では [しない] が選択されています。
次の条件をすべて満たすときに、[する] を選択できます。
 - ・ [フォーマット] が [PDF] または [DocuWorks]
 - ・ [スキャン設定] の [読み取り解像度] が 300dpi 以下の値
 - ・ [カラーモード] が [自動]
- OCR
スキャンした文書を OCR 処理するかしないかを選択します。初期設定では [しない] が選択されています。
次の条件をすべて満たすときに、[する] を選択できます。
 - ・ [フォーマット] が [PDF] または [DocuWorks]
 - ・ [スキャン設定] の [読み取り解像度] が 300dpi 以下の値
 - ・ [原稿の画質] が [文字 / 写真] または [文字]
- OCR テキスト圧縮
OCR 処理で抽出したテキストを圧縮するかしないかを選択します。初期設定では [しない] が選択されています。
次の条件をすべて満たすときに、[する] を選択できます。
 - ・ [フォーマット] が [PDF]
 - ・ [OCR] が [する]

ファクス設定

- 本体コントロールパネルにファクス番号の入力フィールドを表示する
外部アクセス連携を使用して、本体コントロールパネルにファクス番号の入力フィールドを表示させる場合に、チェックマークを付けます。

フロー属性

文書に設定する属性を指定します。

- ユーザー指定文字列 {1-5}
 - ・ 操作パネル表示名
機器の操作パネルに表示する名前を入力します。入力できる文字数は、全角で0～10、半角で0～20です。



ここで設定するのは、機器の操作パネルでの表示名です。属性名にはなりません。属性名は「ユーザー指定文字列 1」～「ユーザー指定文字列 5」(固定) です。

- ・ 操作パネルで編集する
機器の操作パネルで、文書属性を編集できるようにする場合に、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークは外れています。
- ・ 既定値
文書属性の既定値を設定します。入力できる文字数は、全角で 0 ～ 32、半角で 0 ～ 64 です。



[操作パネルで編集する] のチェックマークが外れている場合は、文書属性の「ユーザー指定文字列 {1 ～ 5}」に既定値は設定されません。

取り込み元>ボックス>ボックス - ボックス入力設定

[ボックス] 機能を設定または変更します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

名称

機能の名前を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ～ 512 です。

入力しないと、「{機種名}（{IP アドレス / ホスト名}）{ボックス番号リスト}」が設定されます。

{ボックス番号リスト} には、一覧で選択したボックスのボックス番号が、カンマ区切りで表示されます。

機器

- 機器名
[機器選択] をクリックして選択した、機器の機器名が表示されます。
- [機器選択]
機器名を選択するときにクリックします。[機器の追加：ボックス入力設定] 画面に移動します。機器は必ず選択します。
- 機種名（IP アドレスまたはホスト名）
選択した機器の機種名と、IP アドレスまたはホスト名が表示されます。

ボックス

文書を取り込むボックスを選択します。ボックスは必ず指定します。

- [+ ボックス一覧から追加]
ボックス一覧から、監視するボックスを追加したいときに、クリックします。
[ボックス - ボックス一覧から追加] 画面に移動します。



ボックスを追加する前に、機器を選択する必要があります。

- [+ ボックスを指定して追加]
ボックス番号を指定して、監視するボックスを追加したいときに、クリックします。
[ボックス - ボックスを指定して追加] 画面に移動します。



ボックスを追加する前に、機器を選択する必要があります。

- [X 削除]
一覧でチェックマークを付けたボックスを削除します。
- 一覧
 - ・ ボックス番号
追加したボックス番号が表示されます。
 - ・ ボックス名称
追加したボックス名が表示されます。
 - ・ アイコン
 (アクセス情報変更)
ボックスの暗証番号とパスワード、および認証モードで機器にアクセスするためのアカウント情報を変更する場合にクリックします。[ボックス - アクセス情報変更] 画面に移動します。
 (削除)
クリックすると、一覧でチェックマークを付けたボックスを削除します。
- 共通の項目
「画面について」を参照してください。

待機間隔

ボックスを監視する間隔を指定します。

[0] 分 [10] 秒から [60] 分 [00] 秒までの間隔を指定します。分は [0] ～ [60] から、秒は [0]、[10]、[20]、[30]、[40] または [50] から選択します。初期設定は [1] 分 [0] 秒です。



複数の【ボックス】機能で異なる値が設定された場合は、最後に設定された値が有効になります。

エラー通知の設定

電源オフなどの原因で機器にアクセスできない場合に、フローの新規作成【エラー通知】タブで設定したエラー通知設定に従ってエラーを通知するときは、【機器の電源が入っていないときエラー通知を使用する】にチェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークが付いています。

エラー通知の設定は、機能ごとに設定できます。

エラーとなった文書のジョブ実行設定

ボックスからの文書の取り込みでエラーが発生した場合でも、取り込んだ文書を実行するときは、【文書取り込みでエラー（処理エラーや文書不具合）となった場合でも、取り込んだ文書をジョブ実行する】にチェックマークを付けます。

初期設定では、チェックマークは外れています。

取り込みに関するエラーが発生すると、Flow Management は取得できた分の文書をもとにジョブを作成し、【異常終了】ジョブとして処理します。このとき、この設定を有効にしておくと、異常終了したジョブの加工処理以降の処理が実行されます。



ボックスから取り込んだイメージが不完全でも、この設定を有効にすると、処理が実行されます。ただし、取得した文書に不正なイメージデータが含まれている可能性もあるので、それ以降の処理でエラーになったり、正常終了しても文書の一部が欠落していたりすることがあります。

取り込み元＞ボックス＞機器の追加：ボックス入力設定

機器の情報を追加する方法を選択します。

【次へ】

次のどれかの画面に移動します。

- 【すでにデータベースに登録されている機器から追加する】を選択したとき
【機器の追加 - データベースに登録されている機器から追加】画面に移動します。
- 【ネットワークを検索して追加する】を選択したとき
【機器の追加 - ネットワークを検索して追加】画面に移動します。
- 【IP アドレス / ホスト名を直接指定して追加する】を選択したとき
【機器の追加 - IP アドレス / ホスト名を直接指定して追加】画面に移動します。

【キャンセル】

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

機器の追加方法

機器の追加方法を次から選択します。

- すでにデータベースに登録されている機器から追加する
ApeosWare Management Suite のデータベースに登録されている機器の情報から選択して追加するときに、選択します。
- ネットワークを検索して追加する
ネットワークに接続された機器を検索して追加するときに、選択します。
- IP アドレス / ホスト名を直接指定して追加する
IP アドレスまたはホスト名を指定して機器を追加するときに、選択します。

取り込み元＞ボックス＞機器の追加 - データベースに登録されている機器から追加

ApeosWare Management Suite のデータベースに登録されている機器の情報から、機器グループに追加するものを選択します。

すでに追加されている機器の情報は、選択できません。

[戻る]

元のページに戻ります。

[追加]

一覧でチェックマークを付けた機器を追加して、機器を選択する画面に戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、機器を選択する画面に戻ります。

一覧

- 機器名
アイコンと機器名が表示されます。
- IP アドレス / ホスト名
IP アドレスまたはホスト名が表示されます。
- 機種名
機種名が表示されます。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

取り込み元>ボックス>機器の追加 - ネットワークを検索して追加

ネットワーク上の機器を検索します。

[戻る]

元のページに戻ります。

[検索]

検索を開始するときにクリックします。

【機器の検索中】画面に移動します。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

プロトコル設定

検索する SNMP プロトコルを設定します。[SNMP v1/v2] または [SNMP v3] から選択します。

- [SNMP v1/v2] を選択したとき
 - ・ コミュニティー名（取得専用）
SNMP v1 または v2 で情報を取得するためのコミュニティ名を入力します。
入力できる文字数は、半角で 1 ～ 32 です。
初期値はセキュリティのため、表示されません。
空欄の場合は、弊社製または富士ゼロックス社製機器の工場出荷時の値が使用されます。
 - ・ コミュニティー名（取得 / 書き込み用）
SNMP v1 または v2 で、情報を取得または書き込むためのコミュニティ名を入力します。
入力できる文字数は、半角で 1 ～ 32 です。
初期値はセキュリティのため、表示されません。
空欄の場合は、弊社製または富士ゼロックス社製機器の工場出荷時の値が使用されます。



弊社製または富士ゼロックス社製以外の機器の場合は、入力しないと機器の状態を取得できません。必ず入力してください。

- [SNMP v3] を選択したとき
 - ・ ユーザー名
機器にアクセスするユーザー名を入力します。
入力できる文字数は、半角の英数字で 0 ～ 128 です。
初期値はセキュリティのため、表示されません。
空欄の場合は、弊社製または富士ゼロックス社製機器の工場出荷時の値が使用されます。
 - ・ メッセージダイジェスト方式
SNMP v3 の認証用プロトコルを、[MD5] と [SHA-1] のどちらかを選択します。
初期値は [MD5] です。
 - ・ 認証用パスワード
機器にアクセスするときの認証用パスワードを入力します。
入力できる文字数は、ASCII コードの文字で 8 ～ 32 です。
初期値はセキュリティのため、表示されません。
空欄の場合は、弊社製または富士ゼロックス社製機器の工場出荷時の値が使用されます。
 - ・ 本文の暗号化方式
SNMP v3 の暗号化用プロトコルを、[DES] と [AES-128] のどちらかを選択します。
初期値は [DES] です。
 - ・ 暗号化用パスワード
暗号化用パスワードを入力します。
入力できる文字数は、ASCII コードの文字で 8 ～ 32 です。
初期値はセキュリティのため、表示されません。
空欄の場合は、弊社製または富士ゼロックス社製機器の工場出荷時の値が使用されます。

サブネットアドレスの追加

- ブロードキャストアドレス / マルチキャストアドレス
検索対象のサブネットアドレスを入力します。
入力できる文字数は、半角の英数字で 0 ～ 256 です。
 - ・ IPv4 の場合
192.0.2.1 のように、ピリオドで区切った 4 つの 10 進数を入力します。
ピリオドとピリオドの間に入力できる値は、半角の数字で 0 ～ 255 です。
先頭には 127 以外で、かつ 223 以下の数を入力できます。
 - ・ IPv6 の場合
2001:DB8:1:1:1:1:1:1 のように、コロンで区切った 16 進数を入力します。
リンクローカルアドレス（先頭が fe80）、グローバルユニキャストアドレス（先頭が fd00）、およびユニークローカルアドレス（先頭の 3 ビットが 001）を指定できます。
- [追加]
[検索するサブネット] に表示されたネットワークアドレスが 4 個以下のときに、ネットワークアドレスを追加します。
- 検索するサブネット
[追加] をクリックしたときに、ネットワークアドレスが表示されます。
ネットワークアドレスを削除したいときは、ネットワークアドレスをクリックします。
- [削除]
[検索するサブネット] で選択されたネットワークアドレスを削除します。

検索時間

- タイムアウト時間（必須）

タイムアウト時間を秒で設定します。
入力できる値は、半角の数字で 1 ～ 60 です。
初期値は [10] です。

取り込み元>ボックス>機器の検索中

機器を検索していることを示します。

プログレスバー

機器を検索していることを示します。

[キャンセル]

機器の検索を中止して、元のページに戻ります。

取り込み元>ボックス>機器の検索結果 - ネットワークから検索して追加

ネットワーク上の機器の検索結果を表示します。

[戻る]

元のページに戻ります。

[次へ]

一覧でチェックマークを付けた機器を追加して、[機器との通信設定 - ネットワークから検索して追加] 画面に移動します。

[キャンセル]

検索した機器を追加しないで、元のページに戻ります。

追加時に IP アドレスをホスト名に変換する

チェックマークを付けると、IP アドレスをホスト名に変換して機器が追加されます。

ただし、変換できないときは IP アドレスのまま追加されます。

初期状態では、チェックマークが外れています。

一覧

- IPv4 アドレス
IPv4 アドレスが表示されます。
- IPv6 アドレス
IPv6 アドレスが表示されます。
- IPv6 優先
IPv4、IPv6 アドレスの両方が取得された場合に表示されます。
IPv4、IPv6 アドレスの両方を取得して、機器を追加する場合に IPv6 プロトコルを使用するときに、チェックマークを付けます。
- 機種名
機種名が表示されます。
- 登録状態
ApeosWare Management Suite のデータベースに登録されているかいないかが表示されます。
[登録済み] または [未登録] が表示されます。
[未登録] の場合だけ、一覧の左端にチェックボックスが表示されます。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

取り込み元>ボックス>機器との通信設定 - ネットワークから検索して追加

ApeosWare Management Suite と機器が通信するための情報を設定します。

機器には設定されません。

[戻る]

元のページに戻ります。

[追加]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

機械管理者情報の設定

- 機械管理者 ID（必須）
機械管理者 ID を 32 文字以内で入力します。
初期値は [111111] です。
- パスワード
機械管理者 ID のパスワードを入力します。
入力できる文字数は、ASCII コードの文字で 4 ～ 32 です。
初期値は [admin] です。

プロトコル設定

検索する SNMP プロトコルを設定します。[SNMP v1/v2] または [SNMP v3] から選択します。

- [SNMP v1/v2] を選択したとき
 - ・ コミュニティー名（取得専用）
SNMP v1 または v2 で情報を取得するためのコミュニティ名を入力します。
入力できる文字数は、半角で 1 ～ 32 です。
初期値はセキュリティのため、表示されません。
空欄の場合は、弊社製または富士ゼロックス社製機器の工場出荷時の値が使用されます。
 - ・ コミュニティー名（取得 / 書き込み用）
SNMP v1 または v2、情報を取得または書き込むためのコミュニティ名を入力します。
入力できる文字数は、半角で 1 ～ 32 です。
初期値はセキュリティのため、表示されません。
空欄の場合は、弊社製または富士ゼロックス社製機器の工場出荷時の値が使用されます。



補足

弊社製または富士ゼロックス社製以外の機器の場合は、入力しないと機器の状態を取得できないので、必ず入力してください。

- [SNMP v3] を選択したとき
 - ・ ユーザー名
機器にアクセスするユーザー名を入力します。
入力できる文字数は、半角の英数字で 0 ～ 128 です。
初期値はセキュリティのため、表示されません。
空欄の場合は、弊社製または富士ゼロックス社製機器の工場出荷時の値が使用されます。
 - ・ メッセージダイジェスト方式
SNMP v3 の認証用プロトコルを、[MD5] と [SHA-1] のどちらかを選択します。
初期値は [MD5] です。
 - ・ 認証用パスワード
機器にアクセスするときの認証用パスワードを入力します。
入力できる文字数は、ASCII コードの文字で 8 ～ 32 です。

初期値はセキュリティーのため、表示されません。

空欄の場合は、弊社製または富士ゼロックス社製機器の工場出荷時の値が使用されます。

- ・ 本文の暗号化方式
SNMP v3 の暗号化用プロトコルを、[DES] と [AES-128] のどちらかを選択します。
初期値は [DES] です。
- ・ 暗号化用パスワード
暗号化用パスワードを入力します。
入力できる文字数は、ASCII コードの文字で 8 ～ 32 です。
初期値はセキュリティーのため、表示されません。
空欄の場合は、弊社製または富士ゼロックス社製機器の工場出荷時の値が使用されます。

通信タイムアウト時間の設定

- SNMP
通信タイムアウト時間（秒）を次の値から選択します。
初期値は [3] です。
 - ・ 2
 - ・ 3
 - ・ 5
 - ・ 10
- [既定値に戻す]
[SNMP] を、初期値の [3] に戻します。

ポートの設定

- SOAP ポート番号（必須）
機器の SOAP ポートと通信するときのポート番号を入力します。
入力できる値は、半角の数字で 1 ～ 65535 です。
初期値は [80] です。
- SNMP ポート番号（必須）
機器と SNMP 通信するときのポート番号を入力します。
入力できる値は、半角の数字で 1 ～ 65535 です。
初期値は [161] です。

取り込み元＞ボックス＞機器の追加 - IP アドレス / ホスト名を直接指定して追加

機器の情報を追加します。

[戻る]

元のページに戻ります。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

タブ

機器に追加する情報を選択します。

- [基本情報] タブ
IP アドレス、設置場所などの基本的な情報を設定するときに選択します。
機器の追加 - IP アドレス / ホスト名を直接指定して追加 [基本情報] タブに移動します。
- [通信設定] タブ
ApeosWare Management Suite と機器が通信するための情報を設定するときに選択します。

機器の追加 - IP アドレス / ホスト名を直接指定して追加 [通信設定] タブに移動します。

- [監視設定] タブ

機器の状態の更新に関する情報を設定するときに選択します。

機器の追加 - IP アドレス / ホスト名を直接指定して追加 [監視設定] タブに移動します。

取り込み元>ボックス>機器の追加 - IP アドレス / ホスト名を直接指定して追加 [基本情報] タブ

機器の追加 - IP アドレス / ホスト名を直接指定して追加

機器の追加 - IP アドレス / ホスト名を直接指定して追加を参照してください。

[基本情報] タブ

- IP アドレス / ホスト名 (必須)

機器の IP アドレスまたはホスト名を入力します。

- IP アドレス (IPv4 の場合)

192.0.2.1 のように、ピリオドで区切った 4 つの 10 進数を入力します。
ピリオドとピリオドの間に入力できる値は、半角の数字で 0 ~ 255 です。
先頭には 127 以外で、かつ 223 以下の数を入力できます。

- IP アドレス (IPv6 の場合)

2001:DB8:1:1:1:1:1:1 のように、コロンで区切った 16 進数を入力します。
リンクローカルアドレス (先頭が fe80)、グローバルユニキャストアドレス (先頭が fd00)、およびユニークローカルアドレス (先頭の 3 ビットが 001) を指定できます。

- ホスト名

入力できる文字数は、ASCII コードの文字で 1 ~ 256 です。

- 機器名 (必須)

ApeosWare Management Suite の内部で使用する機器名を入力します。

入力できる文字数は、全角で 1 ~ 128、半角で 1 ~ 256 です。

取り込み元>ボックス>機器の追加 - IP アドレス / ホスト名を直接指定して追加 [通信設定] タブ

ApeosWare Management Suite と機器が通信するための情報を、設定します。

機器には設定されません。

機器の追加 - IP アドレス / ホスト名を直接指定して追加

機器の追加 - IP アドレス / ホスト名を直接指定して追加を参照してください。

[通信設定] タブ

- 機械管理者情報の設定

- 機械管理者 ID (必須)

機械管理者 ID を 32 文字以内で入力します。
初期値は [11111] です。

- パスワード

機械管理者 ID のパスワードを入力します。
入力できる文字数は、ASCII コードの文字で 4 ~ 32 です。
初期値は [admin] です。

- プロトコル設定

検索する SNMP プロトコルを設定します。[SNMP v1/v2] または [SNMP v3] から選択します。

- ・ [SNMP v1/v2] を選択したとき
 - ・ コミュニティー名（取得専用）
SNMP v1 または v2 で情報を取得するためのコミュニティー名を入力します。
入力できる文字数は、半角で 1 ～ 32 です。
初期値はセキュリティのため、表示されません。
空欄の場合は、弊社製または富士ゼロックス社製機器の工場出荷時の値が使用されます。
 - ・ コミュニティー名（取得 / 書き込み用）
SNMP v1 または v2、情報を取得または書き込むためのコミュニティー名を入力します。
入力できる文字数は、半角で 1 ～ 32 です。
初期値はセキュリティのため、表示されません。
空欄の場合は、弊社製または富士ゼロックス社製機器の工場出荷時の値が使用されます。



補足

弊社製または富士ゼロックス社製以外の機器の場合は、入力しないと機器の状態を取得できないので、必ず入力してください。

- ・ [SNMP v3] を選択したとき
 - ・ ユーザー名
機器にアクセスするユーザー名を入力します。
入力できる文字数は、半角の英数字で 0 ～ 128 です。
初期値はセキュリティのため、表示されません。
空欄の場合は、弊社製または富士ゼロックス社製機器の工場出荷時の値が使用されます。
 - ・ メッセージダイジェスト方式
SNMP v3 の認証用プロトコルを、[MD5] と [SHA-1] のどちらかを選択します。
初期値は [MD5] です。
 - ・ 認証用パスワード
機器にアクセスするときの認証用パスワードを入力します。
入力できる文字数は、ASCII コードの文字で 8 ～ 32 です。
初期値はセキュリティのため、表示されません。
空欄の場合は、弊社製または富士ゼロックス社製機器の工場出荷時の値が使用されます。
 - ・ 本文の暗号化方式
SNMP v3 の暗号化用プロトコルを、[DES] と [AES-128] のどちらかを選択します。
初期値は [DES] です。
 - ・ 暗号化用パスワード
暗号化用パスワードを入力します。
入力できる文字数は、ASCII コードの文字で 8 ～ 32 です。
初期値はセキュリティのため、表示されません。
空欄の場合は、弊社製または富士ゼロックス社製機器の工場出荷時の値が使用されます。

- 通信タイムアウト時間の設定

- ・ SNMP
通信タイムアウト時間（秒）を次の値から選択します。
初期値は [3] です。
 - ・ 2
 - ・ 3
 - ・ 5
 - ・ 10

- ・ [既定値に戻す]
[SNMP] を、初期値の [3] に戻します。

- ポートの設定

- ・ SOAP ポート番号（必須）
機器の SOAP ポートと通信するときのポート番号を入力します。
入力できる値は、半角の数字で 1 ～ 65535 です。
初期値は [80] です。

- ・ SNMP ポート番号（必須）
機器と SNMP 通信するときのポート番号を入力します。
入力できる値は、半角の数字で 1 ～ 65535 です。
初期値は [161] です。

取り込み元>ボックス>機器の追加 - IP アドレス / ホスト名を直接指定して追加 [監視設定] タブ

機器の状態の更新に関する情報を設定します。

機器の追加 - IP アドレス / ホスト名を直接指定して追加

機器の追加 - IP アドレス / ホスト名を直接指定して追加を参照してください。

[監視設定] タブ

- 状態監視
状態監視をするかしないかを選択します。
初期値は [する] です。
[しない] に設定すると、[すべての機器] などの画面で、機器の状態が更新されなくなります。
 - ・ する
 - ・ しない
- 監視間隔（必須）
状態監視を [する] に設定したとき設定できます。
監視間隔を入力します。
入力できる値は、半角の数字で 1 ～ 1440 です。
初期値は [10] です。
- 機器状態の変更通知（SNMP トラップ）を受け取った場合、機器状態を取得する
状態監視を [する] に設定したとき設定できます。
機器から状態の変更通知（SNMP トラップ）を受け取ったときに、機器状態を取得する場合は、チェックマークを付けます。

取り込み元>ボックス>ボックス - ボックス一覧から追加

監視対象にするボックスを一覧から追加します。ボックスは、100 まで追加できます。

[追加]

ボックス一覧で選択したボックスを監視対象にする場合にクリックします。ボックスを追加して、[ボックス - ボックス入力設定] 画面に戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

機器

- 機器名
ボックスを追加する機器の機器名が表示されます。
- 機種名（IP アドレスまたはホスト名）
ボックスを追加する機器の機種名と、IP アドレス、または FQDN 形式のホスト名（ホスト名に続けて、ドメイン名まで省略しないで記述する形式）が表示されます。
たとえば、IPv6 の場合は「2001:DB8:1:1:1:1:1:1」のように表示されます。

[ボックス一覧表示]

ボックスを検索するときに、クリックします。[ボックス - ボックス検索中] 画面が表示されます。検索が終了すると、一覧に、機器に登録されているボックスが表示されます。

ボックス一覧

機器に登録されているボックスが一覧で表示されます。

- ボックス番号
ボックス番号が表示されます。
- ボックス名称
ボックスの名前が表示されます。
- 暗証番号 / パスワード
実際のパスワードの有無に関係なく、「*****」が表示されます。
- 機器アクセス用 UserID
[ボックス - アクセス情報設定] 画面の [機器にアクセスするためのアカウント] で設定した UserID が表示されます。UserID を設定していない場合は、空欄になります。
- 機器アクセス用パスワード
[ボックス - アクセス情報設定] 画面の [機器にアクセスするためのアカウント] で UserID を設定した場合は、「*****」が表示されます。
- アイコン
 (アクセス情報設定)
選択したボックスに [暗証番号 / パスワード] が設定されていた場合や、認証モードで機器にアクセスするためのアカウント情報が必要な場合にクリックします。[ボックス - アクセス情報設定] 画面に移動します。



アカウント情報の設定が必要なボックスに対して、アカウント情報を設定しないで [OK] をクリックすると、エラーが表示されます。このときは、[ボックス - アクセス情報設定] 画面で、アカウント情報を設定してください。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

取り込み元>ボックス>ボックス - ボックス検索中

ボックスの検索処理の状況が表示されます。

プログレスバー

ボックスを検索していることを示します。

[キャンセル]

ボックスの検索を中止して、元のページに戻ります。

取り込み元>ボックス>ボックス - アクセス情報設定

ボックスの暗証番号とパスワード、および認証モードで機器にアクセスするためのアカウント情報を設定または変更します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

機器

- 機器名
ボックスのある機器の機器名が表示されます。
- 機種名 (IP アドレスまたはホスト名)
ボックスのある機器の機種の機種名と、IP アドレス、または FQDN 形式のホスト名 (ホスト名に続けて、ドメイン名まで省略しないで記述する形式) が表示されます。

ボックス番号 (ボックス名称)

ボックス番号とボックスの名前が表示されます。

暗証番号 / パスワード

ボックスに暗証番号またはパスワードが設定されている場合に、その暗証番号またはパスワードを入力します。入力できる文字数は、半角で 0 ～ 50 です。

機器にアクセスするためのアカウント

- User ID
ボックスにアクセスするためのアカウントの User ID を入力します。入力できる文字数は、半角で 0 ～ 64 です。機器が認証モードの場合、または [パスワード] が入力されている場合は、必須です。
- パスワード
ボックスにアクセスするためのアカウントのパスワードを入力します。入力できる文字数は、半角で 0 ～ 50 です。[User ID] を設定した場合は、パスワードも必須です。

取り込み元> ボックス> ボックス - ボックス追加中

ボックスの追加処理の状況が表示されます。

プログレスバー

ボックスを追加していることを示します。

[キャンセル]

ボックスの追加を中止して、元のページに戻ります。

取り込み元> ボックス> ボックス - ボックスを指定して追加

監視対象にするボックスを指定して追加します。ボックスは、100 個まで追加できます。

[追加]

一覧で選択したボックスを、監視する場合にクリックします。[ボックス - ボックス追加中] 画面に移動します。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

機器情報

- 機器名
[ボックス - 機器選択] 画面で選択した機器の機器名が表示されます。
- 機種名 (IP アドレスまたはホスト名)
[ボックス - 機器選択] 画面で選択した機器の機種名が表示されます。
たとえば、IPv6 の場合は「2001:DB8:1:1:1:1:1:1」のように表示されます。

ボックス情報

- ボックス番号を指定する
追加するボックスのボックス番号を指定します。3 桁まで指定できます。

- 暗証番号 / パスワード
ボックスに暗証番号またはパスワードが設定されている場合に、その暗証番号またはパスワードを入力します。入力できる文字数は、半角で 0 ～ 50 です。

機器にアクセスするためのアカウント

- User ID
ボックスにアクセスするアカウントの User ID を設定します。入力できる文字数は、半角で 0 ～ 64 です。機器が認証モードの場合は、必須です。
- パスワード
ボックスにアクセスするアカウントのパスワードを設定します。入力できる文字数は、半角で 0 ～ 50 です。[User ID] を設定した場合は、必須です。

[一覧に追加]

指定したボックスを、追加するボックス一覧に追加します。

追加するボックス一覧

- [✕削除] 一覧からボックスを削除する場合にクリックします。
- ボックス番号
追加したボックスのボックス番号が表示されます。
- ボックス名称
追加したボックスの名前が表示されます。
- 暗証番号 / パスワード
実際のパスワードの有無に関係なく、「*****」が表示されます。
- UserID
[機器にアクセスするためのアカウント] で設定した UserID が表示されます。UserID を設定していない場合は、空欄になります。
- パスワード
[機器にアクセスするためのアカウント] で UserID を設定した場合は、「*****」が表示されます。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

取り込み元>ボックス>ボックス - 機器選択

機器を選択します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

[機器の追加]

[機器の追加：ボックス入力設定] 画面に移動します。機器を追加するには、システム管理の権限、または機器の管理権限が必要です。

一覧

- 機器名
検索された機器の機器名が表示されます。
- IP アドレス / ホスト名
検索された機器の IP アドレス、または FQDN 形式のホスト名（ホスト名に続けて、ドメイン名まで省略

しないで記述する形式)が表示されます。
たとえば、IPv6 の場合は「2001:DB8:1:1:1:1:1:1」のように表示されます。

- 機種名
検索された機器の機種名が表示されます。
- 設置場所
検索された機器の設置場所が表示されます。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

取り込み元>ボックス>ボックス - アクセス情報変更

ボックスの暗証番号とパスワード、および認証モードで機器にアクセスするためのアカウント情報を設定または変更します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

機器

- 機器名
ボックスのある機器の機器名が表示されます。
- 機種名 (IP アドレスまたはホスト名)
ボックスのある機器の機種の機種名と、IP アドレス、または FQDN 形式のホスト名 (ホスト名に続けて、ドメイン名まで省略しないで記述する形式)が表示されます。

ボックス番号 (ボックス名称)

ボックス番号とボックスの名前が表示されます。

暗証番号 / パスワード

ボックスに暗証番号またはパスワードが設定されている場合に、その暗証番号またはパスワードを入力します。入力できる文字数は、半角で 0 ～ 50 です。

機器にアクセスするためのアカウント

- User ID
ボックスにアクセスするためのアカウントの User ID を入力します。入力できる文字数は、半角で 0 ～ 64 です。機器が認証モードの場合、または [パスワード] が入力されている場合は、必須です。
- パスワード
ボックスにアクセスするためのアカウントのパスワードを入力します。入力できる文字数は、半角で 0 ～ 50 です。[User ID] を設定した場合は、パスワードも必須です。

取り込み元>ボックス>ボックスプロパティ

設定した [ボックス] 機能の情報を表示します。

[戻る]

元のページに戻ります。

その他の項目

[ボックス - ボックス入力設定] 画面で設定した項目の内容が表示されます。

加工方法＞ QR コードリーダー＞ QR コードリーダー - 読み取り設定

取り込んだ文書のイメージから QR コードを読み取って処理するための設定をします。



この機能を使用するには、Paper Form & QR Code Reader Option が必要です。

この機能は、Flow Management サーバーが設置された OS の初期設定言語が日本語のときだけ使用できます。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

名称

機能の名前を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ～ 512 です。入力しないと、「QR コードリーダー」が設定されます。

読み取り範囲

- 全ページにわたって QR コードを読み取る
すべてのページの QR コードを読み取る場合に選択します。
- 指定したページの QR コードを読み取る
指定したページの QR コードを読み取る場合に選択します。
 - ・ ページ
QR コードを読み取るページ番号を入力します。入力できる値は、半角の数字で、1 ～ 999 までと、カンマ (,) またはハイフン (-) です。入力できる文字数は、0 ～ 100 です。複数のページ番号を入力する場合は、カンマ (,) で区切ります。連続したページ番号を入力する場合は、最初のページと最後のページをハイフン (-) で区切ります。

読み取り設定

- 標準
標準の認識率で読み取る場合に選択します。
- 認識率優先
認識率を向上する場合に選択します。[標準] を選択したときより、認識処理にかかる時間が増加します。

ページの読み取り結果の間に区切り文字を挿入する

文書名の要素と要素の間に区切り文字を挿入する場合に、チェックマークを付けます。

- 区切り文字
[ページの読み取り結果の間に区切り文字を挿入する] にチェックマークを付けたときの、区切り文字を入力します。入力できる文字数は、半角の文字で 1 です。

文書加工処理

- QR コードが読み取られたページの前で文書分割する
QR コードが認識されたページの前で文書を分割する場合に、チェックマークを付けます。
- QR コードの向きへ自動正立する
 - ・ QR コードが読み取られたページ以降を自動正立する
QR コードが読み取られたページ以降のページだけに、QR コードが読み取られたページの向きへ自動正立する処理をする場合に選択します。
 - ・ QR コードが読み取られたページのみ自動正立する
QR コードが読み取られたページだけに、QR コードが読み取られたページの向きへ自動正立する処理をする場合に選択します。

- QR コードが読み取られたページを削除する
QR コードが認識されたページを削除する場合に、チェックマークを付けます。

読み取った QR コードを分割して出力する

読み取った QR コードの内容を分割して出力する場合に、チェックマークを付けます。

[QR コードの分割設定]

「読み取った QR コードを分割して出力する」にチェックマークを付けた場合に、QR コードの分割出力の属性を設定します。[QR コードリーダー - 分割設定] 画面に移動します。

加工方法＞ QR コードリーダー＞ QR コードリーダー - 分割設定

QR コードの認識データを分割する場合の設定をします。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

分割対象の QR コード

分割対象の QR コードを、次のどちらかから選択します。初期設定では、[文書中最初に読み取られた QR コード] が選択されています。

- 文書中最初に読み取られた QR コード
- 文書全体の QR コードを連結したもの

分割方法

分割対象の QR コードをどのように分割するかを選択します。初期設定では、[CSV フォーマットデータとして分割する] が選択されています。

- CSV フォーマットデータとして分割する
CSV フォーマットとして分割する場合に選択します。
- 区切り文字を以下から指定して分割する
区切り文字を指定して分割する場合に選択し、使用する区切り文字にチェックマークを付けます。
区切り文字に[その他]を選択した場合は、区切り文字を入力します。入力できる文字数は、半角で 1 です。
- 区切り文字を指定しない
区切り文字を使用しないで、分割対象の QR コードの認識データを、抽出開始位置、抽出時の最大長で切り出し、出力する場合に選択します。

出力属性（必須）

分割対象の QR コードの認識データを、どのような形で属性値として出力するかを表示します。

-  追加
出力属性を新規に追加する場合にクリックします。[QR コードリーダー-出力属性設定] 画面に移動します。
-  削除
選択した出力属性を削除する場合にクリックします。
-  上へ移動
選択した出力属性が 1 つ上へ移動します。
-  下へ移動
選択した出力属性が 1 つ下へ移動します。
- 一覧

- ・ [QR コードリーダー - 出力属性設定] 画面で設定した、[取得カラム番号]、[属性の表示名]、[抽出開始位置]、[抽出時の最大長]、[値が取得できなかったときの値] が表示されます。
- ・ アイコン
 (編集)：クリックすると、[QR コードリーダー - 出力属性設定] 画面に移動します。
 (削除)：クリックすると、出力属性を削除します。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

加工方法＞ QR コードリーダー＞ QR コードリーダー - 出力属性設定

認識された QR コードから抽出した文字列を分割し、分割した文字列を個々の属性として出力するための設定をします。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

取得カラム番号（必須）

区切り文字による分割を行った後の認識データの、何カラム目を属性として取得するかを設定します。入力できる値は、半角の数字で 1 ～ 10000 です。初期設定は [1] です。[QR コードリーダー - 分割設定] 画面で、[区切り文字を指定しない] にチェックマークが付いている場合は、この項目は設定できません。

属性の表示名（必須）

属性の表示名を入力します。入力できる文字数は、0 ～ 20 です。

分割出力属性の抽出開始位置を指定する

取得した文字列の抽出開始位置を指定する場合に、チェックマークを付け、[抽出開始位置] を入力します。

- 抽出開始位置
取得したカラムのうち、何バイト目からを属性として切り出すかを指定します。入力できる値は、半角で 1 ～ 4096 です。

抽出時の最大長を指定する

抽出時の最大長を指定する場合に、チェックマークを付け、[抽出時の最大長] を入力します。

- 抽出時の最大長
抽出開始位置から何バイト分を属性として切り出すかを指定します。入力できる値は、半角で 1 ～ 256 です。

値が取得できなかったときの値（必須）

カラムが存在しない場合、または抽出開始位置が取得カラムの長さを超えている場合に、属性値として使用する値を設定します。入力できる文字数は、半角で 0 ～ 256 です。なお、カラムにデータが含まれなかった場合には、空文字として属性を出力します。この場合は、[値が取得できなかったときの値] が設定されていても、無効になります。

加工方法＞フォーマット変換＞フォーマット変換 - フォーマット変換設定（TIFF 変換の場合）

文書を TIFF ファイルに変換します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

フォーマット

変換後のフォーマットを、[TIFF]、[JPEG]、[TIFF/JPEG 混在]、[DocuWorks 文書] または [PDF] から選択します。

名称

機能の名前を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ～ 512 です。入力しないと、「TIFF 変換」が設定されます。

カラーモード

変換後のカラーモードを、[白黒]、[グレースケール]、[カラー] または [カラー白黒混在] から選択します。変換後のフォーマットによって、選択できるカラーモードが異なります。初期設定では、[白黒] が選択されています。

ファイル形式

TIFF のファイル形式を指定します。[TIFF(シングルページ)]、[TIFF(マルチページ)]、[TIFF-FX Profile S]、[TIFF-FX Profile F]、[TIFF-FX Profile J] または [TIFF-FX Profile C] から選択します。初期設定では、[TIFF(マルチページ)] が選択されています。

圧縮方式 (カラー)

カラーイメージを出力するときの圧縮方式を指定します。ファイル形式に [TIFF(マルチページ)] または [TIFF-FX Profile C]、カラーモードに [グレースケール] または [カラー] を選択した場合に指定できます。[圧縮なし]、[Packbits]、[高画質 (JPEG6)]、[高画質 (JPEG7)]、[標準 (JPEG6)]、[標準 (JPEG7)]、[高圧縮 (JPEG6)] または [高圧縮 (JPEG7)] から選択します。初期設定では、[標準 (JPEG6)] が選択されています。

圧縮方式 (白黒)

白黒イメージを出力するときの圧縮方式を指定します。カラーモードに [白黒] または [カラー白黒混在] を選択した場合に指定できます。[G4]、[G3MH]、[G3MR]、[JBIG]、[Packbits] または [圧縮なし] から選択します。ファイル形式によって、初期設定および選択できる項目が異なります。

画質を優先して変換する

変換元の文書が DocuWorks 文書の場合に、シェードがつぶれたりしない高画質な TIFF イメージに変換するときに、チェックマークを付けます。カラーモードに [白黒] または [カラー白黒混在] を選択した場合に指定できます。初期設定では、チェックマークは外れています。

DocuWorks 文書から取得するイメージの解像度上限

変換元の文書が DocuWorks 文書の場合に、DocuWorks 文書から抽出されるイメージの解像度の上限値を指定します。[しない]、[100] dpi、[200] dpi、[300] dpi、[400] dpi、[500] dpi、または [600] dpi から選択します。初期設定では、[しない] が選択されています。

イメージを白黒変換する際に発生するモアレまたはノイズを消去する

白黒変換するときにハイライト処理をするかどうかを指定します。[しない]、[弱く]、または [強く] から選択します。初期設定では、[しない] が選択されています。

加工方法＞フォーマット変換＞フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (JPEG 変換の場合)

文書を JPEG ファイルに変換します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

フォーマット

変換後のフォーマットを、[TIFF]、[JPEG]、[TIFF/JPEG 混在]、[DocuWorks 文書]、または [PDF] から選択します。

名称

機能の名前を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ～ 512 です。入力しないと、「JPEG 変換」が設定されます。

画質と圧縮率

[高圧縮]、[標準] または [高画質] から選択します。初期設定では、[標準] が選択されています。

カラーモード

[カラー] または [グレースケール] から選択します。初期設定では、[カラー] が選択されています。

加工方法＞フォーマット変換＞フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (TIFF/JPEG 変換の場合)

文書を TIFF と JPEG が混在したファイルに変換します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

フォーマット

変換後のフォーマットを、[TIFF]、[JPEG]、[TIFF/JPEG 混在]、[DocuWorks 文書] または [PDF] から選択します。

名称

機能の名前を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ～ 512 です。入力しないと、「TIFF/JPEG 混在変換」が設定されます。

TIFF に変換するページ

- 圧縮方式 (カラー)
カラーイメージを出力するときの圧縮方式を指定します。[圧縮なし]、[Packbits]、[G4]、[G3MH]、[G3MR]、[JBIG] から選択します。初期設定では、[G4] が選択されています。
- 画質を優先して変換する
変換元の文書が DocuWorks 文書の場合に、シェードがつぶれたりしない高画質な TIFF イメージに変換するときに、チェックマークを付けます。DocuWorks 文書を変換するときだけ有効になります。

JPEG に変換するページ

- 画質と圧縮率
[高圧縮]、[標準] または [高画質] から選択します。初期設定では、[標準] が選択されています。
- カラーモード
[カラー] または [グレースケール] から選択します。初期設定では、[カラー] が選択されています。

加工方法＞フォーマット変換＞フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (DocuWorks 変換の場合)

文書を DocuWorks 文書に変換します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

フォーマット

変換するフォーマットを、[TIFF]、[JPEG]、[TIFF/JPEG 混在]、[DocuWorks 文書] または [PDF] から選択します。

名称

機能の名前を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0～512 です。入力しないと、「DocuWorks 変換」が設定されます。

アノテーション一覧

[フォーマット変換 -DocuWorks 変換設定 - アノテーション設定 -] 画面で設定した内容が表示されます。

- ページ
アノテーションを貼り付けるページを表示します。
- 種類
貼るアノテーションの種類を表示します。
- 位置 (縦 / 横)
貼り付けるアノテーションのページ上の位置が表示されます。
- 属性
貼る文字列を表示します。
- 文字数
文字数制限が設定されている場合は、文字数を表示します。
- アイコン
 (編集)：アノテーションを編集する場合にクリックします。[フォーマット変換 -DocuWorks 変換設定 - アノテーション設定 -] 画面に移動します。
 (削除)：クリックすると、項目を削除します。
- [追加]
新規にアノテーションを追加する場合にクリックします。[フォーマット変換 -DocuWorks 変換設定 - アノテーション設定 -] 画面に移動します。

オリジナル文書を添付する

フォーマット変換後に変換元の文書を添付する場合に、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークは外れています。

アノテーションを表示する

設定したアノテーションを表示する場合に、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークが付いています。

[セキュリティの設定]

DocuWorks 文書に対するセキュリティ情報を設定する場合にクリックします。[フォーマット変換 - DocuWorks 変換設定 - セキュリティ設定 -] 画面に移動します。

高圧縮 DocuWorks (MRC 圧縮) に変換する

DocuWorks 文書に変換するときに、圧縮率を高め、ファイルサイズを小さくする場合は、チェックマークを付け、変換する圧縮の形式を選択します。初期設定では、チェックマークは外れています。変換する圧縮の形式は、[標準]、[画質優先] または [圧縮率優先] から選択できます。



高圧縮 DocuWorks を選択すると、ファイルサイズが小さくなりますが、通常 DocuWorks 変換よりも画質が劣化し、処理の速度が遅くなる場合があります。

[見出し・ページ番号の設定]

DocuWorks 文書に見出しとページ番号を設定する場合にクリックします。[フォーマット変換 -DocuWorks 変換設定 - 見出し・ページ番号設定 -] 画面に移動します。

[文書プロパティの選択]

DocuWorks 文書のプロパティ情報を設定する場合にクリックします。[フォーマット変換 -DocuWorks フォーマット変換設定 - 文書プロパティ選択 -] 画面に移動します。

サイズ指定

変換時にサイズを定型に合わせるか、元のイメージと同じ大きさのままにするかを指定します。初期設定では、イメージサイズが選択されています。

- 定型サイズ
定型サイズに合わせて DocuWorks 文書に変換する場合に選択します。定型サイズを選択したときは、[50] ~ [100] (%) の範囲で倍率を選択します。初期設定は、[100] です。
- [定型サイズの最大を A3 とする]
サイズ指定で [定型サイズ] を選択した場合、変換時の定型サイズの最大を A3 にするときに、チェックマークを付けます。この項目にチェックマークを付けると、A3 を超えるサイズの DocuWorks 文書は生成されなくなります。選択しない場合は、変換元のイメージサイズによって、2A0 までの定型サイズの DocuWorks 文書が生成されます。初期設定では、チェックマークは外れています。
- イメージサイズ
元のイメージと同じ大きさで DocuWorks 文書に変換する場合に選択します。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 -DocuWorks 変換設定 - アノテーション設定 -

DocuWorks 文書に貼るアノテーションを設定します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

アノテーションの種類

アノテーションの種類を [テキストアノテーション] または [付箋アノテーション] から選択します。初期設定では、[テキストアノテーション] が選択されています。

アノテーションとして貼り付ける文字列

アノテーションとして貼る文字列を属性から指定するか、直接指定するかを選択します。初期設定では、[属性から指定する] が選択されています。

- 属性から指定する
アノテーションとして貼る文字列を属性から指定する場合に選択し、ドロップダウンリストボックスから属性を選択します。



OCR 結果など任意の属性を、アノテーションや付箋として貼ることができます。

たとえば、フォーマット変換を設定する前に「全文 OCR」を指定した「OCR」機能を設定すれば「全文指定 ページ別 OCR テキスト」が属性として選択できるようになります。

- 文字数を制限する
「属性から指定する」を選択した場合、文字数を制限するときに、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークは外れています。
- 文字数
「文字数を制限する」にチェックマークを付けたときに、制限する文字数を設定します。入力できる値は、半角の数字で 1 ～ 256 です。初期設定は「100」です。
- 任意の文字列で指定する
アノテーションとして貼る文字列を任意に入力する場合に選択し、文字列を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 1 ～ 256 です。

たて書き

アノテーションの方向を縦書きにする場合に、チェックマークを付けます。

[フォント設定]

アノテーションとして貼る文字列のフォントを設定する場合にクリックします。[フォーマット変換 - DocuWorks 変換設定 - フォント設定 -] 画面に移動します。

貼り付けるページ

- すべてのページ
アノテーションをすべてのページに貼る場合に選択します。
- 指定したページ
アノテーションを指定したページに貼る場合に選択します。[指定したページ] にチェックマークを付けた場合は、ページ数を指定します。ページ数は、数字、ハイフン (-) およびカンマ (,) で指定します。たとえば、1 ページから 3 ページ、5 ページを指定する場合は、「1-3,5」と入力します。
- ページごとに対応した OCR 結果を貼り付ける
OCR 結果のページ番号と同じ番号のページに OCR 結果を貼る場合に選択します。[属性から指定する] で、[全文指定ページ別 OCR テキスト] を選択した場合だけ、選択できます。



「ページごとに対応した OCR 結果を貼り付ける」は、[OCR-OCR 設定] 画面で、「OCR 結果をページごとに対応した属性として保存する」にチェックマークを付けた場合に、選択できます。

貼り付ける位置

- テキストアノテーションの場合
 - 上から
貼る位置の座標を、文書上端からテキストアノテーションの左上端までの位置で設定します。入力できる値は、半角の数字で 0 ～ 2400 です。初期設定は「0」です。
 - 左から
貼る位置の座標を、文書左端からテキストアノテーションの左上端までの位置で設定します。入力できる値は、半角の数字で 0 ～ 2400 です。初期設定は「0」です。テキストアノテーションを設定する場合だけ表示されます。
- 付箋アノテーションの場合
付箋アノテーションを用紙の左側に貼るか、右側に貼るかを選択し、貼る位置を指定します。初期設定では、「右上から位置を指定します」が選択されています。

- ・ 左上から位置を指定する
付箋アノテーションを貼る位置を用紙の左上端からの距離で指定するときに選択します。
- ・ 右上から位置を指定する
付箋アノテーションを貼る位置を用紙の右上端からの距離で指定するときに選択します。
- ・ A. 上から
文書上端から付箋アノテーションの上端までの位置を mm 単位で入力します。入力できる値は、半角の数字で 0 ～ 2400 です。初期設定は [0] です。
- ・ B. 左端 / 右端から
文書左端または右端から付箋アノテーションの左上端までの位置を mm で設定します。
[左上から位置を指定する] にチェックマークを付けている場合、入力できる値は、半角の数字で - 幅 ～ 2400 です。初期設定は [50] です。
[右上から位置を指定する] にチェックマークを付けている場合、入力できる値は、半角の数字で 0 ～ -2400+ 幅です。初期設定は [-5] です。
- ・ C. 高さ
付箋アノテーションの高さを指定します。入力できる値は、半角の数字で 5 ～ 500 です。初期設定は [25] です。
- ・ D. 幅
付箋アノテーションの幅を指定します。入力できる値は、半角の数字で 5 ～ 500 です。初期設定は [75] です。

付箋の色

付箋アノテーションの色を、[白]、[赤]、[青]、[黄] または [緑] から選択します。初期設定では、[黄] が選択されています。付箋アノテーションを設定する場合だけ表示されます。

背景を透過にする

貼るテキストアノテーションの背景色を透過にする場合に、チェックマークを付けます。チェックマークを外した場合、背景色は白になります。初期設定では、チェックマークが付いています。[アノテーションの種類] で [テキストアノテーション] を選択した場合だけ表示されます。

加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 -DocuWorks 変換設定 - セキュリティー設定 -

DocuWorks 文書にセキュリティーを設定します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

操作の制限

禁止する操作を設定します。初期状態では、すべてのチェックマークは外れています。

- 文書の編集を禁止する
文書の編集を禁止するセキュリティーを設定する場合に、チェックマークを付けます。
- アノテーションの編集を禁止する
アノテーションの編集を禁止するセキュリティーを設定する場合に、チェックマークを付けます。
- 印刷を禁止する
印刷を禁止するセキュリティーを設定する場合に、チェックマークを付けます。
- コピーを禁止する
コピーを禁止するセキュリティーを設定する場合に、チェックマークを付けます。

パスワード

- パスワード
DocuWorksの保護文書を開くためのパスワードを入力します。入力できる文字数は、半角で0～255です。
- パスワードの確認
確認のためにパスワードを再入力します。
- フルアクセスパスワード
DocuWorks 文書のセキュリティの設定を変更するためのパスワードを入力します。入力できる文字数は、半角で0～255です。
- フルアクセスパスワードの確認
確認のためにパスワードを再入力します。

コメント

【パスワード】または【フルアクセスパスワード】を設定した DocuWorks 文書を開くときに表示される、パスワード入力ダイアログボックスのコメントを設定します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ～ 1000 です。

加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 -DocuWorks 変換設定 - 見出し・ページ番号設定 - 【ページ番号】タブ

DocuWorks 文書に見出しとページ番号を設定します。

【OK】

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

【キャンセル】

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

【ページ番号】タブ

- ページ番号を挿入する
ページ番号を挿入するときに、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークは外れています。以降の項目は、チェックマークを付けたときに設定できます。
- 【フォント設定】
ページ番号のフォントを設定する場合にクリックします。【フォーマット変換-DocuWorks変換設定-フォント設定-】画面に移動します。
- 書式
ページ番号を【#】で示した文字列を入力します。たとえば、「-#-」と入力すると、「-1-」のようにページ番号が表示されます。入力できる文字数は、全角または半角で0～256です。
- 位置揃え
ページ番号を貼る位置を設定します。初期設定では、【中央揃え】が選択されています。
 - ・ 左揃え
ページ番号をページの左端に貼るときに選択します。
 - ・ 中央揃え
ページ番号をページの中央に貼るときに選択します。
 - ・ 右揃え
ページ番号をページの右端に貼るときに選択します。
- 位置
ページ番号文字列を貼る位置を設定します。初期設定では、【下】が選択されています。
 - ・ 上
ページ番号をページの上に貼るときに選択します。

- ・ 下
ページ番号をページの下に貼るときに選択します。
- 開始番号
最初のページ番号を何ページにするか指定します。入力できる値は、半角の数字で 0 ～ 65535 です。初期設定は [1] です。
- ページ番号の桁数
ページ番号として表示する番号の桁数を指定します。入力できる値は、半角の数字で 1 ～ 10 です。初期設定は [1] です。
- 上 / 下の余白
ページ番号をページの左端に貼る場合はページ上からの余白、右端に貼る場合はページ下からの余白を設定します。入力できる値は、半角の数字で 0 ～ 50 です。初期設定は [5] です。
- 左 / 右の余白
ページ番号をページの左端に貼る場合はページ左端からの余白、右端に貼る場合はページ右端からの余白を設定します。入力できる値は、半角の数字で 0 ～ 50 です。初期設定は [5] です。
- 貼り付けるページ
ページ番号文字列を貼るページを設定します。初期設定では、[すべてのページ] が選択されています。
 - ・ すべてのページ
ページ番号をすべてのページに貼るときに選択します。
 - ・ 指定したページ
ページ番号を指定したページに貼るときに選択し、貼るページを入力します。入力できる範囲は、1 ページ～ 2147483647 ページです。初期設定は [1] - [2147483647] です。

加工方法＞フォーマット変換＞フォーマット変換 -DocuWorks 変換設定 - 見出し・ページ番号設定 - [上見出し] タブ

DocuWorks 文書に見出しとページ番号を設定します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

[上見出し] タブ

- 上見出しを挿入する
上見出しを挿入するときに、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークは外れています。以降の項目は、チェックマークを付けたときに設定できます。
- [フォント設定]
上見出しとして貼る文字列のフォントを設定する場合にクリックします。[フォーマット変換 - DocuWorks 変換設定 - フォント設定 -] 画面に移動します。
- 上見出しとして貼り付ける文字列
上見出しとして貼る文字列を属性から選択するか、任意の文字列で指定するかを選択します。初期設定では、[属性から指定する] が選択されています。
 - ・ 属性から指定する
上見出し文字列を属性から指定するときに選択します。
[属性から指定する] を選択した場合は、ドロップダウンリストボックスから属性を選択します。
 - ・ 文字数を制限する
属性から指定する場合、文字数を制限するときに、チェックマークを付けます。

- ・文字数
文字数を制限する場合、上見出しに使用する文字数を設定します。入力できる値は、半角の数字で 1 ～ 256 です。初期設定は [100] です。
- ・任意の文字列で指定する
上見出し文字列に任意の文字列を入力するときに選択し、テキストボックスにテキストを入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ～ 256 です。
- 位置揃え
上見出しを貼る位置を設定します。初期設定では、[中央揃え] が選択されています。
 - ・ 左揃え
上見出しをページの左端に貼るときに選択します。
 - ・ 中央揃え
上見出しをページの中央に貼るときに選択します。
 - ・ 右揃え
上見出しをページの右端に貼るときに選択します。
- 上の余白
上見出しのページ上からの余白を設定します。入力できる値は、半角の数字で 0 ～ 50 です。初期設定は [5] mm です。
- 左 / 右の余白
上見出しをページの左端に貼る場合はページ左端からの余白、右端に貼る場合はページ右端からの余白を設定します。入力できる値は、半角の数字で 0 ～ 50 です。初期設定は [5] mm です。
- 貼り付けるページ
上見出しを貼るページを設定します。初期設定では、[すべてのページ] が選択されています。
 - ・ すべてのページ
上見出しをすべてのページに貼るときに選択します。
 - ・ 指定したページ
上見出しを指定したページに貼るときに選択し、貼るページを入力します。入力できる範囲は、1 ページ～ 2147483647 ページです。初期設定は空白です。

加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 -DocuWorks 変換設定 - 見出し・ページ番号設定 - [下見出し] タブ

DocuWorks 文書に見出しとページ番号を設定します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

[下見出し] タブ

- 下見出しを挿入する
下見出しを挿入するときに、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークは外れています。以降の項目は、チェックマークを付けたときに設定できます。
- [フォント設定]
下見出しとして貼る文字列のフォントを設定する場合にクリックします。 [フォーマット変換 - DocuWorks 変換設定 - フォント設定 -] 画面に移動します。
- 下見出しとして貼り付ける文字列
下見出しとして貼る文字列を属性から選択するか、任意の文字列で指定するかを選択します。初期設定では、[属性から指定する] が選択されています。

- ・ 属性から指定する
下見出し文字列を属性から指定するときに選択します。
[属性から指定する] を選択した場合は、ドロップダウンリストボックスから属性を選択します。
- ・ 文字数を制限する
属性から指定する場合、文字数を制限するときに選択します。
- ・ 文字数
[文字数を制限する] にチェックマークを付けた場合、下見出しに使用する文字数を設定します。入力できる値は、半角の数字で 1 ～ 256 です。初期設定は [100] です。
- ・ 任意の文字列で指定する
下見出し文字列に任意の文字列を指定するときに選択し、テキストボックスにテキストを入力します。
入力できる文字数は、全角または半角で 0 ～ 256 です。
- 位置揃え
下見出しを貼る位置を設定します。
 - ・ 左揃え
下見出しをページの左端に貼るときに選択します。
 - ・ 中央揃え
下見出しをページの中央に貼るときに選択します。
 - ・ 右揃え
下見出しをページの右端に貼るときに選択します。
- 下の余白
下見出しのページ下からの余白を設定します。入力できる値は、半角の数字で 0 ～ 50 です。初期設定は [5] です。
- 左 / 右の余白
下見出しをページの左端に貼る場合はページ左端からの余白、右端に貼る場合はページ右端からの余白を設定します。入力できる値は、半角の数字で 0 ～ 50 です。初期設定は [5] です。
- 貼り付けるページ
下見出しを貼るページを設定します。
 - ・ すべてのページ
下見出しをすべてのページに貼るときに選択します。
 - ・ 指定したページ
下見出しを指定したページに貼るときに選択し、貼るページを入力します。入力できる範囲は、1 ページ～ 2147483647 ページです。初期設定は空白です。

加工方法＞フォーマット変換＞フォーマット変換 -DocuWorks 変換設定 - フォント設定 -

DocuWorks 文書のフォントを設定します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

文字セット

ドロップダウンリストボックスから、フォントの言語を選択します。

フォント名

ドロップダウンリストボックスから、フォント名を選択します。



補足

対応していないフォントを選択した場合は、標準のフォントが採用されます。

DocuWorks の種類	項	採用される値
日本語版 DocuWorks を使用している場合	フォントの言語	日本語
	フォント名	MS 明朝
	スタイル	標準
	サイズ	12 ポイント
	取り消し線	なし
	下線	なし
	色	黒
日本語版以外の DocuWorks を使用している場合	フォントの言語	欧文
	フォント名	Times New Roman
	スタイル	標準
	サイズ	12 ポイント
	取り消し線	なし
	下線	なし
	色	黒

スタイル

ドロップダウンリストボックスから、文字のスタイルを選択します。

サイズ

ドロップダウンリストボックスから、文字のサイズを選択します。

文字飾り

- 取り消し線
文字に取り消し線を付ける場合に、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークは外れています。
- 下線
文字に下線を付ける場合に、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークは外れています。
- 色
取り消し線または下線の色を選択します。初期設定は黒です。

加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 -DocuWorks 変換設定 - 文書プロパティ選択 -

DocuWorks 文書のプロパティ情報を設定します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

文書プロパティ一覧

- プロパティ名

設定する DocuWorks 文書属性の属性名が表示されます。

- 値
DocuWorks 文書属性に設定する属性値が表示されます。
- 文字数
テキストアノテーションとして貼る文字列を、属性から指定する場合で、文字数制限をしているときに、指定された文字数制限数を表示します。
- [追加]
新規にプロパティを追加する場合にクリックします。[フォーマット変換 -DocuWorks フォーマット変換設定 - 文書プロパティ設定 -] 画面に移動します。
- アイコン
 (編集)
一覧で選択したプロパティを編集する場合にクリックします。[フォーマット変換-DocuWorksフォーマット変換設定 - 文書プロパティ設定 -] 画面に移動します。
 (削除)
一覧で選択したプロパティを削除する場合にクリックします。

文書プロパティを上書きする

変換元の文書に、すでに DocuWorks 文書のプロパティが設定されていた場合に、上書きするときに、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークが付いています。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換-DocuWorks 変換設定 - 文書プロパティ設定 -

DocuWorks 文書のプロパティ情報を表示します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

プロパティ名

ドロップダウンリストボックスから、プロパティの種類を指定します。

属性値の指定

- 属性から指定する
上見出し文字列を属性から指定するときに選択します。
[属性から指定する] を選択した場合は、ドロップダウンリストボックスから属性を選択します。
 - ・ 文字数を制限する
属性から指定する場合、文字数を制限するときに、チェックマークを付けます。
 - ・ 文字数
文字数を制限する場合、上見出しに使用する文字数を設定します。入力できる値は、半角の数字で 1 ～ 256 です。初期設定は [100] です。
- 任意の文字列で指定する
上見出し文字列に任意の文字列を指定するときに選択し、テキストボックスにテキストを入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ～ 256 です。

加工方法>フォーマット変換>フォーマット変換 - フォーマット変換設定 (PDF 変換

の場合)

文書を PDF ファイルに変換します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

フォーマット

変換するフォーマットを選択します。[PDF] を選択します。

名称

機能の名前を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ～ 512 です。入力しないと、「PDF 変換」が設定されます。

PDF ファイルの文書情報

[フォーマット変換 -PDF 変換設定 - 文書情報設定 -] 画面で設定した内容が表示されます。

- 種類
文書情報の種類が表示されます。
- 属性
文書情報の属性が表示されます。
- 文字数
文字数制限が設定されている場合は、文字数を表示します。
- アイコン
 (編集)：文書情報を編集する場合にクリックします。[フォーマット変換 -PDF 変換設定 - 文書情報設定 -] 画面に移動します。
 (削除)：クリックすると、項目を削除します。
- [追加]
新規に文書情報を追加する場合にクリックします。[フォーマット変換 -PDF 変換設定 - 文書情報設定 -] 画面に移動します。

サムネイル情報を付ける

PDF にサムネイル情報を付ける場合に、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークは外れています。

圧縮方式

圧縮方式を選択します。初期設定では、[圧縮しない] が選択されています。

- 圧縮しない
圧縮しないで変換する場合に選択します。
- 高圧縮 PDF
圧縮率を高めてファイルサイズを小さくする場合に選択します。



高圧縮 PDF を選択すると、ファイルサイズが小さくなりますが、通常の PDF 変換よりも画質が劣化し、処理の速度が遅くなることがあります。

- サーチャブル PDF
サーチャブル PDF を生成する場合に選択します。



サーチャブル PDF は、OCR 処理で認識した文字情報を追加することで、コンテンツの文字列を検索できるようにした PDF です。良好なプリント品質と小さなファイルサイズを両立した PDF を生成できます。

[対象文書が DocuWorks 文書の場合の詳細設定]

DocuWorks 文書を PDF ファイルに変換する場合の設定をするときにクリックします。[フォーマット変換 - PDF 変換設定 - DocuWorks 文書入力詳細設定 -] 画面に移動します。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

加工方法＞フォーマット変換＞フォーマット変換 - PDF 変換設定 - 文書情報設定 -

PDF の文書情報を設定します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

文書情報の種類

文書情報の種類を、[タイトル]、[サブタイトル]、[作成者] または [キーワード] から選択します。

属性値の設定

- 属性から指定する
文書情報を属性から指定するときに選択します。
[属性から指定する] を選択した場合は、ドロップダウンリストボックスから属性を選択します。
- 文字数を制限する
文書情報を属性から指定する場合、文字数を制限するときに、チェックマークを付けます。
- 文字数
文字数を制限する場合の上限値を設定します。入力できる値は、半角の数字で 1 ～ 126 です。初期設定は [50] です。
- 任意の文字列で指定する
文書情報に任意の文字列を入力するときに選択し、テキストボックスにテキストを入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 1 ～ 126 以内です。

加工方法＞フォーマット変換＞フォーマット変換 - PDF 変換設定 - DocuWorks 文書入力詳細設定 -

DocuWorks 文書を PDF ファイルに変換するときの設定をします。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

解像度を指定する

変換元の文書が DocuWorks 文書の場合に、DocuWorks 文書から抽出されるイメージの解像度の上限値を指定する場合にチェックマークを付け、解像度を指定します。解像度は、[75]、[96]、[150]、[200]、[300]、[360]、[400] または [600] dpi から選択します。初期設定では、チェックマークは外れています。

カラー画像を白黒画像に変換する

DocuWorks 文書のカラー画像を白黒画像に変換するときに、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークは外れています。

画質を優先して変換する

DocuWorks 文書から PDF ファイルに変換する場合、高画質な PDF ファイルに変換するときに、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークは外れています。

加工方法>属性加工 CSV 設定>属性加工 CSV 設定 - 設定

この機能よりも前に処理される機能から属性を取得し、指定したカラムのデータだけを取り出して、文書属性として出力します。

取得対象となる属性の値は、次の条件を満たす必要があります。

- RFC4180 に準拠した CSV 形式である
- 改行コードを含まない
- ダブルクォート (") を含まない



補足

- ・ この機能は、Flow Management サーバーが設置された OS の言語が日本語の場合にだけ使用できます。機能を使用するには、Attribute Processing Option が必要です。
- ・ 機能の詳細は、弊社担当者にお問い合わせください。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

名称

機能の名前を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ～ 512 です。入力しないと、「属性加工 CSV 設定」が設定されます。

取得属性

取得する属性を指定します。

[参照] をクリックして、表示される属性の一覧から対象の属性を選択します。

選択した属性がテキストボックスに表示されます。



補足

属性値が CSV 形式である属性を選択してください。

参照

クリックすると、属性の要素を指定するページに移動します。ここで、取得する属性を選択します。

属性設定一覧 (必須)

属性からカラムのデータを取り出すための設定をします。

- [+ 追加]
属性設定を追加します。[属性加工 CSV 設定 - 属性設定] 画面に移動します。
- [✎ 編集]
一覧で選択した属性設定を編集する場合にクリックします。[属性加工 CSV 設定 - 属性設定] 画面に移動します。
- [✕ 削除]

一覧でチェックマークを付けた属性設定を削除します。

- 一覧
 - ・ [属性加工 CSV 設定 - 属性設定] 画面で設定した [取得カラム]、[新規属性表示名]、および [未取得時の値] が表示されます。
 - ・ アイコン
 -  (編集)：クリックすると、[属性加工 CSV 設定 - 属性設定] 画面に移動します。
 -  (削除)：クリックすると、一覧でチェックマークを付けた属性設定を削除します。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

加工方法＞属性加工 CSV 設定＞属性加工 CSV 設定 - 属性設定

対象とする属性の値からデータを取り出すための設定をします。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

取得カラム (必須)

対象とする属性の値 (CSV 形式) から、何カラムめのデータを新しい属性として取り出すかを設定します。入力できる値は、半角の数字で 1 ～ 256 です。初期設定は [1] です。

属性表示名 (必須)

属性の表示名を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ～ 64 です。

データが取得できなかった場合の値を設定する

指定したカラムが存在しないなどの理由でデータを取得できなかったときに、固定の値を属性値として設定するかどうかを指定します。チェックマークを付けると、[未取得時の値] が入力できるようになります。

- 未取得時の値

データを取得できなかったときに設定する属性値を入力します。入力できる文字数は、全角で 0 ～ 64、半角で 0 ～ 128 です。

加工方法>イメージ加工>イメージ加工 - イメージ加工設定 [イメージ処理 / わく消し / 解像度変換] タブ

取り込んだ文書のイメージを加工します。



文字認識が困難で文書の向きが特定しにくい場合、文書中に特定方向の線分が多数存在する場合、文書にノイズが多く含まれる場合など、文書イメージの状態によっては、期待された結果が得られないことがあります。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

名称

機能の名前を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ～ 512 です。入力しないと、「イメージ加工」が設定されます。

傾き補正

イメージの中にある文字列の並び、線分、図形などから判断して、傾きを自動で補正する場合に、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークは外れています。

ノイズ除去

白黒ページのイメージの中にある黒い孤立点を除去する場合に、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークは外れています。

自動正立

イメージの中にある文字を認識して自動で回転し、イメージを正しい向きに修正する場合に、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークは外れています。[自動正立] にチェックマークを付けた場合は、修正するページの種類を次から選択します。

- カラー / グレースケール / 白黒
カラーページ、グレースケールのページおよび白黒ページを修正するときに選択します。
- 白黒のみ
白黒ページだけを修正するときに選択します。

回転する

回転する場合に、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークは外れています。[回転する] にチェックマークを付けた場合は、回転する角度を次から選択します。

- 左 90 度
- 右 90 度
- 180 度

サイズ揃え

サイズ揃えをする場合に、チェックマークを付けます。

「サイズ揃え」とは、指定した定型サイズに合わせて、イメージのサイズを変更することです。定型サイズより小さい場合は白で補完し、定型サイズより大きい場合は、イメージを縮小します。縮小したときに余白が発生する場合は、白で補完します。揃えたい定型サイズを複数指定したときは、最小サイズから順にサイズ適合の判定を行い、イメージを処理します。

ファクス入力などイメージのサイズが定型サイズから外れた文書を、定型サイズに揃えることができます。初期設定では、チェックマークは外れています。

〔サイズ揃え〕にチェックマークを付けた場合は、次の項目を設定します。

- AB 系 / インチ系
サイズ系を〔AB 系〕、〔インチ系〕から選択し、イメージを揃えたい定型サイズにチェックマークを付けます。
〔AB 系〕を選択した場合は、〔A5〕、〔A4〕、〔A3〕、〔B5〕、〔B4〕を選択できます。初期設定では〔A4〕が選択されています。
〔インチ系〕を選択した場合は、〔Letter〕、〔Legal〕、〔Folio〕を選択できます。初期設定では〔Letter〕が選択されています。
- 揃え位置
イメージを定型サイズに揃えるとき的位置を、〔左上〕、〔中央〕から選択します。初期設定では〔中央〕が選択されています。
- 判定しきい値
イメージが指定した定型サイズよりも大きい場合に、適合と判定する許容値を入力します。この判定しきい値を、定型サイズの長辺、短辺それぞれに加え、対象のイメージと比較することで、適合する定型サイズを決定します。入力できる範囲は、0 ～ 50 (mm) です。初期値は〔0〕です。
- 判定しきい値を適用するサイズ
〔判定しきい値〕に〔0〕以外を指定した場合は、判定しきい値を〔すべてのサイズ〕に適用するか、〔最大のサイズのみ〕適用するかを選択します。初期設定では〔最大のサイズのみ〕が選択されています。
- サイズ適合外処理
適合するサイズがないと判定されたイメージの処理方法を、次から選択します。初期設定では、〔サイズ適合せずにジョブを継続する〕が選択されています。
 - ・ サイズ適合せずにジョブを継続する
このイメージに対してサイズ揃えの処理を行わずに、ジョブを継続します。
 - ・ 選択サイズのうち、最大のものに適合させる
指定した定型サイズのうち最大のものに合わせて、イメージを縮小します。
 - ・ ジョブをエラーとする
このイメージを含む文書のジョブをエラーにします。
- 縮小アルゴリズム - 白黒（2 階調）イメージの処理
〔判定しきい値〕に〔0〕以外を指定した、または〔サイズ適合外処理〕で〔選択サイズのうち、最大のものに適合させる〕を選択した場合に指定します。
白黒（2 階調）イメージを縮小するときの処理方法を、次から選択します。初期設定では〔最小輝度法〕が選択されています。
 - ・ 最近傍法
速度優先の処理方法です。ほかの処理方法を選択したときより、画質が劣る場合があります。
 - ・ 最小輝度法
画像の縮小時に黒い線を残したい場合に選択します。
 - ・ 最大輝度法
画像の縮小時に白い線を残したい場合に選択します。
- 縮小アルゴリズム - グレースケール / カラーイメージの処理
〔判定しきい値〕に〔0〕以外を指定した、または〔サイズ適合外処理〕で〔選択サイズのうち、最大のものに適合させる〕を選択した場合に指定します。
グレースケールやカラーイメージを縮小するときの処理方法を、次から選択します。初期設定では〔投影法〕が選択されています。
 - ・ 最近傍法
速度優先の処理方法です。ほかの処理方法を選択したときより、画質が劣る場合があります。
 - ・ 投影法
ほかの処理方法を選択したときより、良質の画質が得られます。
 - ・ 最小輝度法
画像の縮小時に黒い線を残したい場合に選択します。
 - ・ 最大輝度法
画像の縮小時に白い線を残したい場合に選択します。

わく消しをする

イメージのわくやとじしろの影を消すかどうかを指定します。上下、左右、中央の指定した幅分のイメージを消します。[わく消しをする] にチェックマークを付けた場合は、[上下]、[左右] および [中央] のわく消し幅 (mm) をそれぞれ設定します。初期設定は [上下] および [左右] が [5] mm、[中央] が [0] mm です。

解像度を変換する

解像度を変換する場合に、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークは外れています。[解像度を変換する] にチェックマークを付けた場合は、解像度を高くするか、低くするかを選択します。

- イメージをなめらかにして高解像度化する
イメージの解像度が指定した解像度以下の場合に、解像度を高くします。またイメージのジャギー（斜め線のギザギザ）を補正して、なめらかにします。
ファクスで受信した文書のような解像度の低いイメージを、スムージング処理するために使用します。[イメージをなめらかにして高解像度化する] にチェックマークを付けた場合は、平滑化拡大率、補正方法、高解像度化解像度の上限をそれぞれ設定します。
- 平滑化拡大率
元のイメージに対する拡大率を指定します。[150]、[200]、[300]、[400] または [600] から選択します。初期設定は [150] % です。
- 補正方法
イメージの補正方法を、[補正なし]、[ジャギ補正] または [ジャギ補正 + ノイズ除去] から選択します。初期設定は [ジャギ補正] です。
- 高解像度化解像度の上限
高解像度化解像度の上限を、[100]、[200] または [300] から選択します。初期設定は [200] dpi です。



高解像度化ができるのは、次のフォーマットの文書です。

- TIFF (シングルページ)
- TIFF (マルチページ)
- TIFF/JPEG 混在の TIFF の白黒ページ
- 指定した解像度を超えるイメージのみ低解像度化する
[低解像度化解像度の上限] で指定した解像度より大きなイメージを、[低解像度化解像度の上限] で指定した解像度より低く変換するときに、チェックマークを付けます。[指定した解像度を超えるイメージのみ低解像度化する] にチェックマークを付けた場合は、解像度の上限値を選択します。
- 低解像度化解像度の上限
低解像度化解像度の上限を、[100×100]、[200×200]、[300×300]、[400×400]、[500×500] または [600×600] から選択します。初期設定は [200×200] dpi です。

加工方法>イメージ加工>イメージ加工-イメージ加工設定[白紙処理/文書分割]タブ

取り込んだ文書のイメージを加工します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

名称

機能の名前を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ~ 512 です。入力しないと、「イメージ加工」が設定されます。

白紙処理 / 文書分割する

白紙ページをとばして文書进行处理する場合、白紙ページまたは指定ページごとに文書を分割する場合に、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークは外れています。チェックマークを付けた場合は、分割するページに関する設定を次から選択します。

- 白紙ページの前で分割する
白紙ページの前で分割するときに選択します。
- 白紙ページをとばして処理する
白紙ページをとばしてイメージ加工処理をするときに選択します。
- 指定ページごとに分割する
指定ページごとに分割するときに選択します。[指定ページごとに分割する] を選択した場合は、分割するページの番号を選択します。初期設定は [1] です。



白紙処理 / 文書分割できる文書のは、白黒ページだけです。

- 両面ともに白紙のときのみ白紙ページとして扱う
奇数ページと偶数ページが続けて白紙の場合だけ白紙と判定するときに、チェックマークを付けます。[白紙ページの前で分割する] または [白紙ページをとばして処理する] を選択したときに設定できます。初期設定では、チェックマークは外れています。
- 白紙判定しない領域
白紙判定の対象にしない領域を mm の単位で設定します。[白紙ページの前で分割する] または [白紙ページをとばして処理する] を選択したときに設定できます。入力できる値は、半角の数字で 5 ～ 30 です。初期設定は [5] です。

加工方法＞属性加工 CSV 作成＞属性加工 CSV 作成 - 設定

この機能よりも前に処理される機能から複数の属性を取得し、それらの値を連結して、文書属性として出力します。

出力する属性の形式は、次のとおりです。

- RFC4180 に準拠した CSV 形式
- 取得した属性の値は、ダブルクォート (") で囲まれる
- 取得した属性の値が複数ある場合は、カンマ (,) で連結される
例: "AAA";"BBB";"CCC";"XXX"



- ・ この機能は、Flow Management サーバーが設置された OS の言語が日本語の場合にだけ使用できます。機能を使用するには、Attribute Processing Option が必要です。
- ・ 機能の詳細は、弊社担当者にお問い合わせください。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

名称

機能の名前を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ～ 512 です。入力しないと、「属性加工 CSV 作成」が設定されます。

CSV データの要素 (必須)

取得する属性の要素を指定します。これらの要素を上から順にカンマ (,) で連結し、新しい属性を作成します。

- [＋追加]

新規に属性の要素を追加します。クリックすると、属性の要素を指定するページに移動します。

-  [削除]
一覧でチェックマークを付けた属性の要素を削除します。
-  [↑上へ移動]
一覧でチェックマークを付けた属性の要素が 1 つ上へ移動します。
-  [↓下へ移動]
一覧でチェックマークを付けた属性の要素が 1 つ下へ移動します。
- 一覧
 - ・ 属性
要素を属性から指定した場合は、選択した属性名を含む要素が表示されます。任意の文字列を指定した場合は、「ユーザー定義文字列（{指定した文字列}）」が表示されます。属性が存在しない場合は、「属性なし」が表示されます。
 - ・ アイコン
 (編集)：クリックすると、属性の要素を指定するページに移動します。
 (削除)：クリックすると、一覧でチェックマークを付けた属性の要素を削除します。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

加工方法>属性マッピング>属性マッピングー設定

条件値と出力属性値を記述したマッピングデータファイルを取り込み、属性マッピングを設定します。ここで設定した出力属性を、各配信先の詳細設定ページで属性として指定すると、属性マッピングの条件に沿った配信先の振り分けができます。



補足

マッピングデータファイルの仕様については、『機能ガイド Flow Management Option 編』を参照してください。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

名称

機能の名前を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ～ 512 です。入力しないと、「属性マッピング」が設定されます。

[編集]

マッピングデータを編集するときにクリックします。[属性マッピングー編集] 画面に移動します。

[マッピングデータのエクスポート]

マッピングデータをエクスポートするときに、クリックします。[属性マッピングーマッピングデータのエクスポート] 画面がに移動します。

一覧

[属性マッピングー編集] 画面で指定した [比較する列]、[出力する列] の内容が左から順に表示されます。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

加工方法>属性マッピング>属性マッピングー編集

マッピングデータファイルを取り込み、ファイル内の列データと、比較する条件や出力する属性を対応付けます。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

インポートするマッピングデータファイル (CSV 形式)

選択したマッピングデータファイルが表示されます。テキストボックスに直接文字の入力はできません。

[参照]

クリックすると、ファイルを選択する画面が表示されます。フローに取り込むマッピングデータファイルを指定します。複数のファイルは選択できません。

文字エンコード

フローに取り込むマッピングデータファイルの文字エンコードを指定します。

指定できるのは、Java でサポートしているエンコードです。

初期値は、使用している言語によって、次のようになります。

- 日本語の場合：windows-31j (MS932)
- 英語の場合：windows-1252 (CP1252)
- 韓国語の場合：x-windows-949 (MS949)
- 繁体字中国語の場合：x-windows-950 (MS950)
- 簡体字中国語の場合：GB18030
- タイ語の場合：x-windows-874

入力するファイルのエンコーディングに UTF-8 を指定する場合は、BOM なしを指定してください。

比較する条件 (必須)

- 属性
比較する属性を指定します。現在までに設定されている属性、または共通属性（ジョブ受付日時以外）から選択できます。空文字を指定した場合は、「指定なし」となります。
- 比較条件
属性と比較する方法を指定します。初期設定は [が、次と一致する] です。
 - ・ が、次と一致する
 - ・ が、次で始まる
 - ・ が、次を含む
- 比較する列
マッピングデータファイルに記載されている、[属性] と比較する値の列を、[1] ～ [20] から選択します。

出力する属性の指定 (必須)

マッピングデータファイルの 1 行目を対象データとして扱うかどうかを指定します。初期設定は、[マッピングデータファイルの 1 行目も比較する条件、出力する属性として使用する] です。

- マッピングデータファイルの 1 行目も比較する条件、出力する属性として使用する
1 行めからデータとして扱います。属性の表示名は、[出力する属性の表示名] で指定された値を使用します。
- マッピングデータファイルの 1 行目を出力する属性の表示名として使用する
1 行めを、属性の表示名として扱い、2 行め以降をデータとして扱います。

マッピングデータファイルの 1 行めに 20 文字を超える文字列が設定されていた場合は、20 文字までを表示名として使用し、それ以降の文字は切り捨てます。

- 出力属性の一覧
 - ・  削除
一覧でチェックマークを付けた列データを削除します。
 - ・ 出力する列
マッピングデータファイルに記載されている、出力する属性値の列を、[1] ～ [20] から選択します。
空文字を指定した場合は、「指定なし」となります。
 - ・ 出力する属性の表示名
[マッピングデータファイルの 1 行目も比較する条件、出力する属性として使用する] を選択した場合
だけ、入力できます。
出力する属性の表示名を入力します。入力できる文字数は、0 ～ 20 です。
ここで指定した文字列は、属性マッピングが出力する文書属性の表示名になります。
 - ・ すべての条件にあてはまらないときに出力する属性値
どの条件にも合致しなかったときに出力する属性値を指定します。
入力できる文字数は、0 ～ 128 です。

加工方法>属性マッピング>属性マッピングーマッピングデータのエクスポート

フローに設定されている属性マッピングデータを、エクスポートします。

エクスポート

エクスポートするときに、クリックします。[ファイルのダウンロード] ダイアログボックスが表示されるので、[保存] をクリックして、ファイルを保存します。

ファイル名の初期設定は「map.txt」です。

[戻る]

元のページに戻ります。

文字エンコード

エクスポートするマッピングデータファイルの文字エンコードを指定します。

指定できるのは、Java でサポートしているエンコードです。

初期値は、使用している言語によって、次のようになります。

- 日本語の場合：windows-31j (MS932)
- 英語の場合：windows-1252 (CP1252)
- 韓国語の場合：x-windows-949 (MS949)
- 繁体字中国語の場合：x-windows-950 (MS950)
- 簡体字中国語の場合：GB18030
- タイ語の場合：x-windows-874

加工方法>属性マッピング>属性マッピングープロパティ

属性マッピングの情報が表示されます。

[戻る]

元のページに戻ります。

[マッピング条件のプロパティ]

クリックすると、[属性マッピングーマッピング条件のプロパティ] 画面に移動します。

一覧

【属性マッピングー設定】画面で設定した項目の内容が表示されます。

加工方法＞属性マッピング＞属性マッピングーマッピング条件のプロパティ

属性マッピングの情報が表示されます。

【戻る】

元のページに戻ります。

その他の項目

【属性マッピングー編集】画面で設定した項目の内容が表示されます。

加工方法＞属性加工データ取り込み＞属性加工データ取り込み - 設定

文書进行处理するときに、属性情報を記述したファイルを取り込み、その属性情報を文書属性として出力します。

属性情報を記述したファイル（以降、「属性ファイル」と呼びます）は、次のフォーマットで作成します。

- ファイル形式：テキストファイル
- 文字コード：windows-31j（MS932）
- ファイル名：文書名に、指定した拡張子を付け加えた名前
たとえば、拡張子に「csv」を指定した場合、文書「sample.xdw」の属性ファイル名は「sample.xdw.csv」になります。



- ・ この機能は、Flow Management サーバーが設置された OS の言語が日本語の場合にだけ使用できます。機能を使用するには、Attribute Processing Option が必要です。
- ・ 機能の詳細は、弊社担当者にお問い合わせください。

【OK】

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

【キャンセル】

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

名称

機能の名前を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ～ 512 です。入力しないと、【属性取得フォルダー設定】で指定したフォルダーのパスが名前として設定されます。

属性取得フォルダー設定

属性ファイルの取り込み元フォルダーを設定します。

- サーバーのローカルフォルダーの場所（必須）

取り込み元フォルダーの設定方法を、【フォルダー一覧から選択する】、【フォルダーの場所を直接入力する】から選択します。初期設定は、【フォルダー一覧から選択する】です。

- ・ フォルダー一覧から選択する
あらかじめ登録してあるフォルダー一覧から取り込み元フォルダーを選択する場合に選択します。
【参照】をクリックして、表示されるフォルダー一覧から、対象のフォルダーを選択します。
テキストボックスに直接文字の入力はできません。
この項目を選択した場合、【ユーザー名】と【パスワード】は指定できません。選択したフォルダーへのアクセスは、Flow Management サービスの実行アカウント (NETWORK SERVICE) が使用されます。

- ・ [参照]
クリックすると、[属性加工データ取り込み - サーバーのローカルフォルダーの選択] 画面が表示されます。ここで、取り込み元フォルダーを選択します。
- ・ フォルダーの場所を直接入力する
取り込み元フォルダーのパスを直接入力する場合に選択します。
テキストボックスに、ドライブからの絶対パスを、UNC 形式で入力します。
フォルダーの区切り文字には、円 (¥)、またはスラッシュ (/) を使用します。
例：C:¥folder1¥sub1、C:/folder1/sub1
入力できる文字数は、全角で 0 ～ 128、半角で 0 ～ 256 です。



次の文字は使用できません。

コロン (:), カンマ (,), セミコロン (;), アスタリスク (*), クエスチョン (?), ダブルクォート ("), 山かっこ (<>), パイプ (|)

ただし、コロン (:) はドライブ文字には使用できます。

- ・ ユーザー名
[フォルダーの場所を直接入力する] を選択した場合に、指定したフォルダーにアクセスするユーザー名を入力します。
入力できる文字数は、半角で 0 ～ 256 です。



次の文字は使用できません。

スラッシュ (/), 大かっこ ([], ダブルクォート ("), コロン (:), セミコロン (;), パイプ (|), 山かっこ (<>), プラス (+), イコール (=), カンマ (,), クエスチョン (?), アスタリスク (*)

- ・ パスワード
[フォルダーの場所を直接入力する] を選択した場合に、指定したフォルダーにアクセスするときのパスワードを入力します。
入力できる文字数は、半角で 0 ～ 128 です。
- ・ パスワードの確認
[フォルダーの場所を直接入力する] を選択した場合に、確認のためのパスワードを再入力します。

拡張子 (必須)

属性ファイルの拡張子を、任意の文字列で指定します。入力できる文字数は、全角で 0 ～ 16、半角で 0 ～ 32 です。

たとえば、拡張子を「csv」と指定した場合、文書「sample.xdw」を処理するときは、「sample.xdw.csv」という名前の属性ファイルが取り込みの対象になります。



次の文字は使用できません。

円 (¥), スラッシュ (/), コロン (:), カンマ (,), セミコロン (;), アスタリスク (*), クエスチョン (?), ダブルクォート ("), 山かっこ (<>), パイプ (|)

加工方法>属性加工データ取り込み>属性加工データ取り込み - サーバーのローカルフォルダーの選択

属性ファイルの取り込み元フォルダーを選択します。



ここで選択できるフォルダーは、あらかじめ[環境設定] > [初期設定] > [フロー管理の環境設定] > [各機能の設定] 画面で登録されたフォルダーだけです。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

一覧

一覧から、取り込み元に設定するローカルフォルダーを選択します。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

加工方法 > OCR > OCR-OCR 設定

取り込んだ文書のイメージ内の文字を、テキストデータに変換します。



- ・ [OCR] 機能を使用するには、DocuWorks 7.0 以降が必要です。
- ・ 日本語版以外の DocuWorks を使用している場合は、言語ごとに次のオプションライセンスが必要です。
 - 英語版の場合：OCR for DocuWorks English Option
 - 中国語版、韓国語版、およびタイ語版の場合：OCR for DocuWorks Multi Language Option

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

名称

機能の名前を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ～ 512 です。

名称を入力しないと、次のようになります。

[OCR の領域] で [全文 OCR] を選択した場合：「全ページ OCR」が設定されます。

[OCR の領域] で [領域指定 OCR] を選択した場合：「領域指定 OCR」が設定されます。

カラーイメージに対する前処理

カラーとグレースケールのイメージを OCR 処理するときに、次のどちらを優先するかを選択します。初期設定では、[速度優先] が選択されています。

- 速度優先
速度を優先する場合に選択します。
- 認識率優先
ファクス文書や繰り返しコピーした原稿などで画質が劣化している場合に選択します。処理に時間がかかりますが、認識率が向上します。

OCR の領域

OCR 処理をする領域を指定します。[全文 OCR] または [領域指定 OCR] のどちらかが選択できます。

ページ指定

[OCR の領域] で [全文 OCR] を選択した場合に設定します。

OCR 処理をするページを指定します。初期設定では、[全ページの全文にわたって OCR をする] が選択されています。

- 全ページの全文にわたって OCR をする
全ページの全文を OCR 処理する場合に選択します。
- 指定ページの全文にわたって OCR をする
指定したページの全文を OCR 処理する場合に選択します。

- ・ ページ数

OCR 処理をするページ番号を指定します。入力できる値は、半角の数字で、1 ～ 999 までと、カンマ (,) またはハイフン (-) です。入力できる文字数は、0 ～ 100 です。複数のページ番号を入力する場合は、カンマ (,) で区切ります。連続したページ番号を入力する場合は、最初のページと最後のページをハイフン (-) で区切ります。

言語

日本語版の DocuWorks を使用している場合で、[OCR の領域] で [全文 OCR] を選択したときに設定します。認識する言語の種類を、[日本語]、[英語] または [自動判別] から選択します。初期設定では、[日本語] が選択されています。

文書 / 表

日本語版の DocuWorks を使用している場合で、[OCR の領域] で [全文 OCR] を選択したときに設定します。認識する原稿を構成する要素を、[自動判別]、[表] または [文章] から選択します。初期設定では、[自動判別] が選択されています。

文字方向と段数

日本語版の DocuWorks を使用している場合で、[OCR の領域] で [全文 OCR] を選択したときに設定します。認識する原稿の段組を、[自動判別]、[横書き一段]、[横書き多段]、[縦書き一段] または [縦書き多段] から選択します。初期設定では、[自動判別] が選択されています。

ノイズ除去

[OCR の領域] で [全文 OCR] を選択した場合に設定します。

OCR を認識するときのノイズ除去の方法を、[しない]、[普通]、[弱く] または [強く] から選択します。初期設定では、[普通] が選択されています。

OCR 領域一覧

[OCR の領域] で [領域指定 OCR] を選択した場合に設定します。

OCR 処理をする領域を指定します。この項目を指定しないと、領域指定 OCR は追加できません。

-  追加
新規に領域を追加します。[OCR- ページ / 領域] 画面に移動します。
-  編集
チェックマークを付けた領域を編集します。[OCR- ページ / 領域] 画面に移動します。
-  削除
チェックマークを付けた領域を削除します。
-  領域指定ファイルからの追加
領域指定ファイルを読み込む場合に、クリックします。[OCR- 領域指定ファイルの読み込み] 画面に移動します。



領域指定ファイルとは、OCR 処理をする領域をあらかじめ「四角形」のアノテーションで指定した DocuWorks 文書（または DocuWorks バインダー）のことです。領域指定ファイルを使用すると、数値で入力する方法よりも簡単に領域を指定できます。

領域指定ファイルの作成方法は、『機能ガイド Flow Management Option 編』を参照してください。

- 一覧
OCR 処理をする領域の領域名、言語、ページ、範囲（幅 / 高さ）、位置（上 / 左）が表示されます。日本語版の DocuWorks を使用している場合は、OCR を認識するときのパラメータとなる文書の構成、OCR を認識するときのパラメータとなる文書の方向と段数およびノイズ除去の方法も表示されます。

OCR 結果をページごとに対応した属性として保存する

複数ページに OCR 処理をする場合、1 ページずつ別の属性として保存するときに、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークが付いています。

[システム共通設定]

OCR 処理に使用するソフトウェアを設定する場合に、クリックします。[OCR- システム共通設定] 画面に移動します。日本語版の DocuWorks を使用している場合に、表示されます。

加工方法＞ OCR ＞ OCR- ページ / 領域

OCR 処理をする領域を設定します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

属性選択で使用する名称（必須）

指定した領域に付ける名前を入力します。入力できる文字数は、0 ～ 20 です。

ページ指定（必須）

OCR 処理をするページ番号を指定します。入力できる値は、半角の数字で、1 ～ 999 までと、カンマ (,) またはハイフン (-) です。入力できる文字数は、0 ～ 100 です。複数のページ番号を入力する場合は、カンマ (,) で区切ります。連続したページ番号を入力する場合は、最初のページと最後のページをハイフン (-) で区切ります。

言語（必須）

認識する言語の種類を、[日本語]、[英語] または [自動判別] から選択します。初期設定では、[日本語] が選択されています。日本語版の DocuWorks を使用している場合に、表示されます。

文書 / 表（必須）

認識する原稿を構成する要素を、[自動判別]、[表] または [文章] から選択します。初期設定では、[自動判別] が選択されています。日本語版の DocuWorks を使用している場合に、表示されます。

文字方向と段数（必須）

認識する原稿の段組を、[自動判別]、[横書き一段]、[横書き多段]、[縦書き一段] または [縦書き多段] から選択します。初期設定では、[自動判別] が選択されています。日本語版の DocuWorks を使用している場合に、表示されます。

ノイズ除去（必須）

OCR を認識するときのノイズ除去の方法を、[普通]、[しない]、[弱く] または [強く] から選択します。初期設定では、[普通] が選択されています。

領域

OCR 処理をする領域を設定します。

- 開始位置
OCR 処理をする領域の位置を、原稿上端から左上までと原稿左端から左上までの距離 (mm) で入力します。初期設定は [0] です。入力できる値は、半角の数字で 0 ～ 2399 です。
- 範囲
OCR 処理をする領域の幅と高さ (mm) を入力します。初期設定は [1] です。入力できる値は、半角の数字で 1 ～ 2400 です。

加工方法＞ OCR ＞ OCR- 領域指定ファイルの読み込み

領域指定ファイルを指定します。

[OK]

〔領域指定ファイルの読み込み中〕画面に移動します。ここで [キャンセル] をクリックすると、領域指定ファイルの読み込みを中止して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

領域指定ファイル

[参照] をクリックして、領域指定ファイルを指定します。

加工方法＞ OCR ＞ OCR- システム共通設定

OCR 処理に使用するソフトウェアを選択します。日本語版 DocuWorks を使用している場合に設定できます。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

使用する OCR ソフトウェア

OCR 処理に使用するソフトウェアの種類を選択します。OCR 処理に使用するソフトウェアを [WinReaderPro] または [DocuWorks 内蔵] から選択できます。初期設定は [DocuWorks 内蔵] です。



補足

WinReader PRO は、株式会社 NTT データ NJK の OCR ソフトウェアです。
WinReader PRO を使用する場合は、日本語版 DocuWorks がサポートするバージョンの WinReader PRO がインストールされている必要があります。

加工方法＞ Database Query ＞ Database Query- 設定

外部のデータベースを検索し、得られた結果を属性として出力します。

この機能よりも前に処理される機能から属性を取得し、その属性の値をキーにしてデータベースを検索することもできます。



補足

- ・ この機能は、Flow Management サーバーが設置された OS の言語が日本語の場合にだけ使用できます。機能を使用するには、Database Query Option が必要です。
- ・ 機能の詳細は、弊社担当者にお問い合わせください。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

名称 (1 ～ 512 文字)

機能の名前を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 1 ～ 512 です。

入力しないと、「Database Query」が設定されます。

属性検索 SQL (必須)

データベースに問い合わせるための SQL 文を入力します。

- SQL 文

次の形式で SQL 文を指定します。

Select {検索対象フィールド名} , {検索対象フィールド名} ,... from {テーブル名} where {検索条件フィールド名} = \$KEYVALUE\$ order by {ソート基準フィールド名}

ほかの機能から取得した属性値を SQL 文に使用する場合は、属性値を「\$KEYVALUE\$」で表します。「\$KEYVALUE\$」は、複数個所に指定できます。

入力できる文字数は、4,096 バイト (2,048 文字程度) 以内です。

- キー属性

SQL 文で「\$KEYVALUE\$」を指定した場合は、検索キーにする属性を指定します。

[参照] をクリックして、表示される属性要素の一覧から対象の属性を選択します。選択した属性が、テキストボックスに表示されます。

- 参照

クリックすると、属性の要素を指定するページに移動します。

データベース接続情報 (必須)

検索するデータベースを指定します。

- プロバイダ名

データベースに接続するプロバイダの名前を、次のように入力します。

入力できる文字数は、全角で 0 ～ 256、半角で 0 ～ 512 です。

- Microsoft SQL Server に接続する場合
MSOLEDBSQL

- 接続文字列

データベースへの接続文字列を、次のように入力します。

入力できる文字数は、全角で 0 ～ 256、半角で 0 ～ 512 です。

- Microsoft SQL Server に接続する場合
Server= {SQL Server 名} ;UID= {ユーザー ID} ;PWD= {パスワード} ;Security Info=False;Initial Catalog= {データベース名}

検索結果が得られなかった時の値 (128 バイト (64 文字程度) 以内)

データベースを検索した結果が何も得られなかったときに、属性に設定する文字列を指定します。

入力できる文字数は、全角で 0 ～ 64、半角で 0 ～ 128 です。

加工方法>文書名>文書名 - 文書名設定

文書に名前を付けます。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

名称

機能の名前を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ～ 512 です。入力しないと、「文書名」が設定されます。

文書名の要素 (必須)

文書名の要素を指定します。

- **[+ 追加]**
新規に文書名の要素を追加します。属性の要素を指定するページに移動します。
- **[X 削除]**
一覧でチェックマークを付けた文書名の要素を削除します。
- **[↑ 上へ移動]**
選択した文書名の要素が 1 つ上へ移動します。
- **[↓ 下へ移動]**
選択した文書名の要素が 1 つ下へ移動します。
- 一覧
 - ・ 属性
要素を属性から指定した場合は、選択した属性名を含む要素が表示されます。任意の文字列で指定した場合は、[ユーザー定義文字列] が表示されます。属性が存在しない場合は、「属性なし」を表示します。
 - ・ 文字数
文字数制限ありの場合は、制限文字数を表示します。文字数制限なし、および属性が存在しない場合は、ハイフン (-) を表示します。
 - ・ アイコン
 (編集)：クリックすると、属性の要素を指定するページに移動します。
 (削除)：クリックすると、一覧でチェックマークを付けた文書名の要素を削除します。
- 要素間に区切り文字を挿入する
文書名の要素と要素の間に区切り文字を挿入する場合に、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークが付いています。
- 区切り文字
[要素間に区切り文字を挿入する] にチェックマークを付けたときの、区切り文字を入力します。入力できる文字数は、半角の文字で 1 です。初期設定はハイフン (-) です。
- 文書名例
要素を属性から指定した場合は、選択した属性名（属性表示名）を表示します。任意の文字列で指定した場合は、任意指定した文字列を表示します。属性が存在しない場合は、空欄になります

属性を取得できなかったときの文書名

文書名の属性が取得できなかった場合に使用する文書名を入力します。入力できる文字数は、半角で 0 ～ 128、全角で 0 ～ 64 です。何も入力しなかった場合、かつ属性を取得できなかった場合には、「NO_NAME」が設定されます。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

加工方法>文書名>文書名 - 要素設定

属性と任意の文字列を組み合わせるときの、要素を指定します。
タイトルには、設定する機能の名前が表示されます。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

属性から指定する

要素を属性から指定する場合に選択します。

- 属性一覧
指定できる属性が表示されます。一覧から、属性名を選択します。

- バイト数を制限する / 文字数を制限する
バイト数または文字数を制限する場合に、チェックマークを付け、テキストボックスに上限値を入力します。
() の中に、入力できるバイト数または文字数が表示されます。



選択している機能によっては、この項目が表示されないこともあります。

任意の文字列で指定する

要素を任意の文字列で指定する場合に選択し、テキストボックスに文字列を入力します。

() の中に、入力できる文字数が表示されます。

入力を禁止している文字がある場合は、[入力できない文字:] のあとに禁止文字が表示されます。



選択している機能によっては、この項目が表示されないこともあります。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

加工方法>フォーム解析>フォーム解析 - フォーム解析設定

フォームの記入内容の解析に関する設定をします。解析した結果を使って加工処理をしたり、解析結果を出力属性として利用したりできます。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

名称 (1 ~ 480 文字程度)

フォーム解析の設定の名前を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 1 ~ 480 です。入力しないと、「フォーム解析」が設定されます。

属性一覧 (必須)

解析の対象になるフォームのリソースグループを、ドロップダウンリストボックスから選択します。

QR コードの読み取り設定

QR コードの読み取り方法を設定します。[認識率優先] が選択されている場合は、処理に時間がかかりますが、認識率は向上します。

フォームイメージファイルを出力文書に含める

[フォーム解析] 機能が出力する文書から、入力時にあったフォームを削除するかどうかを指定します。

フォームを含めるときは、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークは外れています。

チェックマークを外すと、出力文書にフォームは含まれません。ただし、入力文書がフォームだけの場合は、フォームが出力されます。



フォームに OCR 処理が設定されている場合、OCR は [フォーム解析] が出力する文書に対して実施されます。[フォームイメージファイルを出力文書に含める] のチェックマークを外すと、OCR 結果にもフォームは含まれません。

文書の先頭ページのみフォームを解析する

文書の先頭ページ（マルチページフォームの場合は、その構成ページ）だけフォーム解析をする場合は、チェックマークを付けます。この設定をすると、設定しないときよりもジョブの処理が速くなります。初期設定では、チェックマークは外れています。



補足

この設定をすると、先頭ページ以外のフォームは解析されません。複数のフォームを一括に処理する場合は、設定しないでください。

エラーを無視して処理を継続する

フォーム解析中にエラーが発生した場合に、エラーを無視してジョブの処理を継続するときは、チェックマークを付けます。エラーとなった文書からは、フォームに記述されている情報は取得されません。初期設定では、チェックマークは外れています。

- 解析エラー属性の値（512 バイト（256 文字程度）以内）
[エラーを無視して処理を継続する] にチェックマークを付けたときに、エラーが発生したジョブの属性値に設定する文字を入力します。
エラーになった属性の値が、ここで入力した値に置き換えられ、正常に抽出できた属性の値とともに出力されます。たとえば、「解析エラー」と入力すると、エラーになった属性の値だけ「解析エラー」となります。このため、エラーになった属性を区別できます。
入力できる文字数は、全角で 0 ～ 256、半角で 0 ～ 512 です。何も指定しない場合は、フォームに記述されている情報はすべて取得されません。



補足

次の文字は使用できません。

円 (¥)、スラッシュ (/)、コロン (:)、カンマ (,)、セミコロン (;)、アスタリスク (*)、クエスチョン (?)、ダブルクォート (")、山かっこ (<>)、パイプ (|)

- 異常終了データのバックアップ
ジョブが異常終了した場合に、データをバックアップするときに、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークは外れています。
- 共有フォルダーの場所（256 バイト（128 文字程度）以内）（必須）
[異常終了データのバックアップ] にチェックマークを付けたときに、バックアップする共有フォルダーのパスを、¥ または // で始まる UNC 形式で入力します。
フォルダーの区切り文字には、円 (¥)、またはスラッシュ (/) を使用します。
例：¥hostname¥folder1¥sub1、//192.0.2.1/folder1/sub1
入力できる文字数は、全角で 0 ～ 128、半角で 0 ～ 256 です。



補足

次の文字は使用できません。

カンマ (,)、セミコロン (;)、アスタリスク (*)、クエスチョン (?)、ダブルクォート (")、山かっこ (<>)、パイプ (|)

- ユーザー名（1 ～ 256 バイト（128 文字程度））（必須）
[異常終了データのバックアップ] にチェックマークを付けたときに、バックアップするための共有フォルダーにアクセスするユーザー名を入力します。
入力できる文字数は、全角で 1 ～ 128、半角で 1 ～ 256 です。
[ユーザー名] にドメインを指定する形式は、以下の方法に対応しています。
 - ・ DNS 形式
「Domain.co.jp¥user」のように、「ドメイン名 ¥ ユーザー名」の形式で指定します。
 - ・ NetBIOS 形式
「DOMAIN¥user」のように、「NetBIOS ドメイン名 ¥ ユーザー名」の形式で指定します。
 - ・ UPN 形式
「user@Domain.co.jp」のように、「ユーザー名 @ ドメイン名」の形式で指定します。



次の文字は使用できません。

スラッシュ (/)、大かっこ ([])、ダブルクォート (")、コロンの (:)、セミコロン (;)、パイプ (|)、山かっこ (< >)、プラス (+)、イコール (=)、カンマ (,)、クエスチョン (?)、アスタリスク (*)

- パスワード (1 ~ 128 バイト (64 文字程度)) (必須)
[正常終了フォームイメージのバックアップ] にチェックマークを付けたときに、バックアップするための共有フォルダーにアクセスするユーザーのパスワードを入力します。
入力できる文字数は、全角で 1 ~ 64、半角で 1 ~ 128 です。
- パスワードの確認 (1 ~ 128 バイト (64 文字程度)) (必須)
確認のためのパスワードを再入力します。

正常終了フォームイメージのバックアップ

ジョブが正常に終了した場合に、フォームイメージをバックアップするときは、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークは外れています。

- 共有フォルダーの場所 (256 バイト (128 文字程度) 以内) (必須)
[正常終了フォームイメージのバックアップ] にチェックマークを付けたときに、バックアップする共有フォルダーのパスを、¥ または // で始まる UNC 形式で入力します。
フォルダーの区切り文字には、円 (¥)、またはスラッシュ (/) を使用します。
例: ¥hostname¥folder1¥sub1、//192.0.2.1/folder1/sub1
入力できる文字数は、全角で 0 ~ 128、半角で 0 ~ 256 です。



次の文字は使用できません。

カンマ (,)、セミコロン (;)、アスタリスク (*)、クエスチョン (?)、ダブルクォート (")、山かっこ (< >)、パイプ (|)

- ユーザー名 (1 ~ 256 バイト (128 文字程度)) (必須)
[正常終了フォームイメージのバックアップ] にチェックマークを付けたときに、バックアップするための共有フォルダーにアクセスするユーザー名を入力します。
入力できる文字数は、全角で 1 ~ 128、半角で 1 ~ 256 です。
[ユーザー名] にドメインを指定する形式は、以下の方法に対応しています。
- DNS 形式
「Domain.co.jp¥user」のように、「ドメイン名 ¥ ユーザー名」の形式で指定します。
- NetBIOS 形式
「DOMAIN¥user」のように、「NetBIOS ドメイン名 ¥ ユーザー名」の形式で指定します。
- UPN 形式
「user@Domain.co.jp」のように、「ユーザー名 @ ドメイン名」の形式で指定します。



次の文字は使用できません。

スラッシュ (/)、大かっこ ([])、ダブルクォート (")、コロンの (:)、セミコロン (;)、パイプ (|)、山かっこ (< >)、プラス (+)、イコール (=)、カンマ (,)、クエスチョン (?)、アスタリスク (*)

- パスワード (1 ~ 128 バイト (64 文字程度)) (必須)
[正常終了フォームイメージのバックアップ] にチェックマークを付けたときに、バックアップするための共有フォルダーにアクセスするユーザーのパスワードを入力します。
入力できる文字数は、全角で 1 ~ 64、半角で 1 ~ 128 です。
- パスワードの確認 (1 ~ 128 バイト (64 文字程度)) (必須)
確認のためのパスワードを再入力します。

加工方法 > OmniPage (R) Barcode Reader > OmniPage (R) Barcode Reader 設定

文書中の 1 次元バーコードを読み取り、文書属性として出力します。バーコードを処理するソフトウェアには、OmniPage を使用します。

バーコードの読み取り対象領域に全ページを指定した場合は、文書属性が 1 つだけ出力されます。複数のページを指定した場合は、1 ページずつ属性が出力されます。



- ・ [OmniPage(R) Barcode Reader] 機能が出力できる属性の数は、最大 64 個です。1 つの属性に出力できる属性値の長さは、最大 255 バイトです。バーコードの認識結果が 255 バイトを超えた場合は、制限値まで出力され、それ以降は出力されません。
- ・ 処理できる文書数、および処理できるページ数は、どちらも最大 999 です。この制限を超えた文書が入力されると、エラーになります。
- ・ 1 ジョブ中に認識可能なバーコードの数は、最大 256 個です。
- ・ この機能を使用するには、OmniPage Barcode Reader Option が必要です。OmniPage は、Kofax 社の製品です。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

名称

機能の名前を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 1 ～ 512 です。入力しないと、「バーコードリーダー」が設定されます。

領域一覧 (必須)

バーコードを認識する領域を設定します。

- ・ 追加
新規に領域設定を追加します。[OmniPage (R) Barcode Reader 設定 - ページ領域設定] 画面に移動します。
- ・ 編集
一覧でチェックマークを付けた領域設定を編集します。[OmniPage (R) Barcode Reader 設定 - ページ領域設定] 画面に移動します。
- ・ 削除
一覧でチェックマークを付けた領域設定を削除します。
- ・ 一覧
 - ・ [OmniPage (R) Barcode Reader 設定 - ページ領域設定] 画面で設定した [領域名]、[種類]、[ページ]、[領域指定]、[範囲 (幅 / 高さ)]、および [位置 (上 / 左)] が表示されます。
 - ・ アイコン
 - (編集) : クリックすると、[OmniPage (R) Barcode Reader 設定 - ページ領域設定] 画面に移動します。
 - (削除) : クリックすると、一覧でチェックマークを付けた領域設定を削除します。

文書分割

バーコードによる文書の分割方法を設定します。



入力文書のフォーマットによっては分割できないものもあります。詳しくは、『機能ガイド Flow Management Option 編』の「付録」の「対応する入出力フォーマット」を参照してください。

- ・ 読み取ったバーコードによって文書を分割する
読み取ったバーコードで文書を分割する場合に、チェックマークを付けます。
- ・ 文書分割指定
[読み取ったバーコードによって文書を分割する] にチェックマークを付けた場合に有効になります。文書を分割する方法を詳しく指定します。初期設定では、[全てのバーコードによって分割する] が選択されています。

- 全てのバーコードによって分割する
バーコードがあるページで、文書を分割します。読み取られたすべてのバーコードが分割の対象になります。
- 読み取ったバーコードの値によって分割する
指定した文字列と、実際に読み取ったバーコードの値を比較して一致したときに、そのバーコードがあるページで文書を分割します。
テキストボックスに、バーコードと比較する文字列を入力して、[追加] をクリックします。入力できる文字数は、半角の英数字で 0 ～ 128 です。
バーコードと比較する文字列は、50 個まで追加できます。
- 追加
テキストボックスに入力した文字列を、[バーコード読み取り値一覧] に追加します。
- 削除
[バーコード読み取り値一覧] で選択した文字列を削除します。
- バーコード読み取り値一覧
追加した文字列の一覧が表示されます。
- 分割ページ設定
[読み取ったバーコードによって文書を分割する] にチェックマークを付けた場合に有効になります。
分割の基点となるページの処理方法を、次から選択します。初期設定では [分割ページを削除する] が選択されています。
 - 分割ページを削除する
分割の基点となるページを、分割後の文書から削除します。
すべてのページが分割の基点となる場合は、エラーとなります。
 - 分割ページを最初にする
分割の基点となるページを、分割後の文書の 1 ページめに配置します。
すべてのページが分割の基点となる場合は、1 ページごとに文書を分割します。
1 ページめが分割の基点となる場合は、文書を分割しません。
 - 分割ページを最後にする
分割の基点となるページを、分割後の文書の最終ページに配置します。
すべてのページが分割の基点となる場合は、1 ページごとに文書を分割します。
最終ページが分割の基点となる場合は、文書を分割しません。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

加工方法 > OmniPage (R) Barcode Reader > OmniPage (R) Barcode Reader 設定 - ページ領域設定

文書のバーコードを認識する領域を設定します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

領域名 (必須)

領域の名前を入力します。入力できる文字数は、半角で 0 ～ 32 です。

種類 (必須)

認識するバーコードの種類を、[自動]、[Codabar]、[Code 128]、[Code 39]、[EAN 8/13]、[ITF (2 of 5 interleaved)]、[ITF (CheckDigit)]、[Postnet]、[UPC]、[UCC Code 128] から選択します。初期設定では [自動] が選択されています。

[ITF(2 of 5 interleaved)] を選択した場合は、チェックデジットなしの ITF バーコードが認識されます。

[ITF(CheckDigit)] を選択した場合は、チェックデジット付きの ITF バーコードが認識されます。ただし、出力結果には、チェックデジットの値を除去した結果が格納されます。

ページ指定 (必須)

バーコードの認識対象とするページを指定します。初期設定では [全ページを指定する] が選択されています。

- 全ページを指定する
すべてのページを、バーコードの認識対象とします。
- 指定ページのみ処理する
バーコードを認識するページを指定します。入力できる値は、半角の数字で、1 ～ 999 までと、カンマ (,) またはハイフン (-) です。複数のページ番号を入力する場合は、カンマ (,) で区切ります。連続したページ番号を入力する場合は、最初のページと最後のページをハイフン (-) で区切ります。

領域指定 (必須)

バーコードの認識対象とする領域（位置、範囲）を指定するかどうか選択します。初期値は [自動] です。

- 自動
バーコードを自動で検出します。
- 指定する
バーコードが記述されている位置と範囲を、数値やイメージで指定します。正確にバーコードを認識するためには、この方法を推奨します。

領域

[領域指定] で [指定する] を選択した場合に有効になります。

- 領域指定ファイル
領域指定ファイルを読み込む場合は、[参照] をクリックして、表示されたファイル一覧から対象のファイルを選択します。
選択した領域指定ファイルの内容が、イメージ表示エリアに表示されます。



領域指定ファイルとは、バーコードの位置や範囲を示すイメージを貼り付けたファイルです。

領域指定ファイルには、JPEG、TIFF、PDF、BMP、GIF、および PNG 形式のファイルを指定できます。

- [参照]
クリックすると、[OmniPage (R) Barcode Reader 設定 - 領域指定ファイルの選択] 画面に移動します。
ここで、領域指定ファイルを選択します。
- イメージ表示エリア
選択した領域指定ファイルのイメージが表示されます。カーソルのドラッグ操作でバーコードイメージを選択し（枠で囲み）、位置と範囲を決定します。
- ページ
読み込んだ領域指定ファイルに複数のページがあった場合は、該当するページを指定して、該当ページのイメージを表示します。
- 位置
原稿の上端からバーコードの左上までの距離 (mm) と、原稿の左端からバーコードの左上までの距離 (mm) を入力します。入力できる値は、半角の数字で 0 ～ 499 です。初期設定は [0] です。
- 範囲
バーコードの幅と高さ (mm) を入力します。入力できる値は、半角の数字で 1 ～ 500 です。初期設定は [1] です。

加工方法 > OmniPage (R) Barcode Reader > OmniPage (R) Barcode Reader 設定 - 領域指定ファイルの選択

領域指定ファイルを選択します。



ここで選択できるファイルは、あらかじめ【環境設定】>【初期設定】>【フロー管理の環境設定】>【各機能の設定】画面で登録されたファイルだけです。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

一覧

一覧から、領域指定ファイルを選択します。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

加工方法> OmniPage(R) OCR > OmniPage(R) OCR 設定

OCR エンジンに OmniPage を使用して、文書の OCR 処理や文字情報の抽出をします。抽出した文字情報は、指定のフォーマットに変換できます。



この機能を使用するには、Scan OCR Option が必要です。
OmniPage は、Kofax 社の製品です。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

名称

機能の名前を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ～ 512 です。

名称を入力しないと、次のようになります。

- 【OCR の領域】で【全文 OCR】、【ページ指定】で【全ページ処理する】を選択した場合：「全ページ全文 OCR」が設定されます。
- 【OCR の領域】で【全文 OCR】、【ページ指定】で【指定ページのみ処理する】を選択した場合：「指定ページ全文 OCR」が設定されます。
- 【OCR の領域】で【領域指定 OCR】を選択した場合：「領域指定 OCR」が設定されます。

OCR の領域

OCR 処理をする領域を指定します。【全文 OCR】または【領域指定 OCR】のどちらかが選択できます。

OCR オプション

クリックすると、【OmniPage(R) OCR 設定－オプション】画面に移動します。前処理として入力イメージの回転、反転、スキュー補正をするかどうかを指定します。また、認識不可文字など、文字認識機能に関する初期設定を指定します。

ページ指定

【OCR の領域】で【全文 OCR】を選択した場合に設定します。

OCR 処理をするページを指定します。初期設定では、【全ページ処理する】が選択されています。

- 全ページ処理する
全ページの全文を OCR 処理をする場合に選択します。
- 指定ページのみ処理する
指定したページの全文を OCR 処理をする場合に選択します。
 - ・ ページ
OCR 処理をするページ番号を指定します。入力できる値は、半角の数字で、1 ～ 999 までと、カンマ (,) またはハイフン (-) です。入力できる文字数は、0 ～ 100 です。複数のページ番号を入力する場合は、カンマ (,) で区切ります。連続したページ番号を入力する場合は、最初のページと最後のページをハイフン (-) で区切ります。

OCR 領域一覧

[OCR の領域] で [領域指定 OCR] を選択した場合に設定します。

OCR 処理をする領域を指定します。この項目を指定しないと、領域指定 OCR は追加できません。

- [ 追加]
新規に領域を追加します。[OmniPage(R) OCR 設定－ページ / 領域] 画面に移動します。
- [ 編集]
チェックマークを付けた領域を編集します。[OmniPage(R) OCR 設定－ページ / 領域] 画面に移動します。
- [ 削除]
チェックマークを付けた領域を削除します。
- [ 領域指定ファイルからの追加]
領域を指定した PDF ファイルを読み込む場合に、クリックします。[OmniPage(R) OCR 設定－領域指定ファイルの読み込み] 画面に移動します。



領域指定ファイルは、OCR 処理をする領域をあらかじめ矩形のアノテーション（注釈ツールの長方形ツールで作成）で囲んだ PDF ファイルです。領域指定ファイルを使用すると、数値で入力する方法よりも簡単に領域を指定できます。

領域指定ファイルの作成方法は、『機能ガイド Flow Management Option 編』を参照してください。

- 一覧
OCR 処理をする領域の領域名、種類、ページ、範囲（幅 / 高さ）、位置（上 / 左）が表示されます。

OCR 結果をページごとに対応した属性として保存する

複数ページに OCR 処理をする場合、1 ページずつ別の属性として保存するときに、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークが付いています。

変換設定

文書をフォーマット変換するかどうかを選択します。初期設定は [オリジナルフォーマットのまま文書出力する] です。

- オリジナルフォーマットのまま文書出力する
文書を変換しないで、オリジナルの文書フォーマットで出力します。OCR 処理結果は、文書属性として出力されます。
- 指定したフォーマットで文書出力する
OCR 処理結果を、指定したフォーマットに変換して、文書として出力します。OCR 処理結果は、文書属性として出力されます。
この項目を選択すると、[出力フォーマット]、[カスタムレイアウト]、および [オリジナルのページ画像を保持する] が設定可能になります。
- [出力フォーマット]
出力するフォーマットを次から選択します。
 - ・ テキスト（プレーン）
 - ・ テキスト（カンマ区切り）

- ・ Adobe PDF
- ・ 代替イメージ付き PDF
- ・ サーチャブル PDF
- ・ WordPerfect 9,10
- ・ PowerPoint 97 (RTF)
- ・ Publisher 98 (RTF)
- ・ Word 2007
- ・ Excel 2007
- ・ PowerPoint 2007
- [カスタムレイアウト]
クリックすると、[OmniPage(R) OCR 設定 - カスタムレイアウト] 画面に移動します。フォーマット変換した結果を、出力フォーマットにどのようなオブジェクトとして配置するかを指定します。
この項目は、[全文 OCR] を選択したときにだけ、設定できます。
- オリジナルのページ画像を保持する
オリジナルイメージファイルのページイメージを保存するときに、チェックマークを付けます。
この項目は、[全文 OCR] の [指定ページのみ処理する] か [領域指定 OCR] のどちらかを選択し、かつ、[変換設定] の [出力フォーマット] で [サーチャブル PDF] を選択したときにだけ、設定できます。
初期設定は、チェックマークが外れています。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

加工方法＞ OmniPage(R) OCR ＞ OmniPage(R) OCR 設定－ページ / 領域

OCR 処理をする領域を設定します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

領域名 (必須)

指定した領域に付ける名前を入力します。入力できる文字数は、0 ～ 20 です。

種類 (必須)

指定した領域内のデータの種類を選択します。[文章]、[表]、[図] から選択できます。初期設定は [文章] です。
[OmniPage(R) OCR 設定] 画面の [変換設定] の [オリジナルフォーマットのまま文書出力する] を選択している場合は、どの種類を選択しても出力される文書の内容は同じになります。

ページ (必須)

OCR 処理をするページ番号を指定します。入力できる値は、半角の数字で、1 ～ 999 までと、カンマ (,) またはハイフン (-) です。入力できる文字数は、0 ～ 100 です。複数のページ番号を入力する場合は、カンマ (,) で区切ります。連続したページ番号を入力する場合は、最初のページと最後のページをハイフン (-) で区切ります。

領域

OCR 処理をする領域を設定します。

- 位置
OCR 処理をする領域の開始位置を、原稿上端からの距離 (mm) と、原稿左端からの距離 (mm) で入力します。初期設定は [0] です。入力できる値は、半角の数字で 0 ～ 499 です。
- 範囲

OCR 処理をする領域の幅と高さ (mm) を入力します。初期設定は [1] です。入力できる値は、半角の数字で 1 ～ 500 です。

加工方法 > OmniPage(R) OCR > OmniPage(R) OCR 設定－オプション

OCR 処理のオプション項目を設定します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

[前処理] タブ

入力イメージに対して文字認識の精度を上げるために、次の前処理を実行します。

● 回転

入力イメージを回転するかどうかを指定します。初期設定は [自動] です。

- ・ 自動：
OCR エンジンが回転角度を判断します。
- ・ なし：
回転しません。
- ・ 左に 90 度：
すべてのイメージを、左に 90 度回転します。
- ・ 右に 90 度：
すべてのイメージを、右に 90 度回転します。
- ・ 180 度：
すべてのイメージを、180 度回転します。

● 反転

入力イメージを反転するかどうかを指定します。初期設定は [自動] です。

- ・ 自動：
OCR エンジンが必要と判断した場合に、イメージを反転します。
- ・ する：
すべてのイメージを反転します。
- ・ しない：
反転しません。

● スキュー補正

入力イメージをスキュー補正するかどうかを指定します。初期設定は [する] です。

- ・ する：
すべてのイメージを、スキュー補正します。
- ・ しない：
スキュー補正は行いません。

[OCR オプション] タブ

文字認識機能に関する初期設定を指定します。

● 言語

OCR エンジンが文字として認識する言語が表示されます。この項目は変更できません。

● コードページ

OCR エンジンが文字認識結果を出力するときに使用するコードページが、次のように表示されます。この項目は変更できません。

[言語] が [日本語] の場合は、[Shift-JIS] が表示されます。

〔言語〕が〔英語〕の場合は、〔Windows ANSI〕が表示されます。

〔言語〕が〔簡体字中国語〕の場合は、〔EUC-CN〕が表示されます。

〔言語〕が〔繁体字中国語〕の場合は、〔EUC-TW〕が表示されます。

〔言語〕が〔韓国語〕の場合は、〔UHC〕が表示されます。

〔言語〕が〔タイ語〕の場合は、〔Unicode〕が表示されます。

- 認識不可文字

認識できない文字が検出されたときに、置き換える文字を入力します。

入力できる文字数は、半角で 1 です。初期値は、〔~〕です。

- 表示不可文字

認識はできるが、出力ファイルに表示できない文字が検出されたときに、置き換える文字を入力します。

入力できる文字数は、半角で 1 です。初期値は、〔^〕です。

- 処理タイムアウト

OCR 処理時のタイムアウト時間を、秒単位で指定します。ページ単位で実行される OCR 処理ごとに、タイムアウトが適用されます。

入力できる範囲は、1 ～ 999999 秒です。初期値は〔180〕秒です。

OCR 処理中にタイムアウトが発生した場合は、すでに処理が完了したページについては、ジョブ属性に OCR 結果が反映されます。ただし、フォーマット変換が指定されているときに、フォーマット変換された文書は出力されません。



補足

処理タイムアウトは、フォーマット変換処理には適用されません。

加工方法＞ OmniPage(R) OCR ＞ OmniPage(R) OCR 設定－カスタムレイアウト

フォーマット変換した結果を、出力フォーマットにどのようなオブジェクトとして配置するかを指定します。

〔OK〕

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

〔キャンセル〕

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

カスタムレイアウト

次から選択します。初期設定は〔自動〕です。

- 自動

入力イメージから認識したオブジェクトを、そのまま出力フォーマットに配置します。

- 表

ページ全体を表オブジェクトとして出力します。

- 図

ページ全体を図オブジェクトとして出力します。

加工方法＞ OmniPage(R) OCR ＞ OmniPage(R) OCR 設定－領域指定ファイルの読み込み

領域指定ファイルを指定します。

〔OK〕

〔領域指定ファイルの読み込み中〕画面に移動します。ここで〔キャンセル〕をクリックすると、領域指定ファイルの読み込みを中止して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

領域指定ファイル

[参照] をクリックして、領域指定ファイルを指定します。

加工方法＞加工方法の編集

加工方法を編集します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

加工方法

機能の名前が表示されます。

[機能の編集]

[加工方法] に表示されている機能の名前によって、移動先のページが変わります。

- [加工方法] に [QR コードリーダー] 機能で設定した機能の名前が表示されている場合
[QR コードリーダー - 読み取り設定] 画面に移動します。
- [加工方法] に [フォーマット変換] 機能で設定した機能の名前が表示されている場合
次のどれかのページに移動します。
 - ・ [フォーマット変換 - フォーマット変換設定] 画面 (TIFF 変換の場合)
 - ・ [フォーマット変換 - フォーマット変換設定] 画面 (JPEG 変換の場合)
 - ・ [フォーマット変換 - フォーマット変換設定] 画面 (TIFF/JPEG 変換の場合)
 - ・ [フォーマット変換 - フォーマット変換設定] 画面 (DocuWorks 変換の場合)
 - ・ [フォーマット変換 - フォーマット変換設定] 画面 (PDF 変換の場合)
- [加工方法] に [イメージ加工] 機能で設定した機能の名前が表示されている場合
[イメージ加工 - イメージ加工設定] 画面に移動します。
- [加工方法] に [属性マッピング] 機能で設定した機能の名前が表示されている場合
[属性マッピング - 設定] 画面に移動します。
- [加工方法] に [OCR] 機能で設定した機能の名前が表示されている場合
[OCR 設定 - OCR 設定] 画面に移動します。
- [加工方法] に [文書名] 機能で設定した機能の名前が表示されている場合
[文書名 - 文書名設定] 画面に移動します。
- [加工方法] に [フォーム解析] 機能で設定した機能の名前が表示されている場合
[フォーム解析 - フォーム解析設定] 画面に移動します。
- [加工方法] に [OmniPage(R) OCR] 機能で設定した機能の名前が表示されている場合
[OmniPage(R) OCR 設定] 画面に移動します。
- [加工方法] に [OmniPage (R) Barcode Reader] 機能で設定した機能の名前が表示されている場合
[OmniPage (R) Barcode Reader 設定] 画面に移動します。
- [加工方法] に [Database Query] 機能で設定した機能の名前が表示されている場合
[Database Query 設定] 画面に移動します。
- [加工方法] に [属性加工データ取り込み] 機能で設定した機能の名前が表示されている場合
[属性加工データ取り込み - 設定] 画面に移動します。
- [加工方法] に [属性加工 CSV 設定] 機能で設定した機能の名前が表示されている場合

〔属性加工 CSV 設定 - 設定〕画面に移動します。

- 〔加工方法〕に〔属性加工 CSV 作成〕機能で設定した機能の名前が表示されている場合
〔属性加工 CSV 作成 - 設定〕画面に移動します。

対話処理

加工方法の機能に〔対話処理〕機能を設定している場合は、〔利用者対話設定画面〕画面で設定した名前が表示されます。〔対話処理〕機能を設定していない場合は「設定なし」が表示されます。

〔対話処理の追加〕

〔対話処理の編集〕

〔対話処理〕機能を設定していない場合は、〔対話処理の追加〕が表示されます。設定済みの〔対話処理〕機能がある場合は〔対話処理の編集〕が表示されます。〔利用者対話設定画面〕画面に移動します。



ほかの加工方法で〔対話処理〕機能を設定している場合は、〔対話処理の追加〕は選択できません。

〔対話処理の削除〕

設定されている〔対話処理〕機能を削除する場合に、クリックします。

通知処理

対話操作が必要になったときに、ユーザーにメールで通知する場合の設定をします。〔対話処理〕機能が設定されている場合に表示されます。

- 追加
新規に通知処理を追加する場合は「通知メール (SMTP)」を選択します。〔通知メール - 通知メール設定〕画面に移動します。
- 〔削除〕
一覧で選択した通知処理を削除する場合にクリックします。
- 一覧
設定済みの通知処理が一覧で表示されます。
- アイコン
 (編集) : クリックすると、〔通知処理の編集〕画面に移動します。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

加工方法＞加工方法の編集＞利用者対話設定画面

選択した加工方法に、対話処理を設定します。

名称

〔加工方法の編集〕画面で、対話処理の名称として表示される名前を入力します。入力できる文字数は全角または半角で 0 ～ 512 です。入力しないと、「対話操作」が設定されます。

コメント

〔待ちジョブ一覧〕画面で表示する、対話操作のコメントを入力します。入力できる文字数は全角または半角で 0 ～ 512 です。

取り扱い対象文書属性

〔待ちジョブ参照〕画面または〔待ちジョブ操作〕画面で表示または編集する文書属性を設定します。

- 〔 追加〕
取り扱い対象の文書属性を追加する場合にクリックします。文書属性の要素を指定するページに移動しま

す。

- **[✕削除]**

取り扱い対象の文書属性を削除する場合にクリックします。

- **一覧**

設定した取り扱い文書属性が表示されます。

文書属性のモードは、[編集可能] または [読み取り専用] を選択できます。[編集可能] を選択すると、[待ちジョブ操作] 画面で文書属性を変更できます。

ただし、[編集可能] を設定した場合も、属性値が 512 文字より大きいときは、読み取り専用として表示されます。また、[文書名] 機能の [文書名] 属性は、編集可能にできません。読み取り専用になります。

プレビューのための構成

[拡縮率] を設定する場合に、チェックマークを付けます。

拡縮率

[待ちジョブ参照] 画面または [待ちジョブ操作] 画面で、プレビューを表示するときの拡縮率の既定値を選択します。初期設定では、[100] %が選択されています。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

加工方法>加工方法の編集>通知処理の編集

設定済みの通知処理を編集します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

通知

[通知メール - 通知メール設定] 画面で設定した機能の名前が表示されます。

[機能の編集]

[通知メール - 通知メール設定] 画面に移動します。

加工方法>加工方法のプロパティ

加工方法に関する情報を表示します。

[戻る]

元のページに戻ります。

加工方法

機能の名前が表示されます。

[詳細]

設定済みの [加工方法] 機能のプロパティページに移動します。

対話処理

加工方法の機能に [対話処理] 機能を設定している場合は、[利用者対話設定画面] 画面で設定した名前が表示されます。[対話処理] 機能を設定していない場合は「設定なし」が表示されます。

【対話のプロパティ】

【対話処理】機能が設定されているときに表示されます。【利用者対話設定画面】画面に移動し、設定した内容が表示されます。

通知

【通知処理】機能が設定されているときに表示されます。 (プロパティ)：クリックすると、【通知のプロパティ】画面に移動します。

加工方法＞加工方法のプロパティ＞通知のプロパティ

通知メールに関する情報を表示します。

【戻る】

元のページに戻ります。

【詳細】

【通知メール - プロパティ】画面に移動します。【通知メール - 通知メール設定】画面で設定した内容が表示されます。

配信先＞アプリケーション連携＞アプリケーション連携 - アプリケーション連携設定 【パラメータ】 タブ

処理した文書を、さらに別のアプリケーションで処理するための設定をします。

【OK】

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

【キャンセル】

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

名称（1 ～ 512 文字）

機能の名前を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ～ 512 です。入力しないと、実行ファイルの名前が設定されます。

実行ファイル（256 バイト（128 文字程度）以内）（必須）

【アプリケーション連携－実行ファイルの選択】画面で選択した、実行ファイルのパスが表示されます。入力できません。

【参照】

【アプリケーション連携－実行ファイルの選択】画面に移動します。

作業用フォルダー（256 バイト（128 文字程度）以内）（必須）

【アプリケーション連携－作業用フォルダーの選択】画面で選択した、作業用フォルダーのパスが表示されます。入力できません。

【参照】

【アプリケーション連携－作業用フォルダーの選択】画面に移動します。

ユーザー名（256 バイト（128 文字程度）以内）

【実行ファイル】を実行するユーザー名を入力します。

入力できる文字数は、全角で 0 ～ 128、半角で 0 ～ 256 です。

【ユーザー名】と【パスワード】の入力がない場合は、Flow Management サービスの実行アカウント（NETWORK SERVICE）が使用されます。



補足

次の文字は使用できません。

スラッシュ (/)、大かっこ ([])、ダブルクォート (")、コロンの (:)、セミコロン (;)、パイプ (|)、山かっこ (< >)、プラス (+)、イコール (=)、カンマ (,)、クエスチョン (?)、アスタリスク (*)

パスワード (128 バイト (64 文字程度) 以内)

「実行ファイル」を実行するときのパスワードを入力します。

入力できる文字数は、全角で 0 ～ 64、半角で 0 ～ 128 です。

パスワードの確認 (128 バイト (64 文字程度) 以内)

確認のためのパスワードを再入力します。

ラインパラメータを設定する

ラインパラメータを設定するときにチェックマークを付け、ラインパラメータの文字列を入力します。初期設定では、チェックマークは外れています。ラインパラメータとは、実行ファイルをコマンドプロンプトで実行する場合に、引数として渡すパラメータです。

入力できる文字数は、全角で 0 ～ 128、半角で 0 ～ 256 です。

マクロを展開する

ラインパラメータ内に記述されたマクロを展開してアプリケーションに渡す場合に、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークは外れています。



補足

マクロには次のものがあります。

- ・ ImageCount
実行ファイルに渡すファイル数です。
 - ・ FirstImage
実行ファイルに渡す最初のファイル名 (絶対パスを含む) です。
 - ・ ImageFiles
実行ファイルに渡すすべてのファイル名リストです。各ファイル名に絶対パスを含みます。各ファイル名の間はカンマ (,) で区切ります。
 - ・ FileOrDirectory
実行ファイルに渡すファイルが 1 つの場合はそのファイル名 (絶対パスを含む)、複数の場合はファイルが格納されているフォルダー (絶対パス) です。前段で文書分割される場合は、分割したフォルダー (絶対パス) のリストです。各フォルダーの間はカンマ (,) で区切ります。
 - ・ SavedDocumentPath
作業フォルダーを格納します (絶対パス)。FileOrDirectory と同じ値が展開されます。
- ラインパラメータでマクロを指定する場合は、マクロを「\$」で囲みます。

属性から指定する

アプリケーションに渡すパラメータを属性から指定する場合に、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークは外れています。

- 一覧
設定した属性が表示されます。
- [追加]
属性を新規に追加する場合にクリックします。属性の要素を指定するページに移動します。
- [削除]
選択した属性を削除する場合にクリックします。
- [上へ移動]
選択した属性が 1 つ上へ移動します。
- [下へ移動]
選択した属性が 1 つ下へ移動します。

- 属性を連結してひとつのパラメータにする
一覧に表示されている属性をひとつのパラメータとしてアプリケーションに渡す場合に、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークは外れています。

配信先>アプリケーション連携>アプリケーション連携 - アプリケーション連携設定 [処理方式 / 終了判定] タブ

処理した文書を、さらに別のアプリケーションで処理するための設定をします。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

名称 (必須)

機能の名前を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ～ 512 です。入力しないと、実行ファイルの名前が設定されます。

実行ファイル (必須)

[アプリケーション連携－実行ファイルの選択] 画面で選択した、実行ファイルのパスが表示されます。入力できません。

[参照]

[アプリケーション連携－実行ファイルの選択] 画面に移動します。

作業用フォルダー (必須)

[アプリケーション連携－作業用フォルダーの選択] 画面で選択した、作業用フォルダーのパスが表示されます。入力できません。

[参照]

[アプリケーション連携－作業用フォルダーの選択] 画面に移動します。

次の文書の処理タイミング

この項目を選択した場合は、次の文書を処理するためにアプリケーションの終了を待つかどうかを選択します。初期設定では、[アプリケーションが終了するのを待って次の文書を処理する] が選択されています。

- アプリケーションが終了するのを待って次の文書を処理する
次のどちらか、または両方の項目に、チェックマークを付けます。初期設定では、[アプリケーションの終了時に実行ファイルに渡した文書を削除する] にチェックマークが付いています。
 - ・ 分割された文書ごとにアプリケーションを実行する
分割された文書ごとにアプリケーションを実行する場合は、チェックマークを付けます。
 - ・ アプリケーションの終了時に実行ファイルに渡した文書を削除する
指定したアプリケーションが終了したときに、実行ファイルに渡した文書を削除する場合は、チェックマークを付けます。チェックマークを外すと、指定したアプリケーションが終了しても実行ファイルに渡した文書は削除されません。そのため、ジョブが終了したときに、実行ファイルに渡した文書が残ります。
- アプリケーションが終了するのを待たずに次の文書を処理する
- アプリケーションの終了を次の時間だけ待ってから次の文書を処理する
この項目を選択した場合は、次の項目も設定します。
 - ・ 秒
アプリケーションの終了を待つ時間を秒単位で設定します。入力できる値は、半角の数字で 0 ～ 3600 です。初期設定は [0] 秒です。

- ・ 指定された時間の経過後に実行ファイルに渡したファイルを削除する
指定したアプリケーションを起動してから指定された時間が経過したあと、アプリケーションで処理した文書を削除する場合に、チェックマークを付けます。

アプリケーションの戻り値が 0 以外のときにエラーとみなして終了する

アプリケーションの戻り値が 0 以外の場合に、エラーとみなして処理を終了するときに、チェックマークを付けます。

配信先>アプリケーション連携>アプリケーション連携 - パラメータの要素設定

属性と任意の文字列を組み合わせる項目を設定するときの、要素を指定します。

タイトルには、設定する機能の名前が表示されます。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

属性から指定する

要素を属性から指定する場合に選択します。

- 属性一覧
指定できる属性が表示されます。一覧から、属性名を選択します。
- バイト数を制限する / 文字数を制限する
バイト数または文字数を制限する場合に、チェックマークを付け、テキストボックスに上限値を入力します。
() の中に、入力できるバイト数または文字数が表示されます。



補足

選択している機能によっては、この項目が表示されないこともあります。

任意の文字列で指定する

要素を任意の文字列で指定する場合に選択し、テキストボックスに文字列を入力します。

() の中に、入力できる文字数が表示されます。

入力を禁止している文字がある場合は、[入力できない文字:] のあとに禁止文字が表示されます。



補足

選択している機能によっては、この項目が表示されないこともあります。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

配信先>アプリケーション連携>アプリケーション連携 - 実行ファイルの選択

アプリケーション連携で使用する実行ファイルを選択します。



補足

ここで選択できるファイルは、あらかじめ [環境設定] > [初期設定] > [フロー管理の環境設定] > [各機能の設定] 画面で登録されたファイルだけです。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

一覧

一覧から、アプリケーション連携で使用する実行ファイルを選択します。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

配信先>アプリケーション連携>アプリケーション連携 - 作業用フォルダーの選択

アプリケーション連携で使用する作業フォルダーを選択します。



ここで選択できるフォルダーは、あらかじめ [環境設定] > [初期設定] > [フロー管理の環境設定] > [各機能の設定] 画面で登録されたフォルダーだけです。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

一覧

一覧から、アプリケーション連携で使用する作業用フォルダーを選択します。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

配信先>フォーム解析結果出力>フォーム解析結果出力 - フォーム解析結果出力設定

[フォーム解析] 機能で解析した結果を、CSV 形式のファイルとして出力する設定をします。

ファイルを出力するには、同じフローの [加工方法] に [フォーム解析] 機能が設定されている必要があります。

出力するファイルは、次のとおりです。

- CSV ファイル
 フォーム解析の結果、抽出された文字列が、CSV 形式のファイルとして出力されます。
 出力する項目とその並び順がフォームに定義されている場合は、その設定に従って出力されます。
 ファイル名は、「attribute.csv」です。
- 文書イメージファイル
 文書の画像が出力されます。
 ファイル名は、次のようになります。
 [ファイル名に " 文書名 " を使用する] にチェックマークを付けた場合：「{文書名} .xxx」
 [ファイル名に " 文書名 " を使用する] のチェックマークを外した場合：「document.xxx」
 {文書名} は、[フォーム解析結果出力] 機能の直前に設定された機能が出力したファイルまたはフォルダーの名前です。
 「xxx」は、設定された保存フォーマットに対応する拡張子です。また、シングルページフォーマットで保存されている場合は、「document_nnnn.xxx」のように、ファイル名に「_nnnn」が付きます。「nnnn」は、フォーム解析の処理の順番を示す 0001 から始まる 4 桁の数字です。
- クリップイメージファイル
 フォームから切り出された画像が、ビットマップ形式で出力されます。フォーム上に領域切り出しコントロールが配置されている場合だけ出力されます。
 ファイル名は「Clip_ {属性名} .bmp」です。{属性名} は、領域切り出しコントロールの属性名です。

- OCR 結果ファイル
文書イメージファイルの OCR 結果が出力されます。
フォームに OCR 処理が設定されていない場合は、出力されません。
ファイル名は、「ocr.txt」です。
- 排他制御ファイル
[フォーム解析結果出力] 機能の処理が終了したことを宣言するファイルが出力されます。
[排他制御ファイル] の [作成する] にチェックマークを付けた場合だけ出力されます。ファイル名は、「endfile」です。
[フォーム解析結果出力] 機能の出力結果を、ほかのアプリケーションから連携して使用する場合、この排他制御ファイルが作成されるまで、出力ファイルにアクセスしないように制御する必要があります。
- ステータスファイル
ジョブの処理開始日時、終了日時、プラグイン ID、文書情報（フォームと出力されるファイルを関係付けるための情報）、エラーコード、およびエラーメッセージが出力されます。
ファイル名は、「status.txt」です。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

名称 (1 ～ 512 文字)

フォーム解析結果出力の設定の名前を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 1 ～ 512 です。入力しないと、「フォーム解析結果出力」が設定されます。

出力先設定

- デフォルトフォルダー (160 バイト (80 文字程度) 以内) (必須)
デフォルトの出力先フォルダーを設定します。フォームに出力先が設定されていない場合は、このフォルダーに各ファイルが出力されます。
また、フォーム解析結果の出力処理でエラーが発生した場合は、エラー情報などがこのフォルダーに出力されます。
指定できるフォルダーは、ローカルフォルダーと共有フォルダーです。
ローカルフォルダーの場合は、絶対パスで指定します。
共有フォルダーの場合は、¥ または // で始まる UNC 形式で指定します。
フォルダーの区切り文字には、円 (¥)、またはスラッシュ (/) を使用します。
例：¥hostname¥folder1¥sub1、//192.0.2.1/folder1/sub1
入力できる文字数は、全角で 0 ～ 80、半角で 0 ～ 160 です。



次の文字は使用できません。

カンマ(,)、セミコロン(;)、アスタリスク(*)、クエスチョン(?)、ダブルクォート(")、山かっこ(< >)、パイプ(|)

- ユーザー名 (1 ～ 256 バイト (128 文字程度)) (必須)
出力先フォルダーにアクセスするユーザー名を入力します。
入力できる文字数は、全角で 1 ～ 128、半角で 1 ～ 256 です。
[ユーザー名] にドメインを指定する形式は、以下の方法に対応しています。
 - ・ DNS 形式
「Domain.co.jp¥user」のように、「ドメイン名¥ユーザー名」の形式で指定します。
 - ・ NetBIOS 形式
「DOMAIN¥user」のように、「NetBIOS ドメイン名¥ユーザー名」の形式で指定します。
 - ・ UPN 形式
「user@Domain.co.jp」のように、「ユーザー名 @ ドメイン名」の形式で指定します。



次の文字は使用できません。

スラッシュ (/)、大かっこ ([])、ダブルクォート (")、コロンの (:)、セミコロン (;)、パイプ (|)、山かっこ (< >)、プラス (+)、イコール (=)、カンマ (,)、クエスチョン (?)、アスタリスク (*)

- パスワード (1 ~ 128 バイト (64 文字程度)) (必須)
出力先フォルダーにアクセスするユーザーのパスワードを入力します。
入力できる文字数は、全角で 1 ~ 64、半角で 1 ~ 128 です。
- パスワードの確認 (1 ~ 128 バイト (64 文字程度)) (必須)
確認のためのパスワードを再入力します。
- サブフォルダー名のデフォルト接頭辞 (32 バイト (16 文字程度) 以内)
出力先フォルダーにサブフォルダーを作成するときの、デフォルトの接頭辞を入力します。フォームにサブフォルダー名の接頭辞が設定されていない場合は、ここで設定した値がサブフォルダー名の接頭辞になります。
入力できる文字数は、全角で 1 ~ 16、半角で 1 ~ 32 です。



次の文字は使用できません。

円 (¥)、スラッシュ (/)、セミコロン (;)、コロンの (:)、カンマ (,)、アスタリスク (*)、クエスチョン (?)、ダブルクォート (")、山かっこ (< >)、パイプ (|)

- フォームテンプレートごとにフォルダー作成
フォームで指定されたフォルダーに、フォームテンプレートごとにフォルダーを作成して、結果を出力するときは、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークは外れています。

文書ファイル出力設定

- ファイル名に " 文書名 " を使用する
出力するファイル名に文書名を使用するときは、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークは外れています。

CSV ファイル出力設定

- ヘッダー書き込み指定
CSV ファイルの 1 行めにカラム名リストを出力する場合は、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークは外れています。
- エスケープ指定
値にダブルクォート (") が含まれているときにエスケープするかどうかを指定します。
[フォーム解析結果出力] 機能では、1 つのカラムに複数の値がある場合、値全体がダブルクォート (") で括って出力されます。このとき、値にダブルクォート (") が含まれていると、値を区切る記号と区別がつかなくなります。
[エスケープ指定] にチェックマークを付けると、値にダブルダブルクォート (") が含まれているときに、ダブルクォート (") が 2 つ続けて出力されます。これによって、ダブルクォート (") を含む値かどうかを区別できます。
初期設定では、チェックマークが付いています。

排他制御ファイル

- 作成する
排他制御用のファイルを作成する場合は、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークは付いています。

配信先>属性加工データ出力>属性加工データ出力 - 設定

任意の文書属性の値をファイルに出力し、指定したフォルダーに保存します。

属性値を出力したファイル（以降、「属性ファイル」と呼びます）は、次のフォーマットで保存されます。

- ・ ファイル形式：テキストファイル
- ・ 文字コード：windows-31j (MS932)
- ・ ファイル名：文書名に、指定した拡張子を付け加えた名前
たとえば、拡張子に「csv」を指定した場合、文書「sample.xdw」の属性ファイル名は「sample.xdw.csv」になります。



- ・ この機能は、Flow Management サーバーが設置された OS の言語が日本語の場合にだけ使用できます。機能を使用するには、Attribute Processing Option が必要です。
- ・ 機能の詳細は、弊社担当者にお問い合わせください。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

名称

機能の名前を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ～ 512 です。入力しないと、「属性加工データ出力」が設定されます。

文書出力設定

文書を出力するための設定をします。

- サーバーのローカルフォルダーの場所 (必須)

出力先フォルダーの設定方法を、[フォルダー一覧から選択する]、[フォルダーの場所を直接入力する] から選択します。初期設定は、[フォルダー一覧から選択する] です。

- ・ フォルダー一覧から選択する
あらかじめ登録してあるフォルダー一覧から出力先フォルダーを選択する場合に選択します。
[参照] をクリックして、表示されるフォルダー一覧から、対象のフォルダーを選択します。
テキストボックスに直接文字の入力はできません。
この項目を選択した場合、[ユーザー名] と [パスワード] は指定できません。選択したフォルダーへのアクセスは、Flow Management サービスの実行アカウント (NETWORK SERVICE) が使用されます。
- ・ [参照]
クリックすると、[属性加工データ出力 - サーバーのローカルフォルダーの選択] 画面が表示されます。
ここで、出力先のフォルダーを選択します。
- ・ フォルダーの場所を直接入力する
出力先フォルダーのパスを直接入力する場合に選択します。
テキストボックスに、ドライブからの絶対パスを、UNC 形式で入力します。
フォルダーの区切り文字には、円 (¥)、またはスラッシュ (/) を使用します。
例：C:¥folder1¥sub1、C:/folder1/sub1
入力できる文字数は、全角で 0 ～ 128、半角で 0 ～ 256 です。



次の文字は使用できません。

コロン (:)、カンマ (,)、セミコロン (;)、アスタリスク (*)、クエスチョン (?)、ダブルクォート (")、山
かっこ (<>)、パイプ (|)

ただし、コロン (:) はドライブ文字には使用できます。

- ・ ユーザー名
[フォルダーの場所を直接入力する] を選択した場合に、指定したフォルダーにアクセスするユーザー名を入力します。
入力できる文字数は、半角で 0 ～ 256 です。
[ユーザー名] にドメイン名を指定する場合は、以下の方法に対応しています。

- ・ DNS 形式
「Domain.co.jp¥user」のように、「ドメイン名¥ユーザー名」の形式で指定します。
- ・ NetBIOS 形式
「DOMAIN¥user」のように、「NetBIOS ドメイン名¥ユーザー名」の形式で指定します。
- ・ UPN 形式
「user@Domain.co.jp」のように、「ユーザー名 @ ドメイン名」の形式で指定します。



補足

次の文字は使用できません。

スラッシュ (/)、大かっこ ([])、ダブルクォート (")、コロンの (:)、セミコロン (;)、パイプ (|)、山かっこ (< >)、プラス (+)、イコール (=)、カンマ (,)、クエスチョン (?)、アスタリスク (*)

- ・ パスワード
[フォルダーの場所を直接入力する] を選択した場合に、指定したフォルダーにアクセスするときのパスワードを入力します。
入力できる文字数は、半角で 0 ～ 128 です。
- ・ パスワードの確認
[フォルダーの場所を直接入力する] を選択した場合に、確認のためのパスワードを再入力します。
- 保存する文書のファイル名
文書のファイル名を設定します。
初期設定では、[ファイル名を保存時の日時にする] が選択されています。
 - ・ 属性を使用する
文書のファイル名を、属性を使用して決定する場合に選択します。
[参照] をクリックして、表示される属性一覧から、ファイル名に使用する属性を選択します。
テキストボックスに直接文字の入力はできません。
 - ・ [参照]
クリックすると、属性の要素を指定するページに移動します。
 - ・ 属性を取得できなかったときの文書名
[属性を使用する] にチェックマークを付けた場合は、属性を取得できなかったときに使用するファイル名を入力します。
入力できる文字数は、全角で 0 ～ 64、半角で 0 ～ 128 です。
何も入力しなかった場合、かつ属性を取得できなかった場合は、「NONE」が設定されます。



補足

次の文字は使用できません。

円 (¥)、スラッシュ (/)、コロンの (:)、カンマ (,)、セミコロン (;)、アスタリスク (*)、クエスチョン (?)、ダブルクォート (")、山かっこ (< >)、パイプ (|)

- ・ ファイル名を保存時の日時にする (年月日時分秒)
文書のファイル名を、保存時の日時に置き換える場合に選択します。
- 同じ名称のファイルが存在する場合の対応
出力先に同じ名前のファイルがあるときの処理を指定します。初期設定では、[連番をつける] が選択されています。
 - ・ 上書き
古いファイルを新しいファイルで上書きします。
 - ・ 連番をつける
連番 (-n) を付加したファイル名で保存します。連番は、00001 ～ 99999 の範囲で、最も小さいものが付加されます。

属性出力設定

属性ファイルを出力するための設定をします。

- 出力対象の属性
属性ファイルに出力する属性を選択します。

[参照] をクリックして、表示される属性要素の一覧から対象の属性を選択します。選択した属性がテキストボックスに表示されます。

- 参照

クリックすると、属性の要素を指定するページに移動します。ここで、属性ファイルに出力する機能の属性を選択します。

- 拡張子

属性ファイルの拡張子を、任意の文字列で指定します。入力できる文字数は、全角で 0 ～ 16、半角で 0 ～ 32 です。

たとえば、拡張子を「csv」と指定した場合、文書「sample.xdw」を処理すると、「sample.xdw.csv」という名前の属性ファイルが出力されます。



次の文字は使用できません。

円 (¥)、スラッシュ (/)、コロン (:)、カンマ (,)、セミコロン (;)、アスタリスク (*)、クエスチョン (?)、ダブルクォート (")、山かっこ (<>)、パイプ (|)

- 属性の保存場所

属性ファイルを、文書と同じフォルダーに出力するかどうかを指定します。初期設定では、チェックマークが付いています。

- ・ 文書出力先と同じ場所に出力

[文書出力設定] で指定したフォルダーと同じ場所に出力する場合は、チェックマークを付けます。チェックマークを外すと、[サーバーのローカルフォルダーの場所] を指定できるようになります。

- サーバーのローカルフォルダーの場所 (必須)

[文書出力先と同じ場所に出力] でチェックマークを外した場合に有効になります。

出力先フォルダーの設定方法を、[フォルダー一覧から選択する]、[フォルダーの場所を直接入力する] から選択します。初期設定は、[フォルダー一覧から選択する] です。

- ・ フォルダー一覧から選択する

あらかじめ登録してあるフォルダー一覧から出力先フォルダーを選択する場合に選択します。

[参照] をクリックして、表示されるフォルダー一覧から、対象のフォルダーを選択します。

テキストボックスに直接文字の入力はできません。

この項目を選択した場合、[ユーザー名] と [パスワード] は指定できません。選択したフォルダーへのアクセスは、Flow Management サービスの実行アカウント (NETWORK SERVICE) が使用されます。

- ・ [参照]

クリックすると、[属性加工データ出力 - サーバーのローカルフォルダーの選択] 画面が表示されます。ここで、出力先のフォルダーを選択します。

- ・ フォルダーの場所を直接入力する

出力先フォルダーのパスを直接入力する場合に選択します。

テキストボックスに、ドライブからの絶対パスを、UNC 形式で入力します。

フォルダーの区切り文字には、円 (¥)、またはスラッシュ (/) を使用します。

例：C:¥folder1¥sub1、C:/folder1/sub1

入力できる文字数は、全角で 0 ～ 128、半角で 0 ～ 256 です。



次の文字は使用できません。

コロン (:)、カンマ (,)、セミコロン (;)、アスタリスク (*)、クエスチョン (?)、ダブルクォート (")、山かっこ (<>)、パイプ (|)

ただし、コロン (:) はドライブ文字には使用できます。

- ・ ユーザー名

[フォルダーの場所を直接入力する] を選択した場合に、指定したフォルダーにアクセスするユーザー名を入力します。

入力できる文字数は、半角で 0 ～ 256 です。

【ユーザー名】にドメイン名を指定する場合は、以下の方法に対応しています。

- ・ DNS 形式
「Domain.co.jp¥user」のように、「ドメイン名¥ユーザー名」の形式で指定します。
- ・ NetBIOS 形式
「DOMAIN¥user」のように、「NetBIOS ドメイン名¥ユーザー名」の形式で指定します。
- ・ UPN 形式
「user@Domain.co.jp」のように、「ユーザー名 @ ドメイン名」の形式で指定します。



次の文字は使用できません。

スラッシュ (/)、大かっこ ([])、ダブルクォート (")、コロンの (:)、セミコロン (;)、パイプ (|)、山かっこ (< >)、プラス (+)、イコール (=)、カンマ (,)、クエスチョン (?)、アスタリスク (*)

- ・ パスワード
【フォルダーの場所を直接入力する】を選択した場合に、指定したフォルダーにアクセスするときのパスワードを入力します。
入力できる文字数は、半角で 0 ～ 128 です。
- ・ パスワードの確認
【フォルダーの場所を直接入力する】を選択した場合に、確認のためのパスワードを再入力します。

配信先>属性加工データ出力>属性加工データ出力 - サーバーのローカルフォルダーの選択

文書や属性ファイルを出力するフォルダーを選択します。



ここで選択できるフォルダーは、あらかじめ【環境設定】>【初期設定】>【フロー管理の環境設定】>【各機能の設定】画面で登録されたフォルダーだけです。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

一覧

一覧から、出力先に設定するローカルフォルダーを選択します。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

配信先>フォルダー保存>フォルダー保存 - フォルダー保存設定（サーバーのローカルフォルダーの場合）

Flow Management サーバーにあるフォルダーに文書を保存するときに、文書を保存するフォルダーを設定します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

名称

機能の名前を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ～ 512 です。入力しないと、保存先フォルダーのパスが名前として設定されます。

フォルダーの種類

保存先フォルダーの種類を選択します。[サーバーのローカルフォルダー]、[共有フォルダー]、または [仮想ディレクトリー (FTP)] から選択します。

サーバーのローカルフォルダーの場所 (必須)

保存先フォルダーの設定方法を、[フォルダー一覧から選択する]、[フォルダーの場所を直接入力する] から選択します。初期設定は、[フォルダー一覧から選択する] です。

- フォルダー一覧から選択する

あらかじめ登録してあるフォルダー一覧から保存先フォルダーを選択する場合に選択します。

[参照] をクリックして、表示されるフォルダー一覧から、対象のフォルダーを選択します。

テキストボックスに直接文字の入力はできません。

この項目を選択した場合、[ユーザー名] と [パスワード] は指定できません。選択したフォルダーへのアクセスは、Flow Management サービスの実行アカウント (NETWORK SERVICE) が使用されます。

- [参照]

クリックすると、[フォルダー保存 - サーバーのローカルフォルダーの選択] 画面が表示されます。ここで、保存先のフォルダーを選択します。

- フォルダーの場所を直接入力する

保存先フォルダーのパスを直接入力する場合に選択します。

テキストボックスに、ドライブからの絶対パスを、UNC 形式で入力します。

フォルダーの区切り文字には、円 (¥)、またはスラッシュ (/) を使用します。

例：C:¥folder1¥sub1、C:/folder1/sub1

入力できる文字数は、全角で 0 ～ 128、半角で 0 ～ 256 です。



次の文字は使用できません。

コロン (:), カンマ (,), セミコロン (;)、アスタリスク (*), クエスチョン (?), ダブルクォート ("), 山かっこ (<>), パイプ (|)

ただし、コロン (:) はドライブ文字には使用できます。

- ユーザー名

[フォルダーの場所を直接入力する] を選択した場合に、指定したフォルダーにアクセスするユーザー名を入力します。

入力できる文字数は、半角で 0 ～ 256 です。



次の文字は使用できません。

スラッシュ (/), 大かっこ ([], ダブルクォート ("), コロン (:), セミコロン (;), パイプ (|), 山かっこ (<>), プラス (+), イコール (=), カンマ (,), クエスチョン (?), アスタリスク (*)

- パスワード

[フォルダーの場所を直接入力する] を選択した場合に、指定したフォルダーにアクセスするときのパスワードを入力します。

入力できる文字数は、半角で 0 ～ 128 です。

- パスワードの確認

[フォルダーの場所を直接入力する] を選択した場合に、確認のためのパスワードを再入力します。

サブフォルダー

保存先フォルダーにサブフォルダーを作成するかどうかを設定します。

- サブフォルダーを作成して文書を振り分けて保存する

配信先として指定したフォルダーにサブフォルダーを作成し、属性によって文書を自動的に振り分けて保存する場合に、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークは外れています。

- [指定]

サブフォルダーを指定する場合にクリックします。[フォルダー保存 - サブフォルダー名設定] 画面に移動します。

- サブフォルダー名

[フォルダー保存 - サブフォルダー名設定] 画面で指定したサブフォルダー名が表示されます。入力できません。

- 属性を取得できなかったときのサブフォルダー名

[フォルダー保存 - サブフォルダー名設定] 画面で指定した、属性が指定できなかったときに使用するサブフォルダー名が表示されます。入力できません。

保存する文書のファイル名

保存する文書のファイル名を設定します。

初期設定では、[名称に連番を付ける]、[5 桁]、[連番の前に区切り文字を付ける] がそれぞれ選択されています。

- 名称に連番を付ける

連番を付けるときに選択します。

連番は、ファイルの拡張子を区別しないで付けられます。たとえば、保存先のフォルダーにファイル「A-00001.tif」が存在していた場合に、「A.jpg」を 5 桁連番を指定して出力すると、出力ファイル名は「A-00002.jpg」になります。

- 連番の桁数

[5 桁] または [8 桁] から選択します。

- 連番の前に区切り文字を付ける

連番の前に区切り文字を付ける場合に選択し、区切り文字を入力します。

入力できる文字数は、半角で 1 です。初期設定は [-] です。

- 連番のみの名称にする

連番だけの名前にする場合に選択します。

- 処理の順序と連番を一致させる

ジョブ処理中の文書进行处理する順序と、連番の順序を同じにする場合に、チェックマークを付けます。ジョブ処理中に、文書の削除などによって連番が空いても、空いた連番は使用されません。

- 名称に 4 桁の通し番号と保存時の日付（年月日時分）を付ける

名称に 4 桁の通し番号と日付を付ける場合は、チェックマークを付けます。日付は年月日時分になります。

- 名称にシステムが自動的に割り当てるユニークな ID を付け足す

ファイル名にハイフン (-) と 32 桁の ID を自動的に付加する場合に選択します。

- 名称を保存時の日付（年月日時分秒）に置き換える

ファイル名を保存時の日付に置き換える場合に選択します。

保存先に同じ名前のファイルがすでにあるときは、日付の後ろに、ハイフン (-) と 5 桁の連番を付けます。

- 名称を変更しない

名前を変更しない場合に選択します。

選択した場合、保存先に同じ名前のファイルがあるときはエラーになります。

文書に含まれるフォルダー名とフォルダー内のファイル名

- 文書に含まれるフォルダーを残して、フォルダーに名称の設定を適用する（フォルダー内のファイル名は変えない）

ジョブから渡された文書にフォルダーがある場合、チェックマークを付けると、文書を保存するときに、フォルダーを残し、フォルダーに文書名を設定します。フォルダー内のファイル名は変えません。チェックマークを外すと、文書を保存するときに、フォルダーは削除し、フォルダー内のファイルだけを保存します。文書名はファイルに設定します。詳細は『機能ガイド Flow Management Option 編』を参照してください。

- 1 ページのみの場合は名称を付けたフォルダーを利用しない
文書が 1 ページの場合はフォルダーを作らない場合に、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークは外れています。

配信先>フォルダー保存>フォルダー保存 - サーバーのローカルフォルダーの選択

文書を保存するフォルダーを選択します。



補足

ここで選択できるフォルダーは、あらかじめ [環境設定] > [初期設定] > [フロー管理の環境設定] > [各機能の設定] 画面で登録されたフォルダーだけです。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

一覧

一覧から、配信先に設定するローカルフォルダーを選択します。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

配信先>フォルダー保存>フォルダー保存 - サブフォルダー名設定

保存先フォルダーのサブフォルダー名を設定します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

サブフォルダー名の要素

- [+ 追加]
要素を新規に追加する場合にクリックします。属性の要素を指定するページに移動します。
- [✎ 編集]
設定済みの要素を編集する場合にクリックします。属性の要素を指定するページに移動します。
- [✕ 削除]
選択した要素を削除する場合にクリックします。
- [↑ 上へ移動]
選択した要素が 1 つ上へ移動します。
- [↓ 下へ移動]

選択した要素が 1 つ下へ移動します。

- 一覧
「属性」、「文字数」、「アイコン」を表示します。
- サブフォルダー名例
設定した要素を上から順に並べたものが表示されます。実際のサブフォルダー名は、指定した属性の値で置き換えられます。

サブフォルダー名にフォルダー区切り文字 (¥ /) が含まれた場合の扱い

サブフォルダー名にフォルダーの区切り文字である円 (¥) やスラッシュ (/) が含まれていた場合に、どのように処理するかを指定します。初期設定は、「フォルダー区切り文字をアンダースコア (_) に置き換えて 1 階層のサブフォルダー名として扱う」です。

- フォルダー区切り文字をアンダースコア (_) に置き換えて 1 階層のサブフォルダー名として扱う
円 (¥) またはスラッシュ (/) をアンダースコア (_) に置き換えて、1 階層のサブフォルダーを作成します。
たとえば、設定したサブフォルダー名が「folder1¥sub1」の場合、「folder1_sub1」という名前のサブフォルダーを作成します。
- 多階層のサブフォルダー名として扱う
円 (¥) またはスラッシュ (/) で区切った各要素のフォルダー名で、多階層のサブフォルダーを作成します。
たとえば、設定したサブフォルダー名が「folder1¥sub1」の場合、「folder1」という名前のサブフォルダーと、「folder1」フォルダーの下に「sub1」という名前のサブフォルダーを作成します。

属性を取得できなかったときのサブフォルダー名

属性を取得できなかったときに使用するサブフォルダー名を入力します。

入力できる文字数は、全角で 0 ～ 16、半角で 0 ～ 32 です。何も入力しなかった場合、かつ属性を取得できなかった場合は、「NO_NAME」が設定されます。



- ・ 次の文字は使用できません。
円 (¥)、スラッシュ (/)、コロン (:)、カンマ (,)、セミコロン (;)、アスタリスク (*)、クエスション (?)、ダブルクォート (")、山かっこ (< >)、パイプ (|)、Windows の予約語
- ・ 先頭と末尾には、ピリオド (.) は指定できません。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

配信先>フォルダー保存>フォルダー保存 - サブフォルダー設定 - 要素 -

属性と任意の文字列を組み合わせると項目を設定するときの、要素を指定します。

タイトルには、設定する機能の名前が表示されます。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

属性から指定する

要素を属性から指定する場合に選択します。

- 属性一覧
指定できる属性が表示されます。一覧から、属性名を選択します。
- バイト数を制限する / 文字数を制限する
バイト数または文字数を制限する場合に、チェックマークを付け、テキストボックスに上限値を入力します。

() の中に、入力できるバイト数または文字数が表示されます。



選択している機能によっては、この項目が表示されないこともあります。

任意の文字列で指定する

要素を任意の文字列で指定する場合に選択し、テキストボックスに文字列を入力します。

() の中に、入力できる文字数が表示されます。

入力を禁止している文字がある場合は、[入力できない文字:] のあとに禁止文字が表示されます。



選択している機能によっては、この項目が表示されないこともあります。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

配信先>フォルダー保存>フォルダー保存 - フォルダー保存設定 (共有フォルダーの場合)

ネットワーク上にある共有フォルダーに文書を保存するときに、文書を保存するフォルダーを設定します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

名称

機能の名前を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ~ 512 です。入力しないと、保存先のフォルダーのパスが名前として設定されます。

フォルダーの種類

保存先のフォルダーの種類を選択します。[サーバーのローカルフォルダー]、[共有フォルダー]、または[仮想ディレクトリー (FTP)] から選択します。

共有フォルダーの場所 (必須)

保存先フォルダーのパスを、¥ または // で始まる UNC 形式で入力します。

フォルダーの区切り文字には、円 (¥)、またはスラッシュ (/) を使用します。

例: ¥hostname¥folder1¥sub1、//192.0.2.1/folder1/sub1

入力できる文字数は、全角で 0 ~ 128、半角で 0 ~ 256 です。

IP アドレスは v4 形式にだけ対応しています。ホスト名に「localhost」は指定できません。また、IP アドレスにループバックアドレスは指定できません。



次の文字は使用できません。

カンマ (,)、セミコロン (;)、アスタリスク (*)、クエスチョン (?)、ダブルクォート (")、山かっこ (<>)、パイプ (|)

ユーザー名 (必須)

指定したフォルダーにアクセスするユーザー名を入力します。

入力できる文字数は、半角で 0 ~ 256 です。

[ユーザー名] にドメインを指定する形式は、以下の方法に対応しています。

- DNS 形式
「Domain.co.jp¥user」のように、「ドメイン名¥ユーザー名」の形式で指定します。
- NetBIOS 形式
「DOMAIN¥user」のように、「NetBIOS ドメイン名¥ユーザー名」の形式で指定します。
- UPN 形式
「user@Domain.co.jp」のように、「ユーザー名 @ ドメイン名」の形式で指定します。



次の文字は使用できません。

スラッシュ (/)、大かっこ ([])、ダブルクォート (")、コロン (:)、セミコロン (;)、パイプ (|)、山かっこ (< >)、プラス (+)、イコール (=)、カンマ (,)、クエスチョン (?)、アスタリスク (*)

パスワード (必須)

指定したフォルダーにアクセスするときのパスワードを入力します。

入力できる文字数は、半角で 0 ～ 128 です。

パスワードの確認 (必須)

確認のため、パスワードを再入力します。

サブフォルダー

保存先フォルダーにサブフォルダーを作成するかどうかを設定します。

- サブフォルダーを作成して文書を振り分けて保存する

配信先として指定したフォルダーにサブフォルダーを作成し、属性によって文書を自動的に振り分けて保存する場合に、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークは外れています。

- [指定]

サブフォルダーを指定する場合にクリックします。[フォルダー保存 - サブフォルダー名指定] 画面に移動します。

- サブフォルダー名

[フォルダー保存 - サブフォルダー名指定] 画面で指定したサブフォルダー名が表示されます。入力できません。

- 属性を取得できなかったときのサブフォルダー名

[フォルダー保存 - サブフォルダー名指定] 画面で指定した、属性が指定できなかったときに使用するサブフォルダー名が表示されます。入力できません。

保存する文書のファイル名

保存する文書のファイル名を設定します。

初期設定では、[名称に連番を付ける]、[5 桁]、[連番の前に区切り文字を付ける] がそれぞれ選択されています。

- 名称に連番を付ける

連番を付けるときに選択します。

連番は、ファイルの拡張子を区別しないで付けられます。たとえば、保存先のフォルダーにファイル「A-00001.tif」が存在していた場合に、「A.jpg」を 5 桁連番を指定して出力すると、出力ファイル名は「A-00002.jpg」になります。

- 連番の桁数

[5 桁] または [8 桁] から選択します。

- 連番の前に区切り文字を付ける

連番の前に区切り文字を付ける場合に選択し、区切り文字を入力します。

入力できる文字数は、半角で 1 です。初期設定は [-] です。

- ・ 連番のみの名称にする
連番だけの名前にする場合に選択します。
- ・ 処理の順序と連番を一致させる
ジョブ処理中の文書进行处理する順序と、連番の順序を同じにする場合に、チェックマークを付けます。
ジョブ処理中に、文書の削除などによって連番が空いても、空いた連番は使用されません。
- ・ 名称に 4 桁の通し番号と保存時の日付（年月日時分）を付ける
名称に 4 桁の通し番号と日付を付ける場合は、チェックマークを付けます。日付は年月日時分になります。
- ・ 名称にシステムが自動的に割り当てるユニークな ID を付け足す
ファイル名にハイフン (-) と 32 桁の ID を自動的に付加する場合に選択します。
- ・ 名称を保存時の日付（年月日時分秒）に置き換える
ファイル名を保存時の日付に置き換える場合に選択します。
保存先に同じ名前のファイルがすでにあるときは、日付の後ろに、ハイフン (-) と 5 桁の連番を付けます。
- ・ 名称を変更しない
名前を変更しない場合に選択します。
選択した場合、保存先に同じ名前のファイルがあるときはエラーになります。

文書に含まれるフォルダー名とフォルダー内のファイル名

- ・ 文書に含まれるフォルダーを残して、フォルダーに名称の設定を適用する（フォルダー内のファイル名は変えない）
ジョブから渡された文書にフォルダーがある場合、チェックマークを付けると、文書を保存するときに、フォルダーを残し、フォルダーに文書名を設定します。フォルダー内のファイル名は変えません。チェックマークを外すと、文書を保存するときに、フォルダーは削除し、フォルダー内のファイルだけを保存します。文書名はファイルに設定します。詳細は『機能ガイド Flow Management Option 編』を参照してください。
- ・ 1 ページのみの場合は名称を付けたフォルダーを利用しない
文書が 1 ページの場合はフォルダーを作らない場合に、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークは外れています。

配信先＞フォルダー保存＞フォルダー保存 - サブフォルダー名設定

保存先フォルダーのサブフォルダー名を設定します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

サブフォルダー名の要素

- ・  追加
要素を新規に追加する場合にクリックします。属性の要素を指定するページに移動します。
- ・  編集
設定済みの要素を編集する場合にクリックします。属性の要素を指定するページに移動します。
- ・  削除
選択した要素を削除する場合にクリックします。
- ・  上へ移動
選択した要素が 1 つ上へ移動します。
- ・  下へ移動

選択した要素が 1 つ下へ移動します。

- 一覧
「属性」、「文字数」、「アイコン」を表示します。
- サブフォルダー名例
設定した要素を上から順に並べたものが表示されます。実際のサブフォルダー名は、指定した属性の値で置き換えられます。

サブフォルダー名にフォルダー区切り文字 (¥ /) が含まれた場合の扱い

サブフォルダー名にフォルダーの区切り文字である円 (¥) やスラッシュ (/) が含まれていた場合に、どのように処理するかを指定します。初期設定は、「フォルダー区切り文字をアンダースコア (_) に置き換えて 1 階層のサブフォルダー名として扱う」です。

- フォルダー区切り文字をアンダースコア (_) に置き換えて 1 階層のサブフォルダー名として扱う
円 (¥) またはスラッシュ (/) をアンダースコア (_) に置き換えて、1 階層のサブフォルダーを作成します。
たとえば、設定したサブフォルダー名が「folder1¥sub1」の場合、「folder1_sub1」という名前のサブフォルダーを作成します。
- 多階層のサブフォルダー名として扱う
円 (¥) またはスラッシュ (/) で区切った各要素のフォルダー名で、多階層のサブフォルダーを作成します。
たとえば、設定したサブフォルダー名が「folder1¥sub1」の場合、「folder1」という名前のサブフォルダーと、「folder1」フォルダーの下に「sub1」という名前のサブフォルダーを作成します。

属性を取得できなかったときのサブフォルダー名

属性を取得できなかったときに使用するサブフォルダー名を入力します。

入力できる文字数は、全角で 0 ～ 16、半角で 0 ～ 32 です。何も入力しなかった場合、かつ属性を取得できなかった場合は、「NO_NAME」が設定されます。



- ・ 次の文字は使用できません。
円 (¥)、スラッシュ (/)、コロン (:)、カンマ (,)、セミコロン (;)、アスタリスク (*)、クエスション (?)、ダブルクォート (")、山かっこ (< >)、パイプ (|)、Windows の予約語
- ・ 先頭と末尾には、ピリオド (.) は指定できません。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

配信先>フォルダー保存>フォルダー保存-フォルダー保存設定(仮想ディレクトリー(FTP)の場合)

FTP サーバーに文書を保存するときに、文書を保存するフォルダーを設定します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

名称

機能の名前を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ～ 512 です。入力しないと、保存先のフォルダーのパスが名前として設定されます。

フォルダーの種類

保存先のフォルダーの種類を選択します。[サーバーのローカルフォルダー]、[共有フォルダー]、または[仮想ディレクトリー(FTP)]から選択します。

仮想ディレクトリー (FTP)

- IP アドレス / ホスト名 (必須)

仮想ディレクトリーのある PC のホスト名または IP アドレスを指定します。

入力できる文字数は、半角で 0 ～ 256 です。

IP アドレスは、IPv4 形式、IPv6 形式のどちらも指定できます。

ホスト名および IP アドレスに、「localhost」、ループバックアドレス、ユーザー名、パスワード、およびポート番号は指定できません。

- 仮想ディレクトリー名 (必須)

仮想ディレクトリー名を指定します。

フォルダーの区切り文字には、円 (¥)、またはスラッシュ (/) を使用します。

例：folder1¥sub1、folder1/sub1

入力できる文字数は、全角で 0 ～ 128、半角で 0 ～ 256 です。

- パッシブ FTP を使用する

FTP にパッシブモードを使用する場合に、チェックマークを付けます。

- TCP ポート番号 (必須)

FTP ディレクトリーにアクセスする TCP ポート番号を指定します。入力できる値は、半角の数字で 1 ～ 65535 です。

ユーザー名 (必須)

指定したフォルダーにアクセスするユーザー名を入力します。

入力できる文字数は、半角で 0 ～ 256 です。



補足

次の文字は使用できません。

スラッシュ (/)、大かっこ ([])、ダブルクォート (")、コロンの (:)、セミコロン (;)、パイプ (|)、山かっこ (< >)、プラス (+)、イコール (=)、カンマ (,)、クエスチョン (?)、アスタリスク (*)

パスワード (必須)

指定したフォルダーにアクセスするときのパスワードを入力します。

入力できる文字数は、半角で 0 ～ 128 です。

パスワードの確認 (必須)

確認のため、パスワードを再入力します。

サブフォルダー

保存先フォルダーにサブフォルダーを作成するかどうかを設定します。

- サブフォルダーを作成して文書を振り分けて保存する

配信先として指定したフォルダーにサブフォルダーを作成し、属性によって文書を自動的に振り分けて保存する場合に、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークは外れています。

- [指定]

サブフォルダーを指定する場合にクリックします。[フォルダー保存 - サブフォルダー名指定] 画面に移動します。

- サブフォルダー名

[フォルダー保存 - サブフォルダー名指定] 画面で指定したサブフォルダー名が表示されます。入力できません。

- 属性を取得できなかったときのサブフォルダー名

[フォルダー保存 - サブフォルダー名指定] 画面で指定した、属性が指定できなかったときに使用するサブフォルダー名が表示されます。入力できません。

保存する文書のファイル名

保存する文書のファイル名を設定します。

初期設定では、[名称に連番を付ける]、[5 桁]、[連番の前に区切り文字を付ける] がそれぞれ選択されています。

- 名称に連番を付ける

連番を付けるときに選択します。

連番は、ファイルの拡張子を区別しないで付けられます。たとえば、保存先のフォルダーにファイル「A-00001.tif」が存在していた場合に、「A.jpg」を 5 桁連番を指定して出力すると、出力ファイル名は「A-00002.jpg」になります。

- 連番の桁数
[5 桁] または [8 桁] から選択します。
- 連番の前に区切り文字を付ける
連番の前に区切り文字を付ける場合に選択し、区切り文字を入力します。
入力できる文字数は、半角で 1 です。初期設定は [-] です。
- 連番のみの名称にする
連番だけの名前にする場合に選択します。
- 処理の順序と連番を一致させる
ジョブ処理中の文書进行处理する順序と、連番の順序を同じにする場合に、チェックマークを付けます。
ジョブ処理中に、文書の削除などによって連番が空いても、空いた連番は使用されません。
- 名称に 4 桁の通し番号と保存時の日付（年月日時分）を付ける
名称に 4 桁の通し番号と日付を付ける場合は、チェックマークを付けます。日付は年月日時分になります。
- 名称にシステムが自動的に割り当てるユニークな ID を付け足す
ファイル名にハイフン (-) と 32 桁の ID を自動的に付加する場合に選択します。
- 名称を保存時の日付（年月日時分秒）に置き換える
ファイル名を保存時の日付に置き換える場合に選択します。
保存先に同じ名前のファイルがすでにあるときは、日付の後ろに、ハイフン (-) と 5 桁の連番を付けます。
- 名称を変更しない
名前を変更しない場合に選択します。
選択した場合、保存先に同じ名前のファイルがあるときはエラーになります。

文書に含まれるフォルダー名とフォルダー内のファイル名

- 文書に含まれるフォルダーを残して、フォルダーに名称の設定を適用する（フォルダー内のファイル名は変えない）
ジョブから渡された文書にフォルダーがある場合、チェックマークを付けると、文書を保存するときに、フォルダーを残し、フォルダーに文書名を設定します。フォルダー内のファイル名は変えません。チェックマークを外すと、文書を保存するときに、フォルダーは削除し、フォルダー内のファイルだけを保存します。文書名はファイルに設定します。詳細は『機能ガイド Flow Management Option 編』を参照してください。
- 1 ページのみの場合は名称を付けたフォルダーを利用しない
文書が 1 ページの場合はフォルダーを作らない場合に、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークは外れています。

配信先＞フォルダー保存＞フォルダー保存 - サブフォルダー名設定

保存先フォルダーのサブフォルダー名を設定します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

サブフォルダー名の要素

- [ 追加]
要素を新規に追加する場合にクリックします。属性の要素を指定するページに移動します。
- [ 編集]
設定済みの要素を編集する場合にクリックします。属性の要素を指定するページに移動します。
- [ 削除]
選択した要素を削除する場合にクリックします。
- [ 上へ移動]
選択した要素が 1 つ上へ移動します。
- [ 下へ移動]
選択した要素が 1 つ下へ移動します。
- 一覧
「属性」、「文字数」、「アイコン」を表示します。
- サブフォルダー名例
設定した要素を上から順に並べたものが表示されます。実際のサブフォルダー名は、指定した属性の値で置き換えられます。

サブフォルダー名にフォルダー区切り文字 (¥ /) が含まれた場合の扱い

サブフォルダー名にフォルダーの区切り文字である円 (¥) やスラッシュ (/) が含まれていた場合に、どのように処理するかを指定します。初期設定は、「フォルダー区切り文字をアンダースコア (_) に置き換えて 1 階層のサブフォルダー名として扱う」です。

- フォルダー区切り文字をアンダースコア (_) に置き換えて 1 階層のサブフォルダー名として扱う
円 (¥) またはスラッシュ (/) をアンダースコア (_) に置き換えて、1 階層のサブフォルダーを作成します。
たとえば、設定したサブフォルダー名が「folder1¥sub1」の場合、「folder1_sub1」という名前のサブフォルダーを作成します。
- 多階層のサブフォルダー名として扱う
円 (¥) またはスラッシュ (/) で区切った各要素のフォルダー名で、多階層のサブフォルダーを作成します。
たとえば、設定したサブフォルダー名が「folder1¥sub1」の場合、「folder1」という名前のサブフォルダーと、「folder1」フォルダーの下に「sub1」という名前のサブフォルダーを作成します。

属性を取得できなかったときのサブフォルダー名

属性を取得できなかったときに使用するサブフォルダー名を入力します。

入力できる文字数は、全角で 0 ～ 16、半角で 0 ～ 32 です。何も入力しなかった場合、かつ属性を取得できなかった場合は、「NO_NAME」が設定されます。



補足

- ・ 次の文字は使用できません。
円 (¥)、スラッシュ (/)、コロン (:)、カンマ (,)、セミコロン (;)、アスタリスク (*)、クエスション (?)、ダブルクォート (")、山かっこ (< >)、パイプ (|)、Windows の予約語
- ・ 先頭と末尾には、ピリオド (.) は指定できません。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

配信先>プリンター出力>プリント / ファクス出力設定（プリント出力設定の場合）

処理した文書をプリント出力するときの設定をします。



補足

ここで設定する項目は、使用する機器やプリンタードライバーが対応している場合にだけ有効になります。
また、ここで設定できない項目は、使用するプリンタードライバーの出力設定が適用されます。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

名称

機能の名前を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ～ 512 です。入力しないと、[出力先機器] の名称が設定されます。

出力方法

[プリント] または [ファクス] が選択できます。

出力先機器（必須）

[機器選択] をクリックして選択した、出力先の機器を表示します。

[機器選択]

出力先の機器を選択するときにクリックします。[機器の追加：プリント / ファクス出力設定] 画面に移動します。機器を追加するには、システム管理権限、または機器の管理権限が必要です。

プリンタードライバー（必須）

[ドライバー選択] 画面で選択した、使用するプリンタードライバーを表示します。



補足

設定されているプリンタードライバーは、[出力先機器] で機器を選択し直すと、クリアされます。

[ドライバー選択]

使用するプリンタードライバーを選択するときにクリックします。[ドライバー選択] 画面に移動し、使用するプリンタードライバーを選択します。

ジョブ監視

ジョブ監視のタイムアウト時間を入力します。入力できる文字数は、半角の数字で 1 ～ 120 です。初期設定は [10] 分です。

[基本] タブ

プリントのレイアウトや用紙の指定などを設定する場合にクリックします。

プリント / ファクス出力設定 [基本] タブに移動します。

[トレイ / 排出] タブ

機器本体の動作を制御する機能を設定する場合にクリックします。

プリント / ファクス出力設定 [トレイ / 排出] タブに移動します。

配信先>プリンター出力>プリント / ファクス出力設定 [基本] タブ

プリント / ファクス出力設定

〔プリント / ファクス出力設定〕画面（プリント出力設定の場合）または〔プリント / ファクス出力設定〕画面（ファクス出力設定の場合）を参照してください。

[基本] タブ

- 用紙サイズ

用紙サイズを自動選択するかどうかを選択します。初期設定では、〔用紙サイズを指定する〕が選択されています。

- 用紙サイズを自動で選択する

用紙サイズを自動的に選択する場合に選択し、自動的に選択する用紙サイズにチェックマークを付けます。用紙サイズは、複数選択できます。ただし、〔A5〕〔A4〕〔A3〕〔B5〕〔B4〕と、〔Letter〕〔Legal〕〔Folio〕は同時に選択できません。

初期設定では、〔A5〕、〔A4〕、〔A3〕、〔B5〕、〔B4〕にチェックマークが付いています。

- 用紙サイズの判定しきい値

自動選択するときの判定に使用する許容値を、mm 単位で選択します。許容値とは、イメージデータのサイズに対して、〔用紙サイズを自動で選択する〕で選択された用紙サイズの規定寸法から何 mm 超える分までを、その用紙サイズで出力するかを判定するための値です。

選択できる値は、半角の数字で 0 ～ 50 です。初期設定は〔13〕です。

- 印刷する用紙方向の優先度

プリントする文書の内容サイズが自動選択候補の用紙サイズに収まらない場合の用紙の向きを選択します。〔イメージデータの向きを優先〕、〔縦方向優先〕、〔横方向優先〕または〔プリンタードライバの設定を利用〕から選択できます。初期設定では、〔イメージデータの向きを優先〕が選択されています。

- 用紙サイズを指定する

- 原稿サイズ

原稿サイズを〔A3〕、〔B4〕、〔A4〕、〔B5〕、〔A5〕、〔Letter〕、〔Legal〕または〔Folio〕から選択します。初期設定は〔A4〕です。

- 出力用紙サイズ

出力用紙サイズを〔原稿サイズと同じ〕、〔A3〕、〔B4〕、〔A4〕、〔B5〕、〔A5〕、〔Letter〕、〔Legal〕または〔Folio〕から選択します。初期設定は〔原稿サイズと同じ〕です。

- 部数

プリントする部数を入力します。入力できる値は、半角の数字で 1 ～ 999 です。初期設定は〔1〕です。〔出力方法〕で〔プリント〕を選択した場合だけ表示されます。

- 縮小印刷

縮小して出力するときの処理方法を選択します。初期設定では、〔原稿サイズに収まるように縮小する〕が選択されています。

- 原稿サイズに収まるように縮小する

- 入力原稿のサイズ（イメージサイズ）を変えない

- 印刷開始位置（左上）の調整

印刷開始位置の調整方法を選択します。〔指定された余白分だけ右下に移動する〕または〔調整しない（用紙の左上に合わせる）〕から選択します。



補足

〔用紙サイズ〕の〔用紙サイズを指定する〕で、〔原稿サイズ〕と〔出力用紙サイズ〕に異なる用紙サイズを指定した場合は、〔縮小印刷〕の設定に関係なく、〔出力用紙サイズ〕に収まるように原稿が拡大または縮小されます。

- 倍率を指定する

出力時の倍率を任意で指定する場合に、チェックマークを付け、倍率を入力します。初期設定では、チェックマークは外れています。倍率に入力できる値は、半角の数字で 25 ～ 400 です。初期設定は〔100〕% です。

- まとめて 1 枚

2 枚または 4 枚の原稿を、1 枚にまとめてプリントするかどうかを選択します。[N アップしない]、[2 アップ] または [4 アップ] から選択します。初期設定は [N アップしない] です。

- 両面

両面プリントをするかどうかを指定します。[しない]、[短辺とじ] または [長辺とじ] から選択します。初期設定は [しない] です。[出力方法] で [プリント] を選択した場合だけ表示されます。

- カラーモード

白黒でプリントするか、カラーでプリントするかを指定します。[白黒] または [カラー (自動判別)] から選択します。初期設定は [カラー (自動判別)] です。[出力方法] で [プリント] を選択した場合だけ表示されます。

- 印刷モード

プリントするときの画質を設定します。[標準] を選択すると、画質にこだわらず、速くプリントできます。初期設定は [標準] です。[出力方法] で [プリント] を選択した場合だけ表示されます。

配信先>プリンター出力>プリント / ファクス出力設定 [トレイ / 排出] タブ

プリント / ファクス出力設定

[プリント / ファクス出力設定] 画面 (プリント出力設定の場合) を参照してください。

[トレイ / 排出] タブ

- 用紙トレイ選択

プリントするときに用紙を給紙するトレイを指定します。[自動]、[トレイ 1]、[トレイ 2]、[トレイ 3]、[トレイ 4] または [トレイ 5 (手差し)] から選択します。初期設定は [自動] です。

- ソートする [1 部ごと]

部単位でプリントする場合に、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークが付いています。

- 排出方法

排出方法を指定します。[指定しない] または [大量排出] から選択します。[指定しない] を選択した場合は、機器の構成や、ホチキス機能などの設定によって、排出先が変わります。[大量排出] を選択した場合は、大量排出トレイに出力します。初期設定は [指定しない] です。

- ホチキス

ホチキスどめをする場所を指定します。[しない]、[左上 1カ所]、[左 2カ所] または [上 2カ所] から選択します。初期設定は [しない] です。

- パンチ

穴を開ける場所を指定します。[しない]、[左] または [上] から選択します。初期設定は [しない] です。

配信先>プリンター出力>プリント / ファクス出力設定 (ファクス出力設定の場合)

処理した文書をファクスに出力するときの設定をします。



ここで設定する項目は、使用する機器やファクスドライバーが対応している場合にだけ有効になります。また、ここで設定できない項目は、使用するファクスドライバーの出力設定が適用されます。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

名称

機能の名前を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ～ 512 です。入力しないと、[出力先機器] の名称が設定されます。

出力方法

[プリント] または [ファクス] が選択できます。

出力先機器（必須）

[機器選択] をクリックして選択した、出力先のファクスを表示します。

[機器選択]

出力先のファクスを選択するときにクリックします。[機器の追加：プリント / ファクス出力設定] 画面に移動します。機器を追加するには、システム管理権限、または機器の管理権限が必要です。

ファクスドライバー（必須）

[ドライバー選択] 画面で選択した、使用するファクスドライバーを表示します。



設定されているファクスドライバーは、[出力先機器] で機器を選択し直すと、クリアされます。

[ドライバー選択]

使用するファクスドライバーを選択するときにクリックします。[ドライバー選択] 画面に移動します。

ジョブ監視

ジョブ監視のタイムアウト時間を入力します。入力できる文字数は、半角の数字で 1 ～ 120 です。初期設定は [10] 分です。

[ファクス設定] タブ

ファクスの宛先やリトライ間隔などを設定するときにクリックします。
プリント / ファクス出力設定 [ファクス設定] タブに移動します。

[基本] タブ

ファクスの用紙サイズや倍率などを設定するときにクリックします。
プリント / ファクス出力設定 [基本] タブに移動します。

[通信設定] タブ

ファクスの通信モードなどを設定するときにクリックします。
プリント / ファクス出力設定 [通信設定] タブに移動します。

配信先>プリンター出力>プリント / ファクス出力設定 [ファクス設定] タブ

プリント / ファクス出力設定

[プリント / ファクス出力設定] 画面（ファクス出力設定の場合）を参照してください。

[ファクス設定] タブ

- 宛先指定方法
宛先指定方法を [ファクス番号を指定]、[短縮番号を指定]、[IP ファクス番号を指定]、または [ジョブ実行時に本体コントロールパネルで入力] から選択します。初期設定では、[ファクス番号を指定] が選択されています。[ファクス宛先選択] 画面で宛先を選択した場合は、選択した宛先の宛先別が表示されます。



- ・ [外部アクセス連携] の設定によっては、上記の選択肢は異なります。
- ・ 短縮番号に対応していない機種の場合、[短縮番号を指定] は表示されません。
- [宛先表から取得]

[ファクス宛先選択] 画面に移動します。
- 宛先番号 / アドレス (必須)

宛先を入力します。

 - ・ [宛先指定方法] に [ファクス番号を指定] を選択した場合、入力できる文字数は、半角の英数字および記号で 0 ～ 100 です。
 - 大かっこ ([]) は入力できません。
 - ・ [宛先指定方法] に [短縮番号を指定] を選択した場合、入力できる文字数は、半角の数字で 4 以内 (1 ～ 2000) です。
 - ・ [宛先指定方法] に [IP ファクス番号を指定] を選択した場合、入力できる文字数は、半角の英数字で 0 ～ 128 です。

[ファクス宛先選択] 画面で宛先を選択した場合は、選択した宛先番号かアドレスが表示されます。
- 宛先名

宛先名を入力します。入力できる文字数は、全角または半角の文字で 0 ～ 40 バイトです。
- 宛先所属

宛先の所属を入力します。入力できる文字数は、1 行あたり、全角または半角の文字で 80 バイトです。2 行まで入力できます。

配信先>プリンター出力>プリント / ファクス出力設定 [基本] タブ

プリント / ファクス出力設定

[プリント / ファクス出力設定] 画面 (プリント出力設定の場合) または [プリント / ファクス出力設定] 画面 (ファクス出力設定の場合) を参照してください。

[基本] タブ

- 用紙サイズ

用紙サイズを自動選択するかどうかを選択します。初期設定では、[用紙サイズを指定する] が選択されています。

 - ・ 用紙サイズを自動で選択する

用紙サイズを自動的に選択する場合に選択し、自動的に選択する用紙サイズにチェックマークを付けます。用紙サイズは、複数選択できます。ただし、[A5] [A4] [A3] [B5] [B4] と、[Letter] [Legal] [Folio] は同時に選択できません。

初期設定では、[A5]、[A4]、[A3]、[B5]、[B4] にチェックマークが付いています。

 - ・ 用紙サイズの判定しきい値

自動選択するときの判定に使用する許容値を、mm 単位で選択します。許容値とは、イメージデータのサイズに対して、[用紙サイズを自動で選択する] で選択された用紙サイズの規定寸法から何 mm 超える分までを、その用紙サイズで出力するかを判定するための値です。

選択できる値は、半角の数字で 0 ～ 50 です。初期設定は [13] です。
 - ・ 印刷する用紙方向の優先度

プリントする文書の内容サイズが自動選択候補の用紙サイズに収まらない場合の用紙の向きを選択します。[イメージデータの向きを優先]、[縦方向優先]、[横方向優先] または [プリンタードライバーの設定を利用] から選択できます。初期設定では、[イメージデータの向きを優先] が選択されています。
 - ・ 用紙サイズを指定する
 - ・ 原稿サイズ

原稿サイズを [A3]、[B4]、[A4]、[B5]、[A5]、[Letter]、[Legal] または [Folio] から選択します。初期設定は [A4] です。

- ・出力用紙サイズ
出力用紙サイズを [原稿サイズと同じ]、[A3]、[B4]、[A4]、[B5]、[A5]、[Letter]、[Legal] または [Folio] から選択します。初期設定は [原稿サイズと同じ] です。
 - 部数
プリントする部数を入力します。入力できる値は、半角の数字で 1 ～ 999 です。初期設定は [1] です。[出力方法] で [プリント] を選択した場合だけ表示されます。
 - 縮小印刷
縮小して出力するときの処理方法を選択します。初期設定では、[原稿サイズに収まるように縮小する] が選択されています。
 - ・原稿サイズに収まるように縮小する
 - ・入力原稿のサイズ (イメージサイズ) を変えない
 - ・印刷開始位置 (左上) の調整
印刷開始位置の調整方法を選択します。[指定された余白分だけ右下に移動する] または [調整しない (用紙の左上に合わせる)] から選択します。
-  **補足**
[用紙サイズ] の [用紙サイズを指定する] で、[原稿サイズ] と [出力用紙サイズ] に異なる用紙サイズを指定した場合は、[縮小印刷] の設定に関係なく、[出力用紙サイズ] に収まるように原稿が拡大または縮小されます。
- 倍率を指定する
出力時の倍率を任意で指定する場合に、チェックマークを付け、倍率を入力します。初期設定では、チェックマークは外れています。倍率に入力できる値は、半角の数字で 25 ～ 400 です。初期設定は [100] % です。
 - まとめて 1 枚
2 枚または 4 枚の原稿を、1 枚にまとめてプリントするかどうかを選択します。[N アップしない]、[2 アップ] または [4 アップ] から選択します。初期設定は [N アップしない] です。
 - 両面
両面プリントをするかどうかを指定します。[しない]、[短辺とじ] または [長辺とじ] から選択します。初期設定は [しない] です。[出力方法] で [プリント] を選択した場合だけ表示されます。
 - カラーモード
白黒でプリントするか、カラーでプリントするかを指定します。[白黒] または [カラー (自動判別)] から選択します。初期設定は [カラー (自動判別)] です。[出力方法] で [プリント] を選択した場合だけ表示されます。
 - 印刷モード
プリントするときの画質を設定します。[標準] を選択すると、画質にこだわらず、速くプリントできます。初期設定は [標準] です。[出力方法] で [プリント] を選択した場合だけ表示されます。

配信先>プリンター出力>プリント / ファクス出力設定 [通信設定] タブ

プリント / ファクス出力設定

[プリント / ファクス出力設定] 画面 (ファクス出力設定の場合) を参照してください。

[通信設定] タブ

- 通信モード
通信モードを選択します。[G3 自動]、[国際通信] または [G4 自動] から選択します。初期設定は [G3 自動] です。
- 外線 / 内線
宛先の発信番号を指定します。ファクスドライバーの [初期設定] タブの [外線の発信番号] または [内線の発信番号] で設定した番号が、宛先の発信番号に自動的に追加されます。初期設定では、[外線] が選択されています。

- 親展通信 / 中継同報

親展通信または中継同報をするかどうかを選択します。初期設定では、[指定しない] が選択されています。

- ・ 指定しない
- ・ 親展通信（通信相手局への蓄積）
親展通信をする場合に選択します。
 - ・ ボックス番号
親展通信のボックス番号を入力します。入力できる値は、半角の数字で 1 ～ 999 です。
 - ・ 暗証番号
暗証番号を入力します。入力できる値は、「0」または 4 桁の半角の数字です。
- ・ 中継同報
中継同報をする場合に選択します。
 - ・ 中継局 ID
中継局の ID を入力します。入力できる文字は、半角の数字で 1 ～ 99 です。
 - ・ 中継局への出力
中継局でも文書を出力するかどうかを選択します。[する] または [しない] から選択します。初期設定は [しない] です。
 - ・ 同報宛先の短縮番号
中継同報の送信先の短縮番号を入力します。入力できる文字は、数字とワイルドカード (*) で、1 ～ 99 です。20 件まで入力できます。複数の短縮番号を入力するときには、カンマ (,) で区切ります。



中継同報に対応していない機種の場合、[中継同報] は表示されません。

- F コード

ファクスの F コードを入力します。入力できる文字数は、半角数字、アスタリスク (*)、およびシャープ (#) で 0 ～ 20 です。

- パスワード

送信先機器の受信パスワードを入力します。入力できる文字数は、半角数字、アスタリスク (*)、およびシャープ (#) で 0 ～ 20 です。

配信先>プリンター出力>機器の追加：プリント / ファクス出力設定

機器の情報を追加する方法を選択します。

[次へ]

次のどれかのページに移動します。

- [すでにデータベースに登録されている機器から追加する] を選択したとき
[機器の追加 - データベースに登録されている機器から追加] 画面に移動します。
- [ネットワークを検索して追加する] を選択したとき
[機器の追加 - ネットワークを検索して追加] 画面に移動します。
- [IP アドレス / ホスト名を直接指定して追加する] を選択したとき
[機器の追加 - IP アドレス / ホスト名を直接指定して追加] 画面に移動します。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

機器の追加方法

機器の追加方法を次から選択します。

- すでにデータベースに登録されている機器から追加する
ApeosWare Management Suite のデータベースに登録されている機器の情報から選択して追加するときに、選択します。
- ネットワークを検索して追加する
ネットワークに接続された機器を検索して追加するときに、選択します。

- IP アドレス / ホスト名を直接指定して追加する
IP アドレスまたはホスト名を指定して機器を追加するときに、選択します。

配信先>プリンター出力>機器の追加 - データベースに登録されている機器から追加

ApeosWare Management Suite のデータベースに登録されている機器の情報から、機器グループに追加するものを選択します。

すでに追加されている機器の情報は、選択できません。

[戻る]

元のページに戻ります。

[追加]

一覧でチェックマークを付けた機器を追加して、機器を選択するページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、機器を選択するページに戻ります。

一覧

- 機器名
アイコンと機器名が表示されます。
- IP アドレス / ホスト名
IP アドレスまたはホスト名が表示されます。
- 機種名
機種名が表示されます。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

配信先>プリンター出力>機器の追加 - ネットワークを検索して追加

ネットワーク上の機器を検索します。

[戻る]

元のページに戻ります。

[検索]

検索を開始するときにクリックします。

【機器の検索中】画面に移動します。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

プロトコル設定

検索する SNMP プロトコルを設定します。[SNMP v1/v2] または [SNMP v3] から選択します。

- [SNMP v1/v2] を選択したとき
 - ・ コミュニティー名（取得専用）
SNMP v1 または v2 で情報を取得するためのコミュニティ名を入力します。
入力できる文字数は、半角で 1 ～ 32 です。
初期値はセキュリティのため、表示されません。
空欄の場合は、弊社製または富士ゼロックス社製機器の工場出荷時の値が使用されます。

- ・ コミュニティー名（取得 / 書き込み用）
SNMP v1 または v2、情報を取得または書き込むためのコミュニティ名を入力します。
入力できる文字数は、半角で 1 ～ 32 です。
初期値はセキュリティのため、表示されません。
空欄の場合は、弊社製または富士ゼロックス社製機器の工場出荷時の値が使用されます。



弊社製または富士ゼロックス社製以外の機器の場合は、入力しないと機器の状態を取得できないので、必ず入力してください。

- [SNMP v3] を選択したとき
 - ・ ユーザー名
機器にアクセスするユーザー名を入力します。
入力できる文字数は、半角の英数字で 0 ～ 128 です。
初期値はセキュリティのため、表示されません。
空欄の場合は、弊社製または富士ゼロックス社製機器の工場出荷時の値が使用されます。
 - ・ メッセージダイジェスト方式
SNMP v3 の認証用プロトコルを、[MD5] と [SHA-1] のどちらかを選択します。
初期値は [MD5] です。
 - ・ 認証用パスワード
機器にアクセスするときの認証用パスワードを入力します。
入力できる文字数は、ASCII コードの文字で 8 ～ 32 です。
初期値はセキュリティのため、表示されません。
空欄の場合は、弊社製または富士ゼロックス社製機器の工場出荷時の値が使用されます。
 - ・ 本文の暗号化方式
SNMP v3 の暗号化用プロトコルを、[DES] と [AES-128] のどちらかを選択します。
初期値は [DES] です。
 - ・ 暗号化用パスワード
暗号化用パスワードを入力します。
入力できる文字数は、ASCII コードの文字で 8 ～ 32 です。
初期値はセキュリティのため、表示されません。
空欄の場合は、弊社製または富士ゼロックス社製機器の工場出荷時の値が使用されます。

サブネットアドレスの追加

- ブロードキャストアドレス / マルチキャストアドレス
検索対象のサブネットアドレスを入力します。
入力できる文字数は、半角の英数字で 0 ～ 256 です。
- ・ IPv4 の場合
192.0.2.1 のように、ピリオドで区切った 4 つの 10 進数を入力します。
ピリオドとピリオドの間に入力できる値は、半角の数字で 0 ～ 255 です。
先頭には 127 以外で、かつ 223 以下の数を入力できます。
- ・ IPv6 の場合
2001:DB8:1:1:1:1:1:1 のように、コロンで区切った 16 進数を入力します。
リンクローカルアドレス（先頭が fe80）、グローバルユニキャストアドレス（先頭が fd00）、およびユニークローカルアドレス（先頭の 3 ビットが 001）を指定できます。
- [追加]
[検索するサブネット] に表示されたネットワークアドレスが 4 個以下のときに、ネットワークアドレスを追加します。
- 検索するサブネット
[追加] をクリックしたときに、ネットワークアドレスが表示されます。
ネットワークアドレスを削除したいときは、ネットワークアドレスをクリックします。

- [削除]

[検索するサブネット] で選択されたネットワークアドレスを削除します。

検索時間

- タイムアウト時間（必須）
タイムアウト時間を秒で設定します。
入力できる値は、半角の数字で 1 ～ 60 です。
初期値は [10] です。

配信先>プリンター出力>機器の検索中

機器を検索していることを示します。

プログレスバー

機器を検索していることを示します。

[キャンセル]

機器の検索を中止して、元のページに戻ります。

配信先>プリンター出力>機器の検索結果 - ネットワークから検索して追加

ネットワーク上の機器の検索結果を表示します。

[戻る]

元のページに戻ります。

[次へ]

一覧でチェックマークを付けた機器を追加して、[機器との通信設定 - ネットワークから検索して追加] 画面に移動します。

[キャンセル]

検索した機器を追加しないで、元のページに戻ります。

追加時に IP アドレスをホスト名に変換する

チェックマークを付けると、IP アドレスをホスト名に変換して機器が追加されます。

ただし、変換できないときは IP アドレスのまま追加されます。

初期状態では、チェックマークが外れています。

一覧

- IPv4 アドレス
IPv4 アドレスが表示されます。
- IPv6 アドレス
IPv6 アドレスが表示されます。
- IPv6 優先
IPv4、IPv6 アドレスの両方が取得された場合に表示されます。
IPv4、IPv6 アドレスの両方を取得して、機器を追加する場合に IPv6 プロトコルを使用するときに、チェックマークを付けます。
- 機種名
機種名が表示されます。
- 登録状態
ApeosWare Management Suite のデータベースに登録されているかいないかが表示されます。

[登録済み] または [未登録] が表示されます。
[未登録] の場合だけ、一覧の左端にチェックボックスが表示されます。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

配信先>プリンター出力>機器との通信設定 - ネットワークから検索して追加

ApeosWare Management Suite と機器が通信するための情報を設定します。

機器には設定されません。

[戻る]

元のページに戻ります。

[追加]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

機械管理者情報の設定

- 機械管理者 ID (必須)
機械管理者 ID を 32 文字以内で入力します。
初期値は [11111] です。
- パスワード
機械管理者 ID のパスワードを入力します。
入力できる文字数は、ASCII コードの文字で 4 ～ 32 です。
初期値は [admin] です。

プロトコル設定

検索する SNMP プロトコルを設定します。[SNMP v1/v2] または [SNMP v3] から選択します。

- [SNMP v1/v2] を選択したとき
 - ・ コミュニティー名 (取得専用)
SNMP v1 または v2 で情報を取得するためのコミュニティー名を入力します。
入力できる文字数は、半角で 1 ～ 32 です。
初期値はセキュリティのため、表示されません。
空欄の場合は、弊社製または富士ゼロックス社製機器の工場出荷時の値が使用されます。
 - ・ コミュニティー名 (取得 / 書き込み用)
SNMP v1 または v2、情報を取得または書き込むためのコミュニティー名を入力します。
入力できる文字数は、半角で 1 ～ 32 です。
初期値はセキュリティのため、表示されません。
空欄の場合は、弊社製または富士ゼロックス社製機器の工場出荷時の値が使用されます。



弊社製または富士ゼロックス社製以外の機器の場合は、入力しないと機器の状態を取得できないので、必ず入力してください。

- [SNMP v3] を選択したとき
 - ・ ユーザー名
機器にアクセスするユーザー名を入力します。
入力できる文字数は、半角の英数字で 0 ～ 128 です。

初期値はセキュリティのため、表示されません。

空欄の場合は、弊社製または富士ゼロックス社製機器の工場出荷時の値が使用されます。

- ・ メッセージダイジェスト方式

SNMP v3 の認証用プロトコルを、[MD5] と [SHA-1] のどちらかを選択します。

初期値は [MD5] です。

- ・ 認証用パスワード

機器にアクセスするときの認証用パスワードを入力します。

入力できる文字数は、ASCII コードの文字で 8 ～ 32 です。

初期値はセキュリティのため、表示されません。

空欄の場合は、弊社製または富士ゼロックス社製機器の工場出荷時の値が使用されます。

- ・ 本文の暗号化方式

SNMP v3 の暗号化用プロトコルを、[DES] と [AES-128] のどちらかを選択します。

初期値は [DES] です。

- ・ 暗号化用パスワード

暗号化用パスワードを入力します。

入力できる文字数は、ASCII コードの文字で 8 ～ 32 です。

初期値はセキュリティのため、表示されません。

空欄の場合は、弊社製または富士ゼロックス社製機器の工場出荷時の値が使用されます。

通信タイムアウト時間の設定

- SNMP

通信タイムアウト時間（秒）を次の値から選択します。

初期値は [3] です。

- ・ 2
- ・ 3
- ・ 5
- ・ 10

- [既定値に戻す]

[SNMP] を、初期値の [3] に戻します。

ポートの設定

- SOAP ポート番号（必須）

機器の SOAP ポートと通信するときのポート番号を入力します。

入力できる値は、半角の数字で 1 ～ 65535 です。

初期値は [80] です。

- SNMP ポート番号（必須）

機器と SNMP 通信するときのポート番号を入力します。

入力できる値は、半角の数字で 1 ～ 65535 です。

初期値は [161] です。

配信先>プリンター出力>機器の追加 - IP アドレス / ホスト名を直接指定して追加

機器の情報を追加します。

[戻る]

元のページに戻ります。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

タブ

機器に追加する情報を選択します。

- [基本情報] タブ
IP アドレス、設置場所などの基本的な情報を設定するときに選択します。
機器の追加 - IP アドレス / ホスト名を直接指定して追加 [基本情報] タブに移動します。
- [通信設定] タブ
ApeosWare Management Suite と機器が通信するための情報を設定するときに選択します。
機器の追加 - IP アドレス / ホスト名を直接指定して追加 [通信設定] タブに移動します。
- [監視設定] タブ
機器の状態の更新に関する情報を設定するときに選択します。
機器の追加 - IP アドレス / ホスト名を直接指定して追加 [監視設定] タブに移動します。

配信先>プリンター出力>機器の追加 - IP アドレス / ホスト名を直接指定して追加 [基本情報] タブ

機器の追加 - IP アドレス / ホスト名を直接指定して追加

機器の追加 - IP アドレス / ホスト名を直接指定して追加を参照してください。

[基本情報] タブ

- IP アドレス / ホスト名 (必須)
機器の IP アドレスまたはホスト名を入力します。
 - IP アドレス (IPv4 の場合)
192.0.2.1 のように、ピリオドで区切った 4 つの 10 進数を入力します。
ピリオドとピリオドの間に入力できる値は、半角の数字で 0 ~ 255 です。
先頭には 127 以外で、かつ 223 以下の数を入力できます。
 - IP アドレス (IPv6 の場合)
2001:DB8:1:1:1:1:1:1 のように、コロンで区切った 16 進数を入力します。
リンクローカルアドレス (先頭が fe80)、グローバルユニキャストアドレス (先頭が fd00)、およびユニークローカルアドレス (先頭の 3 ビットが 001) を指定できます。
 - ホスト名
入力できる文字数は、ASCII コードの文字で 1 ~ 256 です。
- 機器名 (必須)
ApeosWare Management Suite の内部で使用する機器名を入力します。
入力できる文字数は、全角で 1 ~ 128、半角で 1 ~ 256 です。

配信先>プリンター出力>機器の追加 - IP アドレス / ホスト名を直接指定して追加 [通信設定] タブ

ApeosWare Management Suite と機器が通信するための情報を、設定します。
機器には設定されません。

機器の追加

機器の追加 - IP アドレス / ホスト名を直接指定して追加

機器の追加 - IP アドレス / ホスト名を直接指定して追加を参照してください。

[通信設定] タブ

- 機械管理者情報の設定

- ・ 機械管理者 ID (必須)
機械管理者 ID を 32 文字以内で入力します。
初期値は [11111] です。
- ・ パスワード
機械管理者 ID のパスワードを入力します。
入力できる文字数は、ASCII コードの文字で 4 ～ 32 です。
初期値は [admin] です。
- プロトコル設定
検索する SNMP プロトコルを設定します。[SNMP v1/v2] または [SNMP v3] から選択します。

- ・ [SNMP v1/v2] を選択したとき
 - ・ コミュニティー名 (取得専用)
SNMP v1 または v2 で情報を取得するためのコミュニティー名を入力します。
入力できる文字数は、半角で 1 ～ 32 です。
初期値はセキュリティのため、表示されません。
空欄の場合は、弊社製または富士ゼロックス社製機器の工場出荷時の値が使用されます。
 - ・ コミュニティー名 (取得 / 書き込み用)
SNMP v1 または v2、情報を取得または書き込むためのコミュニティー名を入力します。
入力できる文字数は、半角で 1 ～ 32 です。
初期値はセキュリティのため、表示されません。
空欄の場合は、弊社製または富士ゼロックス社製機器の工場出荷時の値が使用されます。



弊社製または富士ゼロックス社製以外の機器の場合は、入力しないと機器の状態を取得できないので、必ず入力してください。

- ・ [SNMP v3] を選択したとき
 - ・ ユーザー名
機器にアクセスするユーザー名を入力します。
入力できる文字数は、半角の英数字で 0 ～ 128 です。
初期値はセキュリティのため、表示されません。
空欄の場合は、弊社製または富士ゼロックス社製機器の工場出荷時の値が使用されます。
 - ・ メッセージダイジェスト方式
SNMP v3 の認証用プロトコルを、[MD5] と [SHA-1] のどちらかを選択します。
初期値は [MD5] です。
 - ・ 認証用パスワード
機器にアクセスするときの認証用パスワードを入力します。
入力できる文字数は、ASCII コードの文字で 8 ～ 32 です。
初期値はセキュリティのため、表示されません。
空欄の場合は、弊社製または富士ゼロックス社製機器の工場出荷時の値が使用されます。
 - ・ 本文の暗号化方式
SNMP v3 の暗号化用プロトコルを、[DES] と [AES-128] のどちらかを選択します。
初期値は [DES] です。
 - ・ 暗号化用パスワード
暗号化用パスワードを入力します。
入力できる文字数は、ASCII コードの文字で 8 ～ 32 です。
初期値はセキュリティのため、表示されません。
空欄の場合は、弊社製または富士ゼロックス社製機器の工場出荷時の値が使用されます。
- 通信タイムアウト時間の設定
 - ・ SNMP
通信タイムアウト時間 (秒) を次の値から選択します。
初期値は [3] です。
 - ・ 2
 - ・ 3
 - ・ 5
 - ・ 10

- ・ [既定値に戻す]
[SNMP] を、初期値の [3] に戻します。
- ポートの設定
 - ・ SOAP ポート番号 (必須)
機器の SOAP ポートと通信するときのポート番号を入力します。
入力できる値は、半角の数字で 1 ～ 65535 です。
初期値は [80] です。
 - ・ SNMP ポート番号 (必須)
機器と SNMP 通信するときのポート番号を入力します。
入力できる値は、半角の数字で 1 ～ 65535 です。
初期値は [161] です。

配信先>プリンター出力>機器の追加 - IP アドレス / ホスト名を直接指定して追加 [監視設定] タブ

機器の状態の更新に関する情報を設定します。

機器の追加 - IP アドレス / ホスト名を直接指定して追加

機器の追加 - IP アドレス / ホスト名を直接指定して追加を参照してください。

[監視設定] タブ

- 状態監視
状態監視をするかしないかを選択します。
初期値は [する] です。
[しない] に設定すると、[すべての機器] などのページで、機器の状態が更新されなくなります。
 - ・ する
 - ・ しない
- 監視間隔 (必須)
状態監視を [する] に設定したとき設定できます。
監視間隔を入力します。
入力できる値は、半角の数字で 1 ～ 1440 です。
初期値は [10] です。
- 機器状態の変更通知 (SNMP トラップ) を受け取った場合、機器状態を取得する
状態監視を [する] に設定したとき設定できます。
機器から状態の変更通知 (SNMP トラップ) を受け取ったときに、機器状態を取得する場合は、チェックマークを付けます。

配信先>プリンター出力>ドライバー選択

使用するプリンタードライバー、またはファクスドライバーを選択します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

一覧

Flow Management サーバーにインストールされているプリンタードライバー、またはファクスドライバーの一覧が表示されます。

一覧には、ドライバー名、機種名、場所、およびコメントが表示されます。
使用するプリンタードライバーまたはファクスドライバーを選択します。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

配信先>プリンター出力>ファクス宛先選択

ApeosWare Management Suite のデータベースに登録してあるファクス、または IP ファクス (SIP) の宛先が表示されます。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

一覧

宛先 ID、宛先名、宛先種別および宛先番号 / アドレスが表示されます。送信する宛先を選択します。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

配信先>メール送信 (SMTP) >メール送信 - メール送信設定

処理した文書をメールに添付して送信する場合の設定をします。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

名称

機能の名前を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ~ 512 です。入力しないと、[メール送信] が設定されます。

メールシート

- 宛先 (必須)
送信先として指定された宛先のメールアドレスまたは属性名が表示されます。
- CC
CC に指定された宛先のメールアドレスまたは属性名が表示されます。
- BCC
BCC に指定された宛先のメールアドレスまたは属性名が表示されます。
- 送信元 (必須)
送信元として指定された送信元のメールアドレスまたは属性名が表示されます。
- [送信先指定]
宛先、CC、BCC のメールアドレスを設定する場合にクリックします。[メール送信 - {宛先、CC または BCC} 設定 - 送信先の指定] 画面に移動します。
- [属性指定]
宛先、CC、および BCC を、属性から設定する場合にクリックします。属性の要素を指定するページに移動します。

- 件名
設定した件名が表示されます。
- [件名設定]
件名を設定する場合にクリックします。[メール送信 - 件名設定] 画面に移動します。
- 本文
設定した本文が表示されます。
- [本文設定]
本文を設定する場合にクリックします。[メール送信 - 本文設定] 画面に移動します。

署名

メールに署名を付けるかどうかを設定します。初期設定では、[署名を指定しない] が選択されています。

- 署名を指定しない
メール本文に署名を付けない場合に選択します。
- 直接指定する
署名を直接入力する場合に選択します。テキストボックスに署名を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ～ 256 です。
- [ファイルから読み込む]
署名をファイルで設定する場合にクリックします。[メール送信 - 署名指定ファイルの読み込み] 画面に移動します。

添付ファイル

- 文書を添付する
メールを送信する場合、処理済の文書を添付するときに、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークが付いています。
- 複数文書をまとめて添付する
複数の文書を 1 つのメールにまとめて添付するときに、チェックマークを付けます。

メールサイズ

- メールサイズの上限値を指定する
送信するメールの上限サイズを指定する場合に、チェックマークを付け、テキストボックスに上限値を入力します。入力できる値は、100 ～ 10000 です。初期設定は [1000] です。
チェックマークを付けると、指定した上限値よりメールサイズが大きい場合は、メールが分割して送信されます。

配信先＞メール送信 (SMTP) ＞メール送信- {宛先、CCまたはBCC} 設定- 送信先の指定

[OK]

設定している内容を保存し、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄し、元のページに戻ります。

[ユーザー一覧から追加]

メールアドレス情報をユーザー一覧から追加します。[送信先を追加 (ユーザーの一覧から)] 画面に移動します。

[直接入力して追加]

メールアドレス情報を直接入力して追加します。[送信先の追加 (直接入力)] 画面に移動します。

[削除]

選択した送信先を通知先から削除します。

送信先の指定リストが表示されている場合は、チェックマークを付けた送信先を削除します。

[編集]

選択した送信先を編集します。[送信先の編集] 画面に移動します。

送信先の指定リストが表示されている場合は、チェックマークを付けた送信先を編集します。



編集できる送信先は、[直接入力して追加] の操作で追加した送信先だけです。

[テストメールの送信]

追加した送信先へテストメールを送信します。[テストメールの送信] 画面に移動します。

送信先の指定リストが表示されている場合は、チェックマークを付けた送信先に通知します。

配信先>メール送信 (SMTP) >送信先の追加 (直接入力)

[OK]

設定している内容を保存し、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄し、元のページに戻ります。

送信先の名称 (必須)

送信先の名称を入力します。

入力できる文字数は、全角または半角で 1 ~ 128 です。

メールアドレス (必須)

送信先のメールアドレス情報を入力します。

半角スペース、カッコ ()、カンマ (,)、コロン (:)、セミコロン (;)、円 (¥)、ダブルクォーテーション (")、および山かっこ (<>) は、入力できません。

配信先>メール送信 (SMTP) >送信先を追加 (ユーザーの一覧から)

[OK]

選択されたユーザーを送信先に設定して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

送信先の設定を中止して、元のページに戻ります。

[すべて選択]

複数の送信先を指定する場合に表示されるボタンです。

ユーザー一覧に表示されているすべての項目に、チェックマークを付けます。

[選択を解除]

複数の送信先を指定する場合に表示されるボタンです。

ユーザー一覧で選択されているすべての項目の、チェックマークを外します。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

配信先＞メール送信（SMTP）＞テストメールの送信

送信先メールアドレス

送信先のアドレスが表示されます。

タイトル（必須）

メールのタイトルが表示されます。変更できません。

内容（必須）

メールの内容が表示されます。変更できません。

[送信]

[送信先メールアドレス]に表示されているメールアドレスにテストメールを送信し、元のページに戻ります。

[キャンセル]

テストメールを送信しないで、元のページに戻ります。

配信先＞メール送信（SMTP）＞送信先の編集

[OK]

設定している内容を保存し、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄し、元のページに戻ります。

送信先の名称（必須）

送信先の名称を入力します。

入力できる文字数は、全角または半角で 1 ～ 128 です。

メールアドレス（必須）

送信先のメールアドレス情報を入力します。

入力できる文字数は、半角の英数字で 1 ～ 256 です。

半角スペース、カッコ（ ）、カンマ（,）、コロンの（:）、セミコロン（;）、円（¥）、ダブルクォーテーション（"）、および山かっこ（<>）は、入力できません。

配信先＞メール送信（SMTP）＞メール送信 - {宛先、CC または BCC} 設定 - 属性指定

属性と任意の文字列を組み合わせると項目を設定するときの、要素を指定します。

タイトルには、設定する機能の名前が表示されます。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

属性から指定する

要素を属性から指定する場合に選択します。

- 属性一覧
指定できる属性が表示されます。一覧から、属性名を選択します。
- バイト数を制限する / 文字数を制限する
バイト数または文字数を制限する場合に、チェックマークを付け、テキストボックスに上限値を入力しま

す。

() の中に、入力できるバイト数または文字数が表示されます。



選択している機能によっては、この項目が表示されないこともあります。

任意の文字列で指定する

要素を任意の文字列で指定する場合に選択し、テキストボックスに文字列を入力します。

() の中に、入力できる文字数が表示されます。

入力を禁止している文字がある場合は、[入力できない文字:] のあとに禁止文字が表示されます。



選択している機能によっては、この項目が表示されないこともあります。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

配信先>メール送信 (SMTP) >メール送信 - 件名設定

メールの件名を設定します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

属性の組み合わせで指定する

メールの件名を属性から指定する場合に選択します。

- 一覧
「属性」、「件名例」、「アイコン」が表示されます。
- [追加]
要素を新規に追加する場合にクリックします。属性の要素を指定するページに移動します。
- [編集]
要素を編集する場合にクリックします。属性の要素を指定するページに移動します。
- [削除]
選択した属性を削除する場合にクリックします。
- [上へ移動]
選択した属性が 1 つ上へ移動します。
- [下へ移動]
選択した属性が 1 つ下へ移動します。

任意の文字列で指定する

メールの件名に任意の文字列を入力する場合に選択し、テキストボックスに件名を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ~ 100 です。

配信先>メール送信 (SMTP) >メール送信 - 件名要素設定

属性と任意の文字列を組み合わせで項目を設定するときの、要素を指定します。

タイトルには、設定する機能の名前が表示されます。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

属性から指定する

要素を属性から指定する場合に選択します。

- 属性一覧
指定できる属性が表示されます。一覧から、属性名を選択します。
- バイト数を制限する / 文字数を制限する
バイト数または文字数を制限する場合に、チェックマークを付け、テキストボックスに上限値を入力します。
() の中に、入力できるバイト数または文字数が表示されます。



選択している機能によっては、この項目が表示されないこともあります。

任意の文字列で指定する

要素を任意の文字列で指定する場合に選択し、テキストボックスに文字列を入力します。

() の中に、入力できる文字数が表示されます。

入力を禁止している文字がある場合は、[入力できない文字:] のあとに禁止文字が表示されます。



選択している機能によっては、この項目が表示されないこともあります。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

配信先>メール送信 (SMTP) >メール送信 - 本文設定

メールの本文を設定します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

属性の組み合わせで指定する

メールの本文を属性から指定する場合に選択します。

- 一覧
「属性」、「件名例」、「アイコン」を表示します。
- [追加]
要素を新規に追加する場合にクリックします。属性の要素を指定するページに移動します。
- [編集]
要素を編集する場合にクリックします。属性の要素を指定するページに移動します。
- [削除]
選択した属性を削除する場合にクリックします。
- [上へ移動]
選択した属性が 1 つ上へ移動します。

- [下へ移動]
選択した属性が 1 つ下へ移動します。

本文全体を任意の文字列で指定する

メールの本文に任意の文字列を入力する場合に選択し、テキストボックスに本文を入力します。文字数に制限はありません。

配信先＞メール送信（SMTP）＞メール送信 - 本文要素設定

属性と任意の文字列を組み合わせる項目を設定するとき、要素を指定します。
タイトルには、設定する機能の名前が表示されます。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

属性から指定する

要素を属性から指定する場合に選択します。

- 属性一覧
指定できる属性が表示されます。一覧から、属性名を選択します。
- バイト数を制限する / 文字数を制限する
バイト数または文字数を制限する場合に、チェックマークを付け、テキストボックスに上限値を入力します。
() の中に、入力できるバイト数または文字数が表示されます。



補足

選択している機能によっては、この項目が表示されないこともあります。

任意の文字列で指定する

要素を任意の文字列で指定する場合に選択し、テキストボックスに文字列を入力します。

() の中に、入力できる文字数が表示されます。

入力を禁止している文字がある場合は、[入力できない文字:] のあとに禁止文字が表示されます。



補足

選択している機能によっては、この項目が表示されないこともあります。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

配信先＞メール送信（SMTP）＞メール送信 - 署名指定ファイルの読み込み

メール本文に付ける署名を読み込む署名指定ファイルを設定します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

ファイル名（必須）

読み込む署名ファイルのパスおよびファイル名を指定します。[参照] をクリックすると、[ファイルの選択] ダイアログボックスが表示されます。署名ファイルを指定すると、指定したファイルのパスがテキストボックスに入力されます。

配信先＞配信先の編集

配信先を編集します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

配信先

配信先の機能で設定した機能の名前が表示されます。

配信条件

選択した配信先に配信条件を設定している場合に、配信条件の名前が表示されます。配信条件を設定していない場合は「設定なし」が表示されます。

[機能の編集]

「配信先」に表示されている機能の名前によって、移動先のページが変わります。

- 「配信先」に「アプリケーション連携」機能で設定した機能の名前が表示されている場合
「アプリケーション連携 - アプリケーション連携設定」画面に移動します。
- 「配信先」に「フォーム解析結果出力」機能で設定した機能の名前が表示されている場合
「フォーム解析結果出力 - フォーム解析結果出力設定」画面に移動します。
- 「配信先」に「フォルダー保存」機能で設定した機能の名前が表示されている場合
「フォルダー保存 - フォルダー保存設定（サーバーのローカルフォルダーの場合）」画面、
「フォルダー保存 - フォルダー保存設定（共有フォルダーの場合）」画面または
「フォルダー保存 - フォルダー保存設定（仮想ディレクトリー (FTP) の場合）」画面に移動します。
- 「配信先」に「プリンター出力」機能で設定した機能の名前が表示されている場合
「プリント / ファクス出力設定（プリント出力設定の場合）」画面または
「プリント / ファクス出力設定（ファクス出力設定の場合）」画面に移動します。
- 「配信先」に「メール送信（SMTP）」機能で設定した機能の名前が表示されている場合
「メール送信 - メール送信設定」画面に移動します。
- 「配信先」に「属性加工データ出力」機能で設定した機能の名前が表示されている場合
「属性加工データ出力」画面に移動します。

[配信条件の追加]

新規に配信条件を追加する場合にクリックします。「配信条件の追加」画面に移動します。

[配信条件の編集]

設定済みの配信条件を編集する場合にクリックします。「配信先」機能の詳細設定ページに移動します。配信条件を設定している場合に、表示されます。

配信前処理

- 追加
配信前に、フォーマット変換をするか、文書名を設定するかを選択します。
「フォーマット変換」を選択した場合は、「フォーマット変換 - フォーマット変換設定」画面に移動します。
「文書名」を選択した場合は、「文書名 - 文書名設定」画面に移動します。

- [削除]
一覧でチェックマークを付けた、配信前処理の設定を削除します。
- 一覧
設定済みの配信前処理を一覧で表示します。
 (編集) をクリックすると、設定した機能の詳細設定ページに移動します。

配信後処理

- 完了通知
 - ・ 追加
新規に [完了通知] 機能を追加する場合は、「通知メール (SMTP)」を選択します。[通知メール - 通知メール設定] 画面に移動します。
 - ・ [削除]
一覧でチェックマークを付けた、[完了通知] 機能の設定を削除します。
 - ・ 一覧
設定済みの [完了通知] 機能を一覧で表示します。
 (編集) をクリックすると、[完了通知の編集] 画面に移動します。
- 文書属性の出力
[文書属性の対応表出力] 機能で設定した機能の名前が表示されます。
 - ・ [設定の追加]
[文書属性の対応表出力] 機能を追加するときに、クリックします。[文書属性の対応表出力 - 対応表出力設定] 画面に移動します。
 - ・ [設定の編集]
[文書属性の対応表出力] 機能の設定を編集します。文字属性の対応表出力機能を設定している場合に、表示されます。
 - ・ [設定の削除]
[文書属性の対応表出力] 機能の設定を削除します。文字属性の対応表出力機能を設定している場合に、表示されます。

配信先＞配信先の編集＞配信条件の追加

文書を配信する条件を設定します。

[次へ]

[追加する配信条件] で選択した配信条件のページに移動します。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

追加する配信条件

追加する配信条件を選択します。

選択した配信条件に応じて、[次へ] をクリックしたときに移動するページが変わります。初期設定では、[条件にあてはまる文書を配信する] が選択されています。

- 条件にあてはまる文書を配信する
条件にあてはまる文書を配信する場合に選択します。
[配信条件 - 配信条件設定] 画面に移動します。
- すべての配信条件にあてはまらない文書を配信する
すでに設定してある配信条件のどれにもあてはまらない文書を配信する場合に選択します。
[配信条件 - 未配信文書選択条件設定] 画面に移動します。
- 既存の配信条件を利用する
すでに設定されている配信条件を使用する場合に選択します。
[配信条件の選択] 画面に移動します。

配信先＞配信先の編集＞配信条件 - 配信条件設定

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

名称（必須）

機能の名前を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ～ 512 です。入力しないと、「配信条件」が設定されます。

配信条件

- [追加]
指定した属性と、ほかの属性や任意のキーワードを比較し、条件に合った文書を配信する場合には〔属性条件〕を選択します。
文書を受け取った時刻またはジョブ処理を実行した時刻と、指定した時刻を比較して、条件に合った文書を配信する場合には、〔時間条件〕を選択します。
〔属性条件〕を選択した場合は、〔配信条件 - 属性条件設定〕画面に移動します。〔時間条件〕を選択した場合は、〔配信条件 - 時間条件設定〕画面に移動します。
- [削除]
クリックすると、一覧でチェックマークを付けた属性条件または時間条件を削除します。
- 一覧
作成した条件の一覧を表示します。一覧の項目は、次のとおりです。
 - ・ 条件名
条件名が表示されます。
 - ・ 条件の種類
〔属性条件〕または〔時間条件〕が表示されます。
 - ・ 構成条件の数
構成条件の数が表示されます。
 - ・ 構成条件の組み合わせ
構成条件の組み合わせが表示されます。
 - ・ アイコン
 (編集)：クリックすると、一覧で属性条件を選択している場合は、〔配信条件 - 属性条件設定〕画面に移動します。一覧で時間条件を選択している場合は、〔配信条件 - 時間条件設定〕画面に移動します。
- 条件の組み合わせ
 - ・ すべての条件に一致
一覧で表示されている複数の条件すべてに一致する条件を作成する場合に選択します。初期設定では、〔すべての条件に一致〕が選択されています。
 - ・ いずれかの条件に一致
一覧で表示されている条件のどれかに一致する条件を作成する場合に選択します。
- ほかの配信条件で選択された文書は配信しない
ほかの配信条件で選択された文書は配信しない場合に、チェックマークを付けます。初期設定では、チェックマークは外れています。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

配信先＞配信先の編集＞配信条件 - 属性条件設定

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

条件名（必須）

属性条件の名前を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ～ 512 です。

属性条件

- [追加]
[配信条件 - 属性条件構成設定] 画面に移動します。
- [削除]
クリックすると、一覧でチェックマークを付けた属性条件を削除します。
- 一覧
 - ・ 属性
[配信条件 - 属性条件構成設定] 画面で設定した属性が表示されます。
 - ・ 比較条件
[配信条件 - 属性条件構成設定] 画面で設定した比較条件が表示されます。
 - ・ 比較する対象
[配信条件 - 属性条件構成設定] 画面で設定した比較する対象が表示されます。
 - ・ アイコン
 (編集)：クリックすると、[配信条件 - 属性条件構成設定] 画面に移動します。
- 構成条件の組み合わせ
一覧に表示されているすべての条件に一致する条件を作成する場合は、[すべての条件に一致] を選択します。一覧で表示されている条件のどれかに一致する条件を作成する場合は、[いずれかの条件に一致] を選択します。初期設定では、[すべての条件に一致] が選択されています。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

配信先＞配信先の編集＞配信条件 - 属性条件構成設定

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

属性

選択できる属性が表示されます。初期設定では、属性一覧中の先頭の属性が選択されています。

比較条件

属性と、キーワードまたは属性を比較する方法を選択します。

選択できる比較条件は、[が、次で始まる]、[が、次で始まらない]、[が、次で終わる]、[が、次で終わらない]、[が、次と一致する]、[が、次と一致しない]、[が、次を含む]、[が、次を含まない] の 8 種類です。初期設定では、[が、次で始まる] が選択されています。

比較する対象

- キーワード
属性とキーワードを比較する場合に選択し、キーワードを入力します。



- 比較条件に [が、次を含む]、[が、次を含まない] を設定した場合には、2 種類のワイルドカード「?」または「*」が使用できます。
- 比較する属性に [ジョブ受付日時] を指定した場合、属性の値は、「2020-10-18T16:09:11.329+09:00」のようなハイフン (-) を含んだ文字列の形式になります。このため、キーワードとして比較するときは、「20201018」ではなく、「2020-10-18」の形式で指定してください。
- 文書内の他の属性
属性を文書内のほかの属性と比較する場合に選択し、リストから比較する属性を選択します。初期設定では、属性一覧中の先頭から 2 番目の属性が選択されています。

配信先＞配信先の編集＞配信条件 - 時間条件設定

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

条件名 (必須)

時間条件の名前を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ～ 512 です。

時間条件

- [追加]
[配信条件 - 時間条件構成設定] 画面に移動します。
- [削除]
クリックすると、一覧でチェックマークを付けた時間条件を削除します。
- 一覧
 - ・ 日付
[配信条件 - 時間条件構成設定] 画面で設定した日付が表示されます。
 - ・ 時刻
[配信条件 - 時間条件構成設定] 画面で設定した時刻が表示されます。
 - ・ アイコン
 (編集) : クリックすると、[配信条件 - 時間条件構成設定] 画面に移動します。
- 時刻の種類
指定した時刻を、文書を受け取った時刻と比較するか、ジョブを処理した時刻と比較するかを選択します。初期設定では、[文書を受け取った時刻] が選択されています。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

配信先＞配信先の編集＞配信条件 - 時間条件構成設定

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

比較する日付

【毎月】、【毎週】または【毎日】から選択します。初期設定では、【毎月】が選択されています。【毎月】の場合は、日にちを【1】日～【31】日から選択します。設定した日にちが比較する時刻の月に存在しない場合は、存在する日付まで繰り下げます。たとえば4月の場合、日にちに31日が設定されていても30日とみなします。

【毎週】の場合は、曜日を【月曜日】～【日曜日】から選択します。

比較する時刻

開始時刻と終了時刻を、ドロップダウンリストボックスから選択します。時は【0】～【23】、分は【0】～【59】の範囲で設定できます。初期設定では開始時刻は【0】時【00】分、終了時刻は【23】時【59】分が選択されています。

配信先＞配信先の編集＞配信条件 - 未配信文書選択条件設定

【OK】

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

【キャンセル】

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

名称（必須）

機能の名前を入力します。入力しないと、「未配信文書を選択」が設定されます。



補足

配信条件に【すべての配信条件にあてはまらない文書を配信する】を選択すると、その配信先には、ほかの配信条件で配信された文書は配信されません。

ただし、【すべての配信条件にあてはまらない文書を配信する】で配信された文書は、すでに配信された文書としては扱われません。このため1つのフローに、この条件を選択した配信先を複数設定した場合は、同じ文書が繰り返し配信されることになります。

配信先＞配信先の編集＞配信条件の選択

【OK】

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

【キャンセル】

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

配信条件

設定済みの配信条件の名前を表示します。 (プロパティ) をクリックすると、設定した配信条件の内容が表示されます。

配信先＞配信先の編集＞完了通知の編集

完了通知を編集します。

【OK】

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

【キャンセル】

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

完了通知

機能の名前が表示されます。

【機能の編集】

完了通知を編集する場合にクリックします。[通知メール - 通知メール設定] 画面に移動します。

配信先＞配信先の編集＞通知メール - 通知メール設定

配信が完了した場合、対話操作が必要になった場合、およびエラーが発生した場合にメールで通知する設定をします。

【OK】

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

【キャンセル】

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

名称

機能の名前を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ～ 512 です。入力しないと、[通知メール] が設定されます。

メールシート

- 宛先（必須）
送信先として指定されている宛先のメールアドレスまたは属性が表示されます。
- CC
CC として指定されている宛先のメールアドレスが表示されます。
- BCC
BCC として指定されている宛先のメールアドレスが表示されます。
- 送信元（必須）
送信元として指定されている送信元のメールアドレスまたは属性名が表示されます。
- [送信先指定]
宛先、CC、BCC のメールアドレスを設定する場合にクリックします。[通知メール - {宛先、CC または BCC} 設定 - 送信先指定] 画面に移動します。
- [属性指定]
宛先、CC、BCC の属性を設定する場合にクリックします。属性の要素を指定するページに移動します。
- 件名
[通知メール - 件名設定] 画面で設定した件名が表示されます。
- [件名設定]
件名を設定する場合にクリックします。[通知メール - 件名設定] 画面に移動します。
- 本文
[通知メール - 本文設定] 画面で設定した本文が表示されます。
- [本文設定]
本文を設定する場合にクリックします。[通知メール - 本文設定] 画面に移動します。

配信先＞配信先の編集＞通知メール - {宛先、CC または BCC} 設定 - 送信先の指定

【OK】

設定している内容を保存し、元のページに戻ります。

【キャンセル】

設定している内容を破棄し、元のページに戻ります。

[ユーザー一覧から追加]

メールアドレス情報をユーザー一覧から追加します。[送信先を追加（ユーザーの一覧から）] 画面に移動します。

[直接入力して追加]

メールアドレス情報を直接入力して追加します。[送信先の追加（直接入力）] 画面に移動します。

[削除]

選択した送信先を通知先から削除します。

送信先の指定リストが表示されている場合は、チェックマークを付けた送信先を削除します。

[編集]

選択した送信先を編集します。[送信先の編集] 画面に移動します。

送信先の指定リストが表示されている場合は、チェックマークを付けた送信先を編集します。



補足

編集できる送信先は、[直接入力して追加] の操作で追加した送信先だけです。

[テストメールの送信]

追加した送信先へテストメールを送信します。[テストメールの送信] 画面に移動します。

送信先の指定リストが表示されている場合は、チェックマークを付けた送信先に通知します。

配信先＞配信先の編集＞送信先の追加（直接入力）

[OK]

設定している内容を保存し、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄し、元のページに戻ります。

送信先の名称（必須）

送信先の名称を入力します。

入力できる文字数は、全角または半角で 1 ～ 128 です。

メールアドレス（必須）

送信先のメールアドレス情報を入力します。

半角スペース、カッコ（ ）、カンマ（,）、コロン（:）、セミコロン（;）、円（¥）、ダブルクォーテーション（"）、および山かっこ（<>）は、入力できません。

配信先＞配信先の編集＞送信先を追加（ユーザーの一覧から）

[OK]

選択されたユーザーを送信先に設定して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

送信先の設定を中止して、元のページに戻ります。

[すべて選択]

複数の送信先を指定する場合に表示されるボタンです。

ユーザー一覧に表示されているすべての項目に、チェックマークを付けます。

[選択を解除]

複数の送信先を指定する場合に表示されるボタンです。

ユーザー一覧で選択されているすべての項目の、チェックマークを外します。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

配信先> 配信先の編集> テストメールの送信**送信先メールアドレス**

送信先のアドレスが表示されます。

タイトル (必須)

メールのタイトルが表示されます。変更できません。

内容 (必須)

メールの内容が表示されます。変更できません。

[送信]

[送信先メールアドレス]に表示されているメールアドレスにテストメールを送信し、元のページに戻ります。

[キャンセル]

テストメールを送信しないで、元のページに戻ります。

配信先> 配信先の編集> 送信先の編集**[OK]**

設定している内容を保存し、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄し、元のページに戻ります。

送信先の名称 (必須)

送信先の名称を入力します。

入力できる文字数は、全角または半角で 1 ～ 128 です。

メールアドレス (必須)

送信先のメールアドレス情報を入力します。

入力できる文字数は、半角の英数字で 1 ～ 256 です。

半角スペース、カッコ ()、カンマ (,)、コロン (:)、セミコロン (;)、円 (¥)、ダブルクォーテーション (")、および山かっこ (<>) は、入力できません。

配信先> 配信先の編集> 通知メール - {宛先、CC または BCC} 設定 - 属性指定送信先の編集

属性と任意の文字列を組み合わせると項目を設定するときの、要素を指定します。

タイトルには、設定する機能の名前が表示されます。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

属性から指定する

要素を属性から指定する場合に選択します。

- 属性一覧
指定できる属性が表示されます。一覧から、属性名を選択します。
- バイト数を制限する / 文字数を制限する
バイト数または文字数を制限する場合に、チェックマークを付け、テキストボックスに上限値を入力します。
() の中に、入力できるバイト数または文字数が表示されます。



補足

選択している機能によっては、この項目が表示されないこともあります。

任意の文字列で指定する

要素を任意の文字列で指定する場合に選択し、テキストボックスに文字列を入力します。

() の中に、入力できる文字数が表示されます。

入力を禁止している文字がある場合は、[入力できない文字:] のあとに禁止文字が表示されます。



補足

選択している機能によっては、この項目が表示されないこともあります。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

配信先> 配信先の編集> 通知メール - 件名設定

メールの件名を設定します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

属性の組み合わせで指定する

メールの件名を属性から指定する場合に選択します。

- 一覧
「属性」、「件名例」、「アイコン」が表示されます。
- [追加]
要素を新規に追加する場合にクリックします。属性の要素を指定するページに移動します。
- [編集]
要素を編集する場合にクリックします。属性の要素を指定するページに移動します。
- [削除]
選択した属性を削除する場合にクリックします。
- [上へ移動]
選択した属性が 1 つ上へ移動します。
- [下へ移動]
選択した属性が 1 つ下へ移動します。

任意の文字列で指定する

メールの件名に任意の文字列を入力する場合に選択し、テキストボックスに件名を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ～ 100 です。

配信先＞配信先の編集＞通知メール - 件名要素設定

属性と任意の文字列を組み合わせで項目を設定するときの、要素を指定します。

タイトルには、設定する機能の名前が表示されます。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

属性から指定する

要素を属性から指定する場合に選択します。

- 属性一覧
指定できる属性が表示されます。一覧から、属性名を選択します。
- バイト数を制限する / 文字数を制限する
バイト数または文字数を制限する場合に、チェックマークを付け、テキストボックスに上限値を入力します。
() の中に、入力できるバイト数または文字数が表示されます。



補足

選択している機能によっては、この項目が表示されないこともあります。

任意の文字列で指定する

要素を任意の文字列で指定する場合に選択し、テキストボックスに文字列を入力します。

() の中に、入力できる文字数が表示されます。

入力を禁止している文字がある場合は、[入力できない文字:] のあとに禁止文字が表示されます。



補足

選択している機能によっては、この項目が表示されないこともあります。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

配信先＞配信先の編集＞通知メール - 本文設定

メールの本文を設定します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

属性の組み合わせで指定する

メールの本文を属性から指定する場合に選択します。

- 一覧
「属性」、「件名例」、「アイコン」を表示します。

- [追加]
要素を新規に追加する場合にクリックします。属性の要素を指定するページに移動します。
- [編集]
要素を編集する場合にクリックします。属性の要素を指定するページに移動します。
- [削除]
選択した属性を削除する場合にクリックします。
- [上へ移動]
選択した属性が 1 つ上へ移動します。
- [下へ移動]
選択した属性が 1 つ下へ移動します。

本文全体を任意の文字列で指定する

メールの本文に任意の文字列を入力する場合に選択し、テキストボックスに本文を入力します。文字数に制限はありません。

配信先＞配信先の編集＞通知メール - 本文要素設定

属性と任意の文字列を組み合わせる項目を設定するときの、要素を指定します。
タイトルには、設定する機能の名前が表示されます。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

属性から指定する

要素を属性から指定する場合に選択します。

- 属性一覧
指定できる属性が表示されます。一覧から、属性名を選択します。
- バイト数を制限する / 文字数を制限する
バイト数または文字数を制限する場合に、チェックマークを付け、テキストボックスに上限値を入力します。
() の中に、入力できるバイト数または文字数が表示されます。



補足

選択している機能によっては、この項目が表示されないこともあります。

任意の文字列で指定する

要素を任意の文字列で指定する場合に選択し、テキストボックスに文字列を入力します。

() の中に、入力できる文字数が表示されます。

入力を禁止している文字がある場合は、[入力できない文字:] のあとに禁止文字が表示されます。



補足

選択している機能によっては、この項目が表示されないこともあります。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

配信先＞配信先の編集＞文書属性の対応表出力設定＞文書属性の対応表出力 - 対応表出力設定（サーバーのローカルフォルダーの場合）

処理した文書から得られる属性を見出しとした、文書と属性値の対応表を作成します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

名称

機能の名前を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ～ 512 です。入力しないと、「文書属性の対応表出力」が設定されます。

ファイル名（必須）

出力するファイル名を指定します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ～ 256 です。

スラッシュ (/)、円 (¥)、コロン (:)、セミコロン (;)、パイプ (|)、カンマ (,)、アスタリスク (*)、クエスチョン (?)、ダブルフオート (")、山かっこ (< >)、タブ文字および Windows の予約語は、入力できません。



ファイル名に拡張子「.csv」が含まれていない場合は、[OK] をクリックしたときに、自動的に付加されます。

ファイルを保存する場所の種類

文書属性の対応表ファイルを保存するフォルダーを選択します。[サーバーのローカルフォルダー] または [共有フォルダー] から選択します。

ファイルを保存するローカルフォルダーの場所（必須）

保存先フォルダーの設定方法を、[フォルダー一覧から選択する]、[フォルダーの場所を直接入力する] から選択します。初期設定は、[フォルダー一覧から選択する] です。

● フォルダー一覧から選択する

あらかじめ登録してあるフォルダー一覧から取り込み元フォルダーを選択する場合に選択します。

[参照] をクリックして、表示されるフォルダー一覧から、対象のフォルダーを選択します。

テキストボックスに直接文字の入力はできません。

この項目を選択した場合、[ユーザー名] と [パスワード] は指定できません。選択したフォルダーへのアクセスは、Flow Management サービスの実行アカウント (NETWORK SERVICE) が使用されます。

● [参照]

クリックすると、[文書属性の対応表出力 - サーバーのローカルフォルダーの選択] 画面が表示されます。ここで、保存先のフォルダーを選択します。

● フォルダーの場所を直接入力する

保存先フォルダーのパスを直接入力する場合に選択します。

テキストボックスに、ドライブからの絶対パスを、UNC 形式で入力します。

フォルダーの区切り文字には、円 (¥)、またはスラッシュ (/) を使用します。

例：C:¥folder1¥sub1、C:/folder1/sub1

入力できる文字数は、全角で 0 ～ 128、半角で 0 ～ 256 です。



次の文字は使用できません。

コロン (:), カンマ (,), セミコロン (;), アスタリスク (*), クエスチョン (?), ダブルクォート ("), 山かっこ (<>), パイプ (|)

ただし、コロン (:) はドライブ文字には使用できます。

- ユーザー名

「[フォルダーの場所を直接入力する]」を選択した場合に、指定したフォルダーにアクセスするユーザー名を入力します。

入力できる文字数は、半角で 256 以内です。



次の文字は使用できません。

スラッシュ (/), 大かっこ ([], ダブルクォート ("), コロン (:), セミコロン (;), パイプ (|), 山かっこ (<>), プラス (+), イコール (=), カンマ (,), クエスチョン (?), アスタリスク (*)

- パスワード

「[フォルダーの場所を直接入力する]」を選択した場合に、指定したフォルダーにアクセスするユーザーのパスワードを入力します。

入力できる文字数は、半角で 128 以内です。

- パスワードの確認

「[フォルダーの場所を直接入力する]」を選択した場合に、確認のためのパスワードを再入力します。

列の情報 (必須)

- [追加]

列情報を新規に追加する場合にクリックします。[文書属性の対応表出力 - 列情報] 画面に移動します。

- [削除]

選択した列情報を削除する場合にクリックします。

- [上へ移動]

選択した列情報が 1 つ上へ移動します。

- [下へ移動]

選択した列情報が 1 つ下へ移動します。

- 一覧

- ・ 見出し

列見出しに付ける名前が表示されます。

- ・ 属性

列に割り当てる情報に指定した属性、「< 空列 >」、または任意の文字列が表示されます。

- ・ 文字数

列に割り当てる属性の文字数を制限している場合は、上限の文字数が表示されます。

- ・ アイコン

(編集) : クリックすると、[文書属性の対応表出力 - 列情報] 画面に移動します。

(削除) : クリックすると、一覧でチェックマークを付けた列情報を削除します。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

配信先 > 配信先の編集 > 文書属性の対応表出力設定 > 文書属性の対応表出力 - サーバーのローカルフォルダーの選択

文書属性の対応表出力ファイルを保存するフォルダーを選択します。



補足

ここで選択できるフォルダーは、あらかじめ〔環境設定〕＞〔初期設定〕＞〔フロー管理の環境設定〕＞〔各機能の設定〕画面で登録されたフォルダーだけです。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

サーバーのローカルフォルダーの選択

一覧から、文書属性の対応表出力ファイルを保存するローカルフォルダーを選択します。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

配信先＞配信先の編集＞文書属性の対応表出力設定＞文書属性の対応表出力 - 列情報

列情報として出力ファイルに書き込まれる「見出し」、「属性」および「文字数」を設定します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

列見出しに付ける名前（必須）

対応表の列見出しに付ける名前を入力します。入力できる文字数は、半角で 0 ～ 256 です。

列に割り当てる情報（必須）

- 属性から指定する
列情報を属性から指定する場合に、選択します。ドロップダウンリストボックスから、列情報を選択します。
- 文字数を制限する
文字数を制限する場合は、チェックマークを付けて、文字数の上限値を入力します。
- 空列を指定する
空列を指定する場合に、選択します。
- 任意の文字列で指定する（最大 256 文字）
出力列に使用する文字列を任意に指定する場合に選択して、文字列を入力します。入力できる文字数は、半角で 0 ～ 256 です。

配信先＞配信先の編集＞文書属性の対応表出力設定＞文書属性の対応表出力 - 対応表出力設定（共有フォルダーの場合）

処理した文書から得られる属性を見出しとした、文書と属性値の対応表を作成します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

名称

機能の名前を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ～ 512 です。入力しないと、「文書属性の対応表出力」が設定されます。

ファイル名（必須）

出力するファイル名を指定します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ～ 256 です。



補足

- ・ スラッシュ (/)、円 (¥)、コロン (:)、セミコロン (;)、パイプ (|)、カンマ (,)、アスタリスク (*)、クエスチョン (?)、ダブルクォート (")、山かっこ (< >)、タブ文字および Windows の予約語は、入力できません。
- ・ ファイル名に拡張子「.csv」が含まれていない場合は、[OK] をクリックしたときに、自動的に付加されます。

ファイルを保存する場所の種類

文書属性の対応表ファイルを保存するフォルダーを選択します。[サーバーのローカルフォルダー] または [共有フォルダー] から選択します。

ファイルを保存する共有フォルダーの場所（必須）

保存先フォルダーのパスを、¥ または // で始まる UNC 形式で入力します。

フォルダーの区切り文字には、円 (¥)、またはスラッシュ (/) を使用します。

例：¥hostname¥folder1¥sub1、//192.0.2.1/folder1/sub1

入力できる文字数は、全角で 0 ～ 128、半角で 0 ～ 256 です。

IP アドレスは v4 形式にだけ対応しています。ホスト名に「localhost」は指定できません。また、IP アドレスにループバックアドレスは指定できません。



補足

次の文字は使用できません。

カンマ (,)、セミコロン (;)、アスタリスク (*)、クエスチョン (?)、ダブルクォート (")、山かっこ (< >)、パイプ (|)

ユーザー名（必須）

ファイルを保存するフォルダーにアクセスするユーザー名を入力します。

入力できる文字数は、半角で 0 ～ 256 です。

[ユーザー名] にドメインを指定する形式は、以下の方法に対応しています。

- DNS 形式
「Domain.co.jp¥user」のように、「ドメイン名¥ユーザー名」の形式で指定します。
- NetBIOS 形式
「DOMAIN¥user」のように、「NetBIOS ドメイン名¥ユーザー名」の形式で指定します。
- UPN 形式
「user@Domain.co.jp」のように、「ユーザー名 @ ドメイン名」の形式で指定します。



補足

次の文字は使用できません。

スラッシュ (/)、大かっこ ([])、ダブルクォート (")、コロン (:)、セミコロン (;)、パイプ (|)、山かっこ (< >)、プラス (+)、イコール (=)、カンマ (,)、クエスチョン (?)、アスタリスク (*)

パスワード（必須）

ファイルを保存するフォルダーにアクセスするユーザーのパスワードを入力します。

入力できる文字数は、半角で 0 ～ 128 です。

パスワードの確認（必須）

確認のためにパスワードを再入力します。

列の情報（必須）

-  追加
列情報を新規に追加する場合にクリックします。[文書属性の対応表出力 - 列情報] 画面に移動します。
-  削除
選択した列情報を削除する場合にクリックします。
-  上へ移動
選択した列情報が 1 つ上へ移動します。
-  下へ移動
選択した列情報が 1 つ下へ移動します。
- 一覧
 - ・ 見出し
列見出しに付ける名前が表示されます。
 - ・ 属性
列に割り当てる情報に指定した属性、「< 空列 >」、または任意の文字列が表示されます。
 - ・ 文字数
列に割り当てる属性の文字数を制限している場合は、上限の文字数が表示されます。
 - ・ アイコン
 (編集)：クリックすると、[文書属性の対応表出力 - 列情報] 画面に移動します。
 (削除)：クリックすると、一覧でチェックマークを付けた列情報を削除します。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

配信先＞配信先の編集＞文書属性の対応表出力設定＞文書属性の対応表出力 - 列情報

列情報として出力ファイルに書き込まれる「見出し」、「属性」および「文字数」を設定します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

列見出しに付ける名前（必須）

対応表の列見出しに付ける名前を入力します。入力できる文字数は、半角で 0 ～ 256 です。

列に割り当てる情報（必須）

- 属性から指定する
列情報を属性から指定する場合に、選択します。ドロップダウンリストボックスから、列情報を選択します。
- ・ 文字数を制限する
文字数を制限する場合は、チェックマークを付けて、文字数の上限値を入力します。
- 空列を指定する
空列を指定する場合に、選択します。
- 任意の文字列で指定する（最大 256 文字）
出力列に使用する文字列を任意に指定する場合に選択して、文字列を入力します。入力できる文字数は、半角で 0 ～ 256 です。

配信先＞配信先のプロパティ

配信先に関する情報を表示します。

[戻る]

元のページに戻ります。

配信先

配信先の機能で設定した機能の名前が表示されます。

[詳細]

設定済みの [配信先] 機能のプロパティページに移動します。

配信条件

選択した配信先に配信条件を設定している場合に、配信条件の名前が表示されます。配信条件を設定していない場合は [設定なし] が表示されます。

[配信条件のプロパティ]

配信条件が設定されているときに表示されます。設定した配信条件の内容が表示されます。

配信前処理

[配信前処理] 機能が設定されているときは、設定した機能の名前が一覧に表示されます。 (プロパティ) : クリックすると、設定した内容が表示されます。

完了通知

[完了通知] 機能が設定されているときは、設定した機能の名前が一覧に表示されます。 (プロパティ) : クリックすると、[完了通知のプロパティ] 画面に移動します。

文書属性の対応表出力

選択した配信先に [文書属性の対応表出力] 機能を設定している場合に、機能の名前が表示されます。[文書属性の対応表出力] 機能を設定していない場合は [設定なし] が表示されます。

設定のプロパティ

[文書属性の対応表出力] 機能が設定されているときに表示されます。設定した [文書属性の対応表出力] 機能の内容が表示されます。

配信先> 配信先のプロパティ> 完了通知のプロパティ

完了通知に関する情報を表示します。

[戻る]

元のページに戻ります。

[詳細]

[通知メール - プロパティ] 画面に移動します。[通知メール - 通知メール設定] 画面で設定した内容が表示されます。

フローの新規作成 [エラー通知] タブ / フローの編集 [エラー通知] タブ

フローに [エラー通知] 機能を追加します。

ボタン

- [OK]
設定している内容を保存して、元のページに戻ります。
- [キャンセル]
設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

エラー通知

- [追加]
追加する[エラー通知] 機能を選択します。[通知メール (SMTP)] が選択できます。[通知メール - 通知メール設定] 画面に移動します。
- [削除]
クリックすると、一覧でチェックマークを付けたエラー通知を削除します。
- 一覧
 - ・ エラー通知
機能の詳細設定ページで設定した名前が表示されます。
 - ・ アイコン
 (編集)：クリックすると、選択した機能の詳細設定ページに移動します。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

フローの新規作成 [権限設定] タブ / フローの編集 [権限設定] タブ

フローおよびフローのジョブを操作できるユーザーを設定します。

初期設定では、すべての操作権限に、Apeos_Admin ユーザーとログインしているユーザー自身が追加されています。フローの新規作成時は、初期設定のユーザーを削除できません。

[所有者] は、フローのコピー時にも、初期設定のユーザーを削除できません。

ボタン

- [OK]
設定している内容を保存して、元のページに戻ります。
- [キャンセル]
設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

権限設定

- 所有者 (必須)
フローを作成できるユーザーを追加または削除します。
 - ・ [追加]
[ユーザーの指定] 画面に移動します。
 - ・ [削除]
クリックすると、一覧でチェックマークを付けた所有者を削除します。
 - ・ [最新の情報に更新]
クリックすると、一覧を最新の情報に更新します。
 - ・ 一覧
 - ・ ユーザー ID
フローの所有者のユーザー ID が表示されます。
 - ・ ユーザー名
フローの所有者のユーザー名が表示されます。
- 利用者 (ジョブの登録)
外部アクセス連携を使用して機器からジョブを登録できるユーザーを追加または削除します。
[フロー設定] タブの [取り込み元] で [外部アクセス連携] 機能を追加した場合にだけ表示されます。
 - ・ [追加]
[ユーザーの指定] 画面に移動します。
 - ・ [削除]
クリックすると、一覧でチェックマークを付けた利用者を削除します。

- ・ [最新の情報に更新]
クリックすると、一覧を最新の情報に更新します。
- ・ 一覧
 - ・ ユーザー ID
外部アクセス連携を使用して機器からジョブを登録できるユーザーのユーザー ID が表示されます。
 - ・ ユーザー名
外部アクセス連携を使用して機器からジョブを登録できるユーザーのユーザー名が表示されます。
- ・ 利用者（ジョブの登録）にジョブの操作権限を与える
外部アクセス連携でジョブを登録したユーザーにジョブを操作できる権限を与える場合に、チェックマークを付けます。



ジョブを登録したユーザーが外部アクセスでプレビューを表示できるようにするには、ユーザーに [利用者（ジョブの登録と操作）] 権限を設定するか、[利用者（ジョブの登録）にジョブの操作権限を与える] にチェックマークを付けます。

ただし、[利用者（ジョブの登録と操作）] 権限を設定すると、ほかのユーザーが登録したジョブも表示できるようになります。

ジョブを登録したユーザーに自分のジョブだけを見せたい場合は、[利用者（ジョブの登録と操作）] の権限を設定しないで、[利用者（ジョブの登録）にジョブの操作権限を与える] のチェックマークを付けます。そうすることで、登録したユーザーはほかのユーザーのジョブを表示できず、自分のジョブだけを操作できるようになります。

- 利用者（ジョブの登録と操作）
ジョブを操作できるユーザーを追加または削除します。
 - ・ [追加]
[ユーザーの指定] 画面に移動します。
 - ・ [削除]
クリックすると、一覧でチェックマークを付けた利用者を削除します。
 - ・ [最新の情報に更新]
クリックすると、一覧を最新の情報に更新します。
 - ・ 一覧
 - ・ ユーザー ID
ジョブを操作できるユーザーのユーザー ID が表示されます。
 - ・ ユーザー名
ジョブを操作できるユーザーのユーザー名が表示されます。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

ユーザーの指定

ボタン

- [OK]
検索結果一覧でチェックマークが付いているユーザーを確定し、元のページに戻ります。
- [キャンセル]
設定している内容を破棄し、元のページに戻ります。

ユーザーの検索

- 検索対象
ドロップダウンリストボックスから、検索対象を選択します。
選択できるのは、次の項目です。初期状態では、[ユーザー ID] が選択されています。
 - ・ ユーザー ID
 - ・ ユーザー名

- ・ 名
- ・ 姓
- ・ メールアドレス
- ・ 備考
- ・ 個人番号
- ・ 所属
- ・ ロックアウトの状態
- 検索条件
 - [キーワードと一致する] または [キーワードを含む] のどちらかを選択します。
 - [検索対象]に[ロックアウトの状態]を選択した場合は、[キーワードと一致する]が固定して選択されます。
- キーワード
 - 検索キーワードを入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 1 ～ 1024 です。
 - [検索対象] に [ロックアウトの状態] を選択した場合は、ドロップダウンリストボックスになります。
 - 選択できるのは、次の項目です。
 - ・ ロックアウトしている
 - ・ ロックアウトしていない
- [検索]
 - 検索を実行します。

検索結果一覧

検索を実行すると、一覧が表示されます。

一覧の項目は次のとおりです。

- ユーザー ID
- ユーザー名
- 名
- 姓
- メールアドレス
- 有効期限
- 備考
- 個人番号
 - この項目は、初期状態では表示されません。表示する場合は、[表の設定] 画面で設定してください。
- 所属
 - この項目は、初期状態では表示されません。表示する場合は、[表の設定] 画面で設定してください。
- カード ID
 - この項目は、初期状態では表示されません。表示する場合は、[表の設定] 画面で設定してください。
- 状態
 - この項目は、初期状態では表示されません。表示する場合は、[表の設定] 画面で設定してください。
- ロックアウトの状態
 - この項目は、初期状態では表示されません。表示する場合は、[表の設定] 画面で設定してください。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

フローの新規作成 / 編集

プログレスバー

フローの作成、または編集の進行状況が表示されます。
しばらくすると、[フロー一覧] 画面に戻ります。

フローの検証結果

フローの検証結果を表示します。

[戻る]

元のページに戻ります。

トップナビゲーション

- [エラーフロー]
フローの一覧に、エラーが発生したフローを表示したいときにクリックします。初期状態では、[エラーフロー] が選択されています。
- [正常フロー]
フローの一覧に、エラーが発生しなかったフローを表示したいときにクリックします。

ツールバー

- [ 検証]
一覧で選択したフローを再検証します。[検証] 画面に移動します。トップナビゲーションで [エラーフロー] を選択したときに表示されます。
- [ 有効化]
一覧で選択したフローを有効化します。[フロー有効化の確認] 画面に移動します。トップナビゲーションで [エラーフロー] を選択したときに表示されます。
- [ 無効化]
一覧で選択したフローを無効化します。トップナビゲーションで [エラーフロー] を選択したときに表示されます。

フローの一覧

- フロー
フローが有効か無効かが表示されます。
- 名称
フローの名前が表示されます。
- エラー箇所
フローのエラー箇所が表示されます。トップナビゲーションで [エラーフロー] を選択したときに表示されます。 をクリックすると、エラーメッセージが表示されます。
- アイコン
 (編集) : クリックすると、[フローの編集] 画面に移動します。トップナビゲーションで [エラーフロー] を選択したときに表示されます。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

検証

フローの検証の進行状況を表示します。

フローの検証が完了すると、[フローの検証結果] 画面が表示されます。

プログレスバー

フローの検証中の進行状況が表示されます。

[キャンセル]

フローの検証をキャンセルして、元のページに戻ります。

フローの有効化、無効化

フロー有効化の確認

有効化するフロー

有効化するフローの名前が表示されます。

[OK]

フローを有効化します。[フローの有効化] 画面が表示されます。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

フローの有効化

フローを有効化します。フローの有効化が終了すると、[フロー一覧] 画面が表示されます。

プログレスバー

フローの有効化の進行状況が表示されます。

[キャンセル]

フローの有効化をキャンセルして、元のページに戻ります。

フロー無効化の確認

[フロー一覧] 画面または [フローの検証結果] 画面で [無効化] をクリックすると表示されます。

無効化するフロー

無効化するフローの名前が表示されます。

[OK]

フローを無効化します。[フローの無効化] 画面が表示されます。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

フローの無効化

フローを無効化します。フローの無効化が終了すると、[フロー一覧] 画面が表示されます。

プログレスバー

フローの無効化の進行状況が表示されます。

[キャンセル]

フローの無効化をキャンセルして、元のページに戻ります。

フロー削除

フロー削除の確認

削除するフロー

削除するフローの名前が表示されます。

[削除]

フローを削除します。[フローの削除] 画面に移動します。

[キャンセル]

フローの削除を中止して、元のページに戻ります。

フローの削除

フローを削除します。フローの削除が終了すると、[フロー一覧] 画面が表示されます。

プログレスバー

フローの削除の進行状況が表示されます。

[キャンセル]

フローの削除をキャンセルして、元のページに戻ります。

フローのダウンロード、アップロード

フローのダウンロード

ダウンロードするフロー

ダウンロードするフローの一覧が表示されます。

[ダウンロード]

クリックすると、[ファイルのダウンロード] ダイアログボックスが表示されます。[保存] をクリックしてファイル保存先を指定します。

[戻る]

フローのダウンロードを中止して、元のページに戻ります。

ダウンロード

フローのダウンロードを準備します。

フローのダウンロードの準備が完了すると、[フローのダウンロード] 画面が表示されます。

プログレスバー

フローのダウンロードの準備の進行状況が表示されます。

[キャンセル]

フローのダウンロードの準備をキャンセルして、元のページに戻ります。

フローのアップロード

フローをアップロードします。アップロードできるのは、拡張子が「awfm」のファイルです。次のファイルはアップロードできません。

- Flow Management 以外のソフトウェアでダウンロードしたファイル
- Flow Management でダウンロード後、PC 上で直接開いて編集したファイル

アップロードするフロー

[参照] をクリックすると、[ファイルの選択] ダイアログボックスが表示されます。アップロードするファイルを指定すると、指定したファイルパスがテキストボックスに入力されます。

[アップロード]

クリックすると表示しているフローがアップロードされ、元のページに戻ります。

[キャンセル]

フローのアップロードを中止して、元のページに戻ります。

アップロード

フローをアップロードします。

フローのアップロードが完了すると、[アップロードの結果] 画面が表示されます。

プログレスバー

フローのアップロードの進行状況が表示されます。

[キャンセル]

フローのアップロードをキャンセルして、元のページに戻ります。

アップロードの結果

[戻る]

元のページに戻ります。

アップロードできたフローの一覧

アップロードできたフローの名前と詳細情報が表示されます。

アップロードできなかったフローの一覧

アップロードできなかったフローの名前と詳細情報が表示されます。

フローのプロパティ

フローのプロパティを表示します。

[機能の編集]

[フローの編集] 画面に移動します。

[ジョブのプロパティ] 画面から移動した場合は、[編集] は表示されません。

[戻る]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

[フロー設定] タブ

フローの新規作成 [フロー設定] タブで設定した項目の内容、および [処理可能な文書] が表示されます。

[処理可能な文書] には、このフローで処理できるフォーマットが表示されます。

[エラー通知] タブ

フローの新規作成 [エラー通知] タブで設定した項目の内容が表示されます。

[権限設定] タブ

フローの新規作成 [権限設定] タブで設定した項目の内容が表示されます。

ジョブ一覧

Flow Management のジョブを一覧で表示します。ジョブは、Flow Management で文書の取り込み処理が終わると作成されます。1 回の取り込みに対して、1 つのジョブが作成されます。



補足

ジョブの一覧ページでは、操作しているユーザー自身が [所有者] または [利用者 (登録されたジョブの操作)] 権限を持つフローのジョブだけが表示されます。

ユーザーに [利用者 (ジョブの登録)] 権限が設定されている場合は、ユーザー自身が登録したジョブだけが表示されます。

Apeos_Admin ユーザーでログインしている場合は、すべてのジョブが表示されます。

[中断]

一覧でチェックマークを付けたジョブを中断します。クリックすると、[ジョブの中断] 画面に移動します。中断できるのは、[ステータス] が [実行待ち] または [実行中] のジョブです。



補足

[実行中] のジョブのうち、[実行中 (中断操作中)]、[実行中 (削除操作中)] のジョブは、中断できません。

[再実行]

一覧でチェックマークを付けたジョブを再実行します。クリックすると、[ジョブの再実行] 画面に移動します。再実行できるのは、[ステータス] が [異常終了] または [中断] のジョブです。

[削除]

一覧でチェックマークを付けたジョブを削除します。クリックすると、[ジョブの削除] 画面に移動します。削除できるのは、[ステータス] が [実行待ち]、[中断]、[実行中]、[作業待ち] または [異常終了] のジョブです。

[ジョブの強制中断]

一覧でチェックマークを付けたジョブを強制的に中断します。クリックすると、[ジョブの強制中断] 画面に移動します。削除できるのは、[ステータス] が [実行待ち]、[実行中] または [作業待ち] のジョブです。[ジョブの強制中断] は、Apeos_Admin ユーザーでログインしている場合にのみ表示されます。[実行中 (削除操作中)] のジョブの場合は、強制的に削除します。



補足

・強制中断は、作業待ちのまま放置されたジョブを強制的に中断する場合など、緊急の手段としてだけご使用ください。

・[実行中 (中断操作中)]、[実行中 (削除操作中)] のジョブも、強制的に中断できます。

一覧

● ジョブ一覧

ジョブの受付日時、ステータス、開始日時、優先実行、終了日時、フロー名およびフローID が表示されます。

● アイコン

⏏ (ジョブの優先実行指定)：クリックすると、[ジョブの優先実行指定] 画面に移動します。実行待ちのジョブを表示している場合にのみ表示されます。

⚙️：クリックすると、次の項目が表示されます。

- ・フロー参照：ログインしているユーザーがフロー作成者の場合は、クリックすると、[フローのプロパティ] 画面に移動します。中断および異常終了のジョブを表示している場合にのみ表示されます。
- ・詳細情報：クリックすると、[ジョブの詳細情報] 画面に移動します。
- ・プロパティ：クリックすると、[プロパティ] 画面に移動します。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

ジョブの中断 / ジョブの再実行 / ジョブの削除 / ジョブの強制中断 / ジョブの優先実行指定

ジョブ

操作対象のジョブの受付日時、ステータス、およびフロー名が表示されます。

[中断]

ジョブの中断を指定したときに表示されます。

クリックすると、表示されているジョブを中断します。[ジョブの中断の結果] 画面に移動します。



中断したジョブは、フロー設定時に指定する [ジョブの順序保持をする] の設定に関係なく、後続のジョブに追い越されます。

[再実行]

ジョブの再実行を指定したときに表示されます。クリックすると、[ジョブの再実行の結果] 画面に移動します。

選択したジョブの中に異常終了ジョブが含まれている場合は、[異常終了ジョブの再実行方法] を指定してから [再実行] をクリックします。異常終了ジョブの再実行方法は、次のどちらかを選択します。

- 加工の最初から処理を開始する
- 未実行の処理から開始する



再実行を指定したジョブは、フロー設定時に指定する [ジョブの順序保持をする] の設定に関係なく処理されます。

[削除]

ジョブの削除を指定したときに表示されます。

クリックすると、表示されているジョブを削除します。[ジョブの削除の結果] 画面に移動します。

[ジョブの強制中断]

Apeos_Admin ユーザーでログインしている場合に、ジョブの一覧でジョブの強制中断を指定したときに表示されます。

クリックすると、表示されているジョブを強制的に中断します。[ジョブの強制中断の結果] 画面に移動します。

[優先実行指定]

ジョブの優先実行を指定したときに表示されます。

クリックすると、表示されているジョブの処理を優先的に開始します。[ジョブの優先実行指定の結果] 画面に移動します。



優先実行を指定したジョブは、フロー設定時に指定する [ジョブの順序保持をする] の設定に関係なく、優先的に処理が開始されます。ただし、先に優先実行が指示されたジョブがある場合は、そのジョブの次に処理が開始されます。

[ジョブ履歴の消去]

ジョブ履歴の消去を指定したときに表示されます。

クリックすると、表示されているジョブの履歴を消去します。[ジョブ履歴の消去結果] 画面に移動します。

[キャンセル]

ジョブの操作をキャンセルして、元のページに戻ります。

ジョブの中断の結果 / ジョブの再実行の結果 / ジョブの削除の結果 / ジョブの強制中断の結果 / ジョブの優先実行指定の結果

メッセージ

ジョブの操作結果が表示されます。

[OK]

元のページに戻ります。

ジョブ履歴

Flow Management で操作したジョブ履歴を一覧で表示します。

サイドメニュー

- ・ 正常終了ジョブ
正常に終了したジョブの一覧が表示されます。
- ・ 削除されたジョブ
ユーザーが削除したジョブの一覧が表示されます。

ツールバー

- [ジョブ履歴の消去]

一覧で選択したジョブ履歴を消去します。[ジョブ履歴の消去] 画面に移動します。



この操作は、選択したジョブを一覧から消去し、参照できなくするものです。一覧から消去されたジョブは、[ジョブ履歴の削除設定] 画面で設定した保存期間が経過すると、Flow Management から削除されます。

ジョブ一覧

- ジョブ一覧
ジョブの受付日時、ステータス、開始日時、優先実行の有無、終了日時、フロー名が表示されます。
- アイコン
: クリックすると、次の項目が表示されます。
 - ・ プロパティ: クリックすると、[プロパティ] 画面に移動します。
 - ・ 詳細情報: クリックすると、[ジョブの詳細情報] 画面に移動します。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

ジョブ履歴の消去

ジョブ

操作対象のジョブの受付日時、ステータス、およびフロー名が表示されます。

[中断]

ジョブの中断を指定したときに表示されます。

クリックすると、表示されているジョブを中断します。[ジョブの中断の結果] 画面に移動します。



中断したジョブは、フロー設定時に指定する [ジョブの順序保持をする] の設定に関係なく、後続のジョブに追い越されます。

【再実行】

ジョブの再実行を指定したときに表示されます。クリックすると、[ジョブの再実行の結果] 画面に移動します。

選択したジョブの中に異常終了ジョブが含まれている場合は、[異常終了ジョブの再実行方法] を指定してから【再実行】をクリックします。異常終了ジョブの再実行方法は、次のどちらかを選択します。

- 加工の最初から処理を開始する
- 未実行の処理から開始する



再実行を指定したジョブは、フロー設定時に指定する [ジョブの順序保持をする] の設定に関係なく処理されます。

【削除】

ジョブの削除を指定したときに表示されます。

クリックすると、表示されているジョブを削除します。[ジョブの削除の結果] 画面に移動します。

【ジョブの強制中断】

Apeos_Admin ユーザーでログインしている場合に、ジョブの一覧でジョブの強制中断を指定したときに表示されます。

クリックすると、表示されているジョブを強制的に中断します。[ジョブの強制中断の結果] 画面に移動します。

【優先実行指定】

ジョブの優先実行を指定したときに表示されます。

クリックすると、表示されているジョブの処理を優先的に開始します。[ジョブの優先実行指定の結果] 画面に移動します。



優先実行を指定したジョブは、フロー設定時に指定する [ジョブの順序保持をする] の設定に関係なく、優先的に処理が開始されます。ただし、先に優先実行が指示されたジョブがある場合は、そのジョブの次に処理が開始されます。

【ジョブ履歴の消去】

ジョブ履歴の消去を指定したときに表示されます。

クリックすると、表示されているジョブの履歴を消去します。[ジョブ履歴の消去結果] 画面に移動します。

【キャンセル】

ジョブの操作をキャンセルして、元のページに戻ります。

ジョブ履歴の消去結果

メッセージ

ジョブの操作結果が表示されます。

【OK】

元のページに戻ります。

プロパティ

ジョブのプロパティを表示します。

ツールバー

- [中断]

ジョブを中断します。[ステータス] が [実行待ち] または [実行中] のジョブの場合に表示されます。

- [再実行]

ジョブを再実行します。[ステータス] が [異常終了] または [中断] のジョブに表示されます。

- [削除]

ジョブを削除します。[ステータス] が [実行待ち]、[中断]、[実行中]、[作業待ち]、または [異常終了] のジョブに表示されます。

- [優先実行指定]

ジョブの処理を優先的に開始します。[ステータス] が [実行待ち] のジョブに表示されます。

- [最新の情報に更新]

最新のジョブ状態を取得し直し、ページを更新します。

ジョブのプロパティ

- ジョブのプロパティ

ジョブ ID、フロー名、フロー ID、優先実行指定の有無、ジョブの現在のステータス情報、リトライ回数、ジョブの受付日時、開始日時、優先実行、終了日時、および実行場所が表示されます。

- [詳細情報表示]

[ジョブの詳細情報] 画面に移動します。

- [ジョブオーナー表示]

[ジョブオーナー情報] 画面に移動します。

- [オリジナル文書の取得]

[正常終了]、[中断]、[異常終了] のジョブを生成したときのドキュメントデータを取得するときに、クリックします。[オリジナル文書の取得] 画面に移動します。

- [フロー参照]

ログインしているユーザーがフロー作成者の場合は、[フローのプロパティ] 画面に移動します。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

ジョブの詳細情報

[戻る]

元のページに戻ります。

処理状況

ジョブが生成されてからこのページを表示するまでの、詳細な処理状況が表示されます。

ジョブオーナー情報

ジョブオーナーの情報を表示します。ジョブオーナーとは、このジョブを操作できる権限を持ったユーザーのことです。

[戻る]

元のページに戻ります。

一覧

ジョブオーナーのユーザー名およびユーザー ID が表示されます。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

オリジナル文書の取得

フォーマット変換やイメージ加工をする前の文書データを、指定したフォルダーにダウンロードします。この操作は、[中断]、[異常終了]、[正常終了] 状態のジョブに対して有効です。

[ダウンロード]

クリックすると、[ファイルのダウンロード] ダイアログボックスが表示されます。[保存] をクリックしてオリジナル文書の保存先を指定します。

オリジナル文書は、zip 形式の圧縮ファイルで出力されます。圧縮ファイルの 名前は任意に設定できます。

[戻る]

元のページに戻ります。

ダウンロードするオリジナル文書の情報

ダウンロードする文書データの詳しい情報が表示されます。

待ちジョブ一覧

[一般] タブ

【対話処理】 機能を設定したフローに基づいて発生した対話処理待ちのジョブの一覧を表示します。

- 待ちジョブ一覧

- ・ フロー名
対話処理待ちのジョブが基づくフローの名前を表示します。
- ・ 対話名
【利用者対話設定画面】 画面で設定した名前を表示します。
- ・ 受付日時
対話処理待ちのジョブが受け付けられた日時を表示します。
- ・ 対話コメント
【利用者対話設定画面】 画面で設定したコメントを表示します。
- ・ アイコン
 (参照) : クリックすると、[待ちジョブ参照 (一般)] 画面に移動します。
 (操作) : クリックすると、[待ちジョブ操作 (一般)] 画面に移動します。



ほかから操作されているジョブのときは  (参照) アイコンだけが表示されます。

- 共通の項目

「画面について」を参照してください。

[スキャン・プレビュー] タブ

【外部アクセス連携】 機能を設定したフローに基づいて発生した対話処理待ちのジョブの一覧を表示します。

- 待ちジョブ一覧

- ・ フロー名
対話処理待ちのジョブが基づくフローの名前を表示します。
- ・ 受付日時
対話処理待ちのジョブが受け付けられた日時を表示します。
- ・ アイコン
 (参照) : クリックすると、[待ちジョブ参照 (スキャン・プレビュー)] 画面に移動します。
 (操作) : クリックすると、[待ちジョブ操作 (スキャン・プレビュー)] 画面に移動します。



ほかから操作されているジョブのときは  (参照) アイコンだけが表示されます。

- 共通の項目

「画面について」を参照してください。

待ちジョブ参照 (一般)

【作業待ち】 状態のジョブの内容を確認します。

[待ちジョブを操作する]

待ちジョブを操作する場合にクリックします。[待ちジョブ操作 (一般)] 画面に移動します。

[待ちジョブ一覧へ戻る]

クリックすると、[待ちジョブ一覧] 画面に戻ります。

[プレビュー位置切り替え]

クリックすると、文書ビューと文書属性の表示領域が、縦レイアウトと横レイアウトに切り替わります。

選択されたジョブ

フローの名前、対話設定で入力した名前、受付日時を表示します。

関連文書

ジョブに複数の文書が設定されている場合は、プレビューする文書を選択します。

文書ビュー

選択されたジョブのプレビューを表示します。プレビューできるのは、TIFF マルチページの文書だけです。

⏪ (最初のページ)：クリックすると、開始ページのプレビューが表示されます。

⏴ (前のページ)：クリックすると、1 ページ前のプレビューが表示されます。

⏵ (次のページ)：クリックすると、1 ページ後のプレビューが表示されます。

⏩ (最後のページ)：クリックすると、最終ページのプレビューが表示されます。

🔍 (ズーム・イン)：クリックして、プレビューを拡大します。

🔍 (ズーム・アウト)：クリックすると、プレビューを縮小します。

🔄 (回転)：クリックして、プレビューを回転します。クリックのたびに、時計周りに 90 度ずつ回転します。

🔄 (リセット)：クリックして、回転や拡大、縮小の設定を破棄し、初期設定に戻します。初期設定は、[利用者対話設定画面] 画面で設定した値です。

文書属性

- 一覧
文書属性の [名前] と [値] が表示されます。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

待ちジョブ操作（一般）

【作業待ち】状態のジョブの内容を確認し、処理を再開、またはジョブを削除します。必要に応じて、属性値も変更できます。

【ジョブ再開】

クリックすると、待ちジョブを再開します。

【ジョブ削除】

待ちジョブを削除する場合にクリックします。【待ちジョブの削除】画面に移動します。

【待ちジョブ一覧へ戻る】

クリックすると、【待ちジョブ一覧】画面に戻ります。

【プレビュー位置切り替え】

クリックすると、文書ビューと文書属性の表示領域が、縦レイアウトと横レイアウトに切り替わります。

選択されたジョブ

フローの名前、[利用者対話設定画面] 画面で入力した名前、受付日時を表示します。

関連文書

ジョブに複数の文書が設定されている場合は、表示する文書を選択します。

プレビュー領域

選択されたジョブのプレビューを表示します。プレビューできるのは、TIFF マルチページの文書だけです。

- ◀ (最初のページ) : クリックすると、開始ページのプレビューが表示されます。
- ◀ (前のページ) : クリックすると、1 ページ前のプレビューが表示されます。
- ▶ (次のページ) : クリックすると、1 ページ後のプレビューが表示されます。
- ▶ (最後のページ) : クリックすると、最終ページのプレビューが表示されます。
- 🔍 (ズーム・イン) : クリックして、プレビューを拡大します。
- 🔍 (ズーム・アウト) : クリックすると、プレビューを縮小します。
- 🔄 (回転) : クリックして、プレビューを回転します。クリックのたびに、時計周りに 90 度ずつ回転します。
- 🔄 (リセット) : クリックして、回転や拡大、縮小の設定を破棄し、初期設定に戻します。初期設定は、[利用者対話設定画面] 画面で設定した値です。

文書属性

- [適用]
文書属性の [値] の変更を適用する場合にクリックします。
- [元に戻す]
直前に [適用] を押した状態に戻す場合にクリックします。
- [待ちジョブ作成時の値に戻す]
文書属性表の画面上の表示を、最初にアクセスしたときの状態に戻す場合に、クリックします。
- 一覧
文書属性の [名前]、[値]、および [待ちジョブ作成時の値からの変更] の有無が表示されます。[利用者対話設定画面] 画面でモードに [編集可能] を設定している場合は、[値] を変更できます。ただし、[編集可能] を設定した場合も、属性値が 512 文字より大きいときは、読み取り専用として表示されます。
[値] のテキストボックスは、領域長を変更できます。🖱️にマウスポインタを合わせてドラッグし、任意の位置で離すと、テキストボックスの領域が変わります。OCR 結果など比較的長い文字列を表示する場合は、領域長を変更することで全体を表示できます。テキストボックスの領域長は、[適用] や [元に戻す] などのボタンをクリックしたり、ページを再表示したりすると、元の標準サイズに戻ります。

共通の項目

[画面について] を参照してください。

待ちジョブの削除

待ちジョブを削除します。

[ジョブ削除]

対話処理待ちのジョブを削除します。

[キャンセル]

対話処理待ちのジョブの削除をキャンセルして、元のページに戻ります。

待ちジョブの再開

[待ちジョブ操作 (一般)] 画面で [文書属性] を変更したあと、[適用] をクリックしないで [ジョブ再開] を指示したときに、ジョブを再開してよいか確認します。

フロー名

対象のフローのフロー名、対話処理の機能名、および受付日時が表示されます。

[再開]

変更した文書属性の値を適用しないで、ジョブを再開します。

[キャンセル]

再開処理をキャンセルして、元のページに戻ります。

待ちジョブ処理結果

メッセージ

待ちジョブの処理結果が表示されます。

[戻る]

元のページに戻ります。

待ちジョブ参照（スキャン・プレビュー）

〔作業待ち〕状態のジョブの内容を確認し、処理を再開します。

[待ちジョブを操作する]

待ちジョブを操作する場合にクリックします。〔待ちジョブ操作（スキャン・プレビュー）〕画面に移動します。

[待ちジョブ一覧へ戻る]

クリックすると、〔待ちジョブ一覧〕画面に戻ります。

選択されたジョブ

フローの名前、受付日時を表示します。

関連文書

ジョブに複数の文書が設定されている場合は、表示する文書を選択します。

文書ビュー

選択されたジョブのプレビューを表示します。プレビューできるのは、TIFF マルチページの文書だけです。

ページ移動ボタン

-  (最初のページ)：クリックすると、開始ページのプレビューを表示します。
-  (前のページ)：クリックすると、1 ページ前のプレビューを表示します。
-  (次のページ)：クリックすると、1 ページ後のプレビューを表示します。
-  (最後のページ)：クリックすると、最終ページのプレビューを表示します。

操作ボタン

-  (リセット・ズーム)：クリックすると、拡大、縮小の設定を破棄し、初期設定に戻します。初期設定は、〔利用者対話設定画面〕で設定した値です。
-  (回転)：クリックすると、プレビューを回転します。クリックのたびに、時計周りに 90 度ずつ回転します。
-  (ズーム・イン)：クリックすると、プレビューを拡大します。
-  (ズーム・アウト)：クリックすると、プレビューを縮小します。

待ちジョブ操作（スキャン・プレビュー）

〔作業待ち〕状態のジョブの内容を確認し、処理を再開、またはジョブを削除します。

[待ちジョブ一覧へ戻る]

クリックすると、〔待ちジョブ一覧〕画面に戻ります。

選択されたジョブ

フローの名前、受付日時を表示します。

操作ボタン

[ジョブ再開]：クリックすると、ジョブを再開します。

[ジョブ削除]：クリックすると、ジョブを削除します。

関連文書

ジョブに複数の文書が設定されている場合は、表示する文書を選択します。

文書ビュー

選択されたジョブのプレビューを表示します。プレビューできるのは、TIFF マルチページの文書だけです。

ページ移動ボタン

 (最初のページ)：クリックすると、開始ページのプレビューを表示します。

 (前のページ)：クリックすると、1 ページ前のプレビューを表示します。

 (次のページ)：クリックすると、1 ページ後のプレビューを表示します。

 (最後のページ)：クリックすると、最終ページのプレビューを表示します。

操作ボタン

 (リセット・ズーム)：クリックすると、拡大、縮小の設定を破棄し、初期設定に戻します。初期設定は、[利用者対話設定画面] で設定した値です。

 (回転)：クリックすると、プレビューを回転します。クリックのたびに、時計周りに 90 度ずつ回転します。

 (ズーム・イン)：クリックすると、プレビューを拡大します。

 (ズーム・アウト)：クリックすると、プレビューを縮小します。

サービス設定

システム情報

Flow Management サーバーの情報を表示します。

[共有システム ID のダウンロード]

共有システム ID ファイルをダウンロードするときに、クリックします。[共有システム ID のダウンロード] 画面を表示します。



システム ID は、暗号化処理に使用する Flow Management 固有の番号です。Flow Management を別の PC にインストールしたり、再インストールしたりすると、新しいシステム ID が自動的に付けられます。共有システム ID ファイルは、システム ID が異なる Flow Management にフローをアップロードをするときに、システム ID を共有化するために使用するファイルです。ダウンロード後、フローを実行する PC にコピーして、Flow Management のインストール時に読み込んで使用します。

システム情報

Flow Management サーバーが動作しているホスト名と、役割（メイン処理（プライマリ）またはメイン処理（セカンダリ））が表示されます。

共有システム ID のダウンロード

Flow Management の共有システム ID ファイルを取得します。

[ダウンロード]

クリックすると、[ファイルのダウンロード] ダイアログボックスが表示されます。[保存] をクリックしてファイル保存先を指定します。

[戻る]

共有システム ID のダウンロードを中止して、元のページに戻ります。

フロー作成者の設定

ユーザーに [フロー作成者] 権限を設定します。[フロー作成者] 権限とは、フローを作成できるユーザーの権限です。

[+追加]

フロー作成者を追加するときに、クリックします。[ユーザーの指定] 画面に移動します。

[×削除]

一覧で選択したフロー作成者を削除するときに、クリックします。

フロー作成者の一覧

- フロー作成者の一覧
フロー作成者のユーザー ID、ユーザー名が表示されます。
- [最新の情報に更新]
一覧を最新の情報に更新する場合にクリックします。
- 共通の項目
「画面について」を参照してください。

ユーザーの指定

ボタン

- [OK]
検索結果一覧でチェックマークが付いているユーザーを確定し、元のページに戻ります。
- [キャンセル]
設定している内容を破棄し、元のページに戻ります。

ユーザーの検索

- 検索対象
ドロップダウンリストボックスから、検索対象を選択します。
選択できるのは、次の項目です。初期状態では、[ユーザー ID] が選択されています。
 - ・ ユーザー ID
 - ・ ユーザー名
 - ・ 名
 - ・ 姓
 - ・ メールアドレス
 - ・ 備考
 - ・ 個人番号
 - ・ 所属
 - ・ ロックアウトの状態
- 検索条件
[キーワードと一致する] または [キーワードを含む] のどちらかを選択します。
[検索対象] に [ロックアウトの状態] を選択した場合は、[キーワードと一致する] が固定して選択されます。
- キーワード
検索キーワードを入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 1 ～ 1024 です。
[検索対象] に [ロックアウトの状態] を選択した場合は、ドロップダウンリストボックスになります。
選択できるのは、次の項目です。
 - ・ ロックアウトしている
 - ・ ロックアウトしていない
- [検索]
検索を実行します。

検索結果一覧

検索を実行すると、一覧が表示されます。
一覧の項目は次のとおりです。

- ・ ユーザー ID
- ・ ユーザー名
- ・ 名
- ・ 姓
- ・ メールアドレス
- ・ 有効期限
- ・ 備考
- ・ 個人番号
この項目は、初期状態では表示されません。表示する場合は、[表の設定] 画面で設定してください。
- ・ 所属
この項目は、初期状態では表示されません。表示する場合は、[表の設定] 画面で設定してください。
- ・ カード ID
この項目は、初期状態では表示されません。表示する場合は、[表の設定] 画面で設定してください。

- ・ 状態
この項目は、初期状態では表示されません。表示する場合は、[表の設定] 画面で設定してください。
- ・ ロックアウトの状態
この項目は、初期状態では表示されません。表示する場合は、[表の設定] 画面で設定してください。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

フロー作成者の削除

ユーザーの [フロー作成者] 権限を削除します。

削除するフロー作成者

[フロー作成者] 権限を削除するフロー作成者のユーザー ID とユーザー名を表示します。

[削除]

表示しているユーザーの [フロー作成者] 権限を削除して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

[フロー作成者] 権限を削除しないで、元のページに戻ります。

ジョブ履歴の削除設定

削除したジョブと正常終了したジョブの履歴を保存しておく期間と、それらのジョブの履歴を削除するタイミングを設定します。

ジョブ履歴の削除設定

- ・ [編集]
クリックすると、[ジョブ履歴の削除設定の編集] 画面に移動します。
- ・ ジョブ履歴の保存有効期間
[ジョブ履歴の削除設定の編集] 画面で設定した、ジョブ履歴の保存有効期間が表示されます。
- ・ 破棄処理
[ジョブ履歴の削除設定の編集] 画面で設定した、破棄処理のスケジュールが表示されます。

ジョブ履歴の削除設定の編集

削除したジョブと正常終了したジョブの履歴を保存しておく期間と、それらのジョブの履歴を削除するタイミングを設定します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

ジョブ履歴の保存有効期間の設定

- ・ オリジナル文書
オリジナル文書を保存しておく期間を指定します。入力できる値は、半角の数字で 0 ～ 30 です。初期設定は [5] 日です。
- ・ ジョブ属性
ジョブ履歴とジョブの処理履歴を保持しておく期間を指定します。入力できる値は、半角の数字で 0 ～ 30 です。初期設定は [7] 日です。

破棄処理の実行

ジョブ履歴の破棄処理を実行する時間を選択します。

- 毎日、指定された時刻に破棄処理を実行する
Flow Management サーバーの稼働中に、毎日、指定した時刻に破棄処理を実行する場合に選択し、ドロップダウンメニューから、開始時刻を選択します。選択できる値は、[00] 時～ [23] 時です。初期設定は [0] 時です。
- 毎時間ごとに処理を実行する
Flow Management サーバーの稼働中、1 時、2 時、3 時のように、毎時ちょうどに破棄処理を実行する場合に選択します。
- 毎日、指定された時刻から、指定された時間だけ、指定された分間隔で、破棄処理を実行する
Flow Management サーバーの稼働中に、毎日、指定した開始時刻から、指定した処理時間内に、指定された実行間隔で破棄処理を実行する場合に選択し、ドロップダウンメニューから、開始時刻、処理時間および実行間隔を選択します。開始時刻に選択できる値は、[0] 時～ [23] 時で、初期設定は [0] 時です。処理時間に選択できる値は [0] 時～ [24] 時で、初期設定は [1] 時です。実行間隔に選択できる値は [5] 分、[10] 分、[20] 分または [30] 分で、初期設定は [5] 分です。

システム共通設定

Flow Management で共通の設定をします。

処理禁止フォーマットの編集

[処理禁止フォーマットの編集] 画面で設定した、処理禁止フォーマットが表示されます。

[システム共通設定] ページで [処理禁止フォーマット] の [編集] をクリックすると、[処理禁止フォーマットの編集] 画面に移動します。

処理を禁止するフォーマットの拡張子を設定します。ここで拡張子を設定すると、その拡張子を持つファイルは、[フォルダー] 機能で処理されません。また、処理の途中で作成された場合は、ジョブが異常終了し、その後の処理がされません。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。処理を禁止するフォーマットの拡張子を一覧に追加または削除した場合は、[処理禁止フォーマットの更新] 画面に移動します。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

処理禁止フォーマット

処理禁止フォーマットに指定されている拡張子を一覧に表示します。初期設定では、「xd\$」、「#dw」、「asp」、「bat」、「eml」、「exe」、「js」、「nws」、「reg」、「vbs」、「wsf」および「tmp」が設定されています。処理禁止フォーマットに設定できる拡張子の数は、1000 です。

- 禁止する拡張子
処理禁止フォーマットに指定する拡張子を入力します。入力できる文字数は、全角または半角で 0 ～ 50 です。
- [追加]
[禁止する拡張子] に入力した拡張子を一覧に追加するときに、クリックします。
- [削除]
一覧でチェックマークを付けた拡張子を削除するときに、クリックします。

処理禁止フォーマットの更新

処理禁止フォーマットの変更内容を確認します。

メッセージ

追加または削除する拡張子を表示します。

[OK]

設定している内容を保存して、[システム共通設定] 画面に戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、[処理禁止フォーマットの編集] 画面に戻ります。

システムエラー通知の設定

[システムエラー通知の設定] 画面で設定した、エラー通知の内容が表示されます。

[システム共通設定] ページで [システムエラー通知の設定] の [編集] をクリックすると、[システムエラー通知の設定] 画面に移動します。

緊急の対応が必要なエラーが発生したときに、メールで通知するかどうかを設定します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。設定内容を変更した場合は、[システムエラー通知の設定確認] 画面に移動します。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

システムエラー通知

システムエラーが発生したときに、メールで通知するかどうかを指定します。

初期設定は [通知しない] です。

宛先メールアドレス (必須)

[通知する] を選択した場合は、通知先として指定された宛先のメールアドレスが表示されます。

- [宛先指定]
通知先のメールアドレスを指定する場合にクリックします。[システムエラー通知の設定 - 宛先設定 - 送信先の指定] 画面に移動します。

件名

[通知する] を選択した場合は、メールを送信するときの件名を入力します。

入力できる文字数は、半角で 0 ~ 100 です。

初期設定は「ApeosWare Management Suite Flow Management System Error」です。以前に [件名] を編集したことがある場合は、その値が表示されます。



ダブルクォート (")、シングルクォート (')、山かっこ (< >)、アンパサンド (&)、およびタブは、入力できません。

送信先の指定・メールアドレスの指定

[OK]

設定している内容を保存し、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄し、元のページに戻ります。

[ユーザー一覧から追加]

メールアドレス情報をユーザー一覧から追加します。[送信先を追加（ユーザーの一覧から）] 画面に移動します。

[直接入力して追加]

メールアドレス情報を直接入力して追加します。[送信先の追加（直接入力）] 画面に移動します。

[削除]

選択した送信先を通知先から削除します。

送信先の指定リストが表示されている場合は、チェックマークを付けた送信先を削除します。

[編集]

選択した送信先を編集します。[送信先の編集] 画面に移動します。

送信先の指定リストが表示されている場合は、チェックマークを付けた送信先を編集します。



補足

編集できる送信先は、[直接入力して追加] の操作で追加した送信先だけです。

[テストメールの送信]

追加した送信先へテストメールを送信します。[テストメールの送信] 画面に移動します。

送信先の指定リストが表示されている場合は、チェックマークを付けた送信先に通知します。

送信先の追加（直接入力）

[OK]

設定している内容を保存し、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄し、元のページに戻ります。

送信先の名称（必須）

送信先の名称を入力します。

入力できる文字数は、全角または半角で 1 ～ 128 です。

メールアドレス（必須）

送信先のメールアドレス情報を入力します。

半角スペース、カッコ（ ）、カンマ（,）、コロン（:）、セミコロン（;）、円（¥）、ダブルクォーテーション（"）、および山かっこ（<>）は、入力できません。

送信先を追加（ユーザーの一覧から）

[OK]

選択されたユーザーを送信先に設定して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

送信先の設定を中止して、元のページに戻ります。

[すべて選択]

複数の送信先を指定する場合に表示されるボタンです。

ユーザー一覧に表示されているすべての項目に、チェックマークを付けます。

【選択を解除】

複数の送信先を指定する場合に表示されるボタンです。

ユーザー一覧で選択されているすべての項目の、チェックマークを外します。

共通の項目

「画面について」を参照してください。

テストメールの送信

送信先メールアドレス

送信先のアドレスが表示されます。

タイトル（必須）

メールのタイトルが表示されます。変更できません。

内容（必須）

メールの内容が表示されます。変更できません。

【送信】

【送信先メールアドレス】に表示されているメールアドレスにテストメールを送信し、元のページに戻ります。

【キャンセル】

テストメールを送信しないで、元のページに戻ります。

送信先の編集

【OK】

設定している内容を保存し、元のページに戻ります。

【キャンセル】

設定している内容を破棄し、元のページに戻ります。

送信先の名称（必須）

送信先の名称を入力します。

入力できる文字数は、全角または半角で 1 ～ 128 です。

メールアドレス（必須）

送信先のメールアドレス情報を入力します。

入力できる文字数は、半角の英数字で 1 ～ 256 です。

半角スペース、カッコ（ ）、カンマ（,）、コロン（:）、セミコロン（;）、円（¥）、ダブルクォーテーション（"）、および山かっこ（<>）は、入力できません。

システムエラー通知の設定確認

システムエラー通知の変更内容を確認します。

メッセージ

システムエラーを通知するかどうかが表示されます。

通知する場合は、通知の宛先と件名も表示されます。

【OK】

設定している内容を保存して、【システム共通設定】画面に戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、[システムエラー通知の設定] 画面に戻ります。

各機能の設定

フローの作成時や編集時に参照する情報を、あらかじめ設定しておきます。

各機能の設定

- 各機能の設定

ドロップダウンリストボックスから各機能を選択して、フローの作成時に参照する情報を設定します。

- ・ フォルダー

[フォルダー－フォルダーリスト設定] 画面が表示されます。

[フォルダー] 機能を設定するときに参照する、取り込み元のローカルフォルダーを設定します。

- ・ アプリケーション連携

[アプリケーション連携－実行ファイルリスト / 作業用フォルダーリスト設定] 画面が表示されます。

[アプリケーション連携] 機能を設定するときに参照する、実行ファイルと作業用フォルダーを設定します。

- ・ フォルダー保存

[フォルダー保存－フォルダーリスト設定] 画面が表示されます。

[フォルダー保存] 機能を設定するときに参照する、保存先のローカルフォルダーを設定します。

- ・ 文書属性の対応表出力

[文書属性の対応表出力－フォルダーリスト設定] 画面が表示されます。

[文書属性の対応表出力] 機能を設定するときに参照する、保存先のローカルフォルダーを設定します。

- ・ OmniPage (R) Barcode Reader

[OmniPage (R) Barcode Reader 設定 - 領域指定ファイルリスト設定] 画面が表示されます。

[OmniPage (R) Barcode Reader] 機能を設定するときに参照する、領域指定ファイルを設定します。

- ・ 属性加工データ取り込み

[属性加工データ取り込み - フォルダーリスト設定] 画面が表示されます。

[属性加工データ取り込み] 機能を設定するときに参照する、入力文書の取り込み元のフォルダーを設定します。

- ・ 属性加工データ出力

[属性加工データ出力 - 文書出力用フォルダー設定 / 属性出力用フォルダーリスト] 画面が表示されます。

[属性加工データ出力] 機能を設定するときに参照する、文書と属性ファイルの出力先のフォルダーを設定します。

フォルダー－フォルダーリスト設定

[フォルダー] 機能の設定時に、[フォルダー - サーバーのローカルフォルダーの選択] 画面で選択する項目をあらかじめ登録します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

フォルダーリスト

Flow Management サーバーのローカルフォルダーのパスを、次のどちらかの形式で入力します。

- URI 形式：

file:/// {ローカルフォルダーのパス}

例：file:///C:/folder1/sub1、file:///C:/*folder1*sub1

- UNC 形式：

{ローカルフォルダーのパス}

例：C:¥folder1¥sub1、C:/folder1/sub1

フォルダーの区切り文字には、円 (¥)、またはスラッシュ (/) を使用します。

円 (¥)、スラッシュ (/) の混在も可能です。例：file:///C:¥folder1/sub1

ただし、URI 形式の「file:///」の部分には、円 (¥) は使用できません。

入力できる文字数は、1 つのフォルダーのパスに対して、全角で 0 ～ 128、半角で 0 ～ 256 です。

複数のフォルダーを入力する場合は、改行で区切ります。最大 1,000 件登録できます。

次の文字は使用できません。

コロン (:)、カンマ (,)、セミコロン (;)、アスタリスク (*)、クエスチョン (?)、ダブルクォート (")、山
かっこ (<>)、パイプ (|)

ただし、コロン (:) はドライブ文字には使用できます。



フォルダーの選択ページでは、円 (¥) をフォルダーの区切り文字とした UNC 形式で表示されます。
たとえば上記の例は、すべて「C:¥folder1¥sub1」と表示されます。

アプリケーション連携－実行ファイルリスト / 作業用フォルダーリスト設定

[アプリケーション連携] 機能の設定時に、[アプリケーション連携 - 実行ファイルの選択] 画面、または [アプリケーション連携 - 作業用フォルダーの選択] 画面で選択する項目をあらかじめ登録します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

実行ファイルリスト

実行ファイルのパスを、次のどちらかの形式で入力します。

- URI 形式：
file:/// {実行ファイルのパス}
例：file:///C:/folder1/app.exe、file:///C:¥folder1¥app.exe
- UNC 形式：
{実行ファイルのパス}
例：C:¥folder1¥app.exe、C:/folder1/app.exe

フォルダーの区切り文字には、円 (¥)、またはスラッシュ (/) を使用します。

円 (¥)、スラッシュ (/) の混在も可能です。例：file:///C:¥folder1/app.exe

ただし、URI 形式の「file:///」の部分には、円 (¥) は使用できません。

入力できる文字数は、1 つのファイルのパスに対して、全角で 0 ～ 128、半角で 0 ～ 256 です。

複数のファイルを入力する場合は、改行で区切ります。最大 1,000 件登録できます。

次の文字は使用できません。

コロン (:)、カンマ (,)、セミコロン (;)、アスタリスク (*)、クエスチョン (?)、ダブルクォート (")、山
かっこ (<>)、パイプ (|)

ただし、コロン (:) はドライブ文字には使用できます。



ファイルの選択ページでは、円 (¥) をフォルダーの区切り文字とした UNC 形式で表示されます。
たとえば上記の例は、すべて「C:¥folder1¥app.exe」と表示されます。

作業用フォルダーリスト

作業用フォルダーのパスを、次のどちらかの形式で入力します。

- URI 形式：
file:/// {作業用フォルダーのパス}
例：file:///C:/folder1/sub1、file:///C:¥folder1¥sub1
- UNC 形式：
{作業用フォルダーのパス}
例：C:¥folder1¥sub1、C:/folder1/sub1

フォルダーの区切り文字には、円 (¥)、またはスラッシュ (/) を使用します。

円 (¥)、スラッシュ (/) の混在も可能です。例：file:///C:¥folder1/sub1

ただし、URI 形式の「file:///」の部分には、円 (¥) は使用できません。

入力できる文字数は、1 つのフォルダーのパスに対して、全角で 0 ～ 128、半角で 0 ～ 256 です。

複数のフォルダーを入力する場合は、改行で区切ります。最大 1,000 件登録できます。

次の文字は使用できません。

コロン (:)、カンマ (,)、セミコロン (;)、アスタリスク (*)、クエスチョン (?)、ダブルクォート (")、山
かっこ (<>)、パイプ (|)

ただし、コロン (:) はドライブ文字には使用できます。



補足

フォルダーの選択ページでは、円 (¥) をフォルダーの区切り文字とした UNC 形式で表示されます。
たとえば上記の例は、すべて「C:¥folder1¥sub1」と表示されます。

フォルダー保存－フォルダーリスト設定

「フォルダー保存」機能の設定時に、「フォルダー保存 - サーバーのローカルフォルダーの選択」画面で選択する項目をあらかじめ登録します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

フォルダーリスト

Flow Management サーバーのローカルフォルダーのパスを、次のどちらかの形式で入力します。

- URI 形式：
file:/// {ローカルフォルダーのパス}
例：file:///C:/folder1/sub1、file:///C:¥folder1¥sub1
- UNC 形式：
{ローカルフォルダーのパス}
例：C:¥folder1¥sub1、C:/folder1/sub1

フォルダーの区切り文字には、円 (¥)、またはスラッシュ (/) を使用します。

円 (¥)、スラッシュ (/) の混在も可能です。例：file:///C:¥folder1/sub1

ただし、URI 形式の「file:///」の部分には、円 (¥) は使用できません。

入力できる文字数は、1 つのフォルダーのパスに対して、全角で 0 ～ 128、半角で 0 ～ 256 です。

複数のフォルダーを入力する場合は、改行で区切ります。最大 1,000 件登録できます。

次の文字は使用できません。

コロン (:)、カンマ (,)、セミコロン (;)、アスタリスク (*)、クエスチョン (?)、ダブルクォート (")、山
かっこ (<>)、パイプ (|)

ただし、コロン (:) はドライブ文字には使用できません。



フォルダーの選択ページでは、円 (¥) をフォルダーの区切り文字とした UNC 形式で表示されます。
たとえば上記の例は、すべて「C:¥folder1¥sub1」と表示されます。

文書属性の対応表出力 フォルダーリスト設定

【文書属性の対応表出力】機能の設定時に、【文書属性の対応表出力 - サーバーのローカルフォルダーの選択】画面で選択する項目をあらかじめ登録します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

フォルダーリスト

Flow Management サーバーのローカルフォルダーのパスを、次のどちらかの形式で入力します。

- URI 形式 :
file:/// {ローカルフォルダーのパス}
例 : file:///C:/folder1/sub1 、 file:///C:¥folder1¥sub1
- UNC 形式 :
{ローカルフォルダーのパス}
例 : C:¥folder1¥sub1、C:/folder1/sub1

フォルダーの区切り文字には、円 (¥)、またはスラッシュ (/) を使用します。

円 (¥)、スラッシュ (/) の混在も可能です。例 : file:///C:¥folder1/sub1

ただし、URI 形式の「file:///」の部分には、円 (¥) は使用できません。

入力できる文字数は、1 つのフォルダーのパスに対して、全角で 0 ~ 128、半角で 0 ~ 256 です。

複数のフォルダーを入力する場合は、改行で区切ります。最大 1,000 件登録できます。

次の文字は使用できません。

コロン (:)、カンマ (,)、セミコロン (;)、アスタリスク (*)、クエスチョン (?)、ダブルクォート (")、山
かっこ (<>)、パイプ (|)

ただし、コロン (:) はドライブ文字には使用できません。



フォルダーの選択ページでは、円 (¥) をフォルダーの区切り文字とした UNC 形式で表示されます。
たとえば上記の例は、すべて「C:¥folder1¥sub1」と表示されます。

OmniPage (R) Barcode Reader 設定 - 領域指定ファイルリスト設定

【OmniPage (R) Barcode Reader】機能の設定時に、【OmniPage (R) Barcode Reader 設定 - 領域指定ファイルの選択】画面で選択する領域指定ファイルのパスをあらかじめ登録します。

領域指定ファイルに指定できるのは、JPEG、TIFF、PDF、BMP、GIF、および PNG 形式のファイルです。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

領域指定ファイルリスト

領域指定ファイルのパスを、次のどちらかの形式で入力します。

- URI 形式：
file:/// {領域指定ファイルのパス}
例：file:///C:¥folder1¥bar.tif、file:///C:¥folder1¥bar.tif
- UNC 形式：
{領域指定ファイルのパス}
例：C:¥folder1¥bar.tif、C:¥folder1¥bar.tif

フォルダーの区切り文字には、円 (¥)、またはスラッシュ (/) を使用します。

円 (¥)、スラッシュ (/) の混在も可能です。例：file:///C:¥folder1¥bar.tif

ただし、URI 形式の「file:///」の部分には、円 (¥) は使用できません。

入力できる文字数は、1 つのファイルのパスに対して、全角で 0 ～ 128、半角で 0 ～ 256 です。

複数のファイルを入力する場合は、改行で区切ります。最大 1,000 件登録できます。

次の文字は使用できません。

コロン (:)、カンマ (,)、セミコロン (;)、アスタリスク (*)、クエスチョン (?)、ダブルクォート (")、山
かっこ (<>)、パイプ (|)

ただし、コロン (:) はドライブ文字には使用できます。



補足

ファイルの選択ページでは、円 (¥) をフォルダーの区切り文字とした UNC 形式で表示されます。
たとえば上記の例は、すべて「C:¥folder1¥bar.tif」と表示されます。

属性加工データ取り込み - フォルダーリスト設定

〔属性加工データ取り込み〕機能の設定時に、〔属性加工データ取り込み - サーバーのローカルフォルダーの選択〕画面で選択する項目をあらかじめ登録します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

フォルダーリスト

Flow Management サーバーのローカルフォルダーのパスを、次のどちらかの形式で入力します。

- URI 形式：
file:/// {ローカルフォルダーのパス}
例：file:///C:/folder1/sub1、file:///C:¥folder1¥sub1
- UNC 形式：
{ローカルフォルダーのパス}
例：C:¥folder1¥sub1、C:/folder1/sub1

フォルダーの区切り文字には、円 (¥)、またはスラッシュ (/) を使用します。

円 (¥)、スラッシュ (/) の混在も可能です。例：file:///C:¥folder1/sub1

ただし、URI 形式の「file:///」の部分には、円 (¥) は使用できません。

入力できる文字数は、1 つのフォルダーのパスに対して、全角で 0 ～ 128、半角で 0 ～ 256 です。

複数のフォルダーを入力する場合は、改行で区切ります。最大 1,000 件登録できます。

次の文字は使用できません。

コロン (:)、カンマ (,)、セミコロン (;)、アスタリスク (*)、クエスチョン (?)、ダブルクォート (")、山
かっこ (<>)、パイプ (|)

ただし、コロン (:) はドライブ文字には使用できません。



フォルダーの選択ページでは、円 (¥) をフォルダーの区切り文字とした UNC 形式で表示されます。
たとえば上記の例は、すべて「C:¥folder1¥sub1」と表示されます。

属性加工データ出力 - 文書出力用フォルダー設定 / 属性出力用フォルダーリスト

「属性加工データ出力」機能の設定時に、「属性加工データ出力 - サーバーのローカルフォルダーの選択」画面で選択する項目をあらかじめ登録します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。

文書出力用フォルダーリスト

文書を出力するフォルダーのパスを、次のどちらかの形式で入力します。

- URI 形式 :
file:/// {ローカルフォルダーのパス}
例 : file:///C:/folder1/sub1 、 file:///C:¥folder1¥sub1
- UNC 形式 :
{ローカルフォルダーのパス}
例 : C:¥folder1¥sub1、C:/folder1/sub1

フォルダーの区切り文字には、円 (¥)、またはスラッシュ (/) を使用します。

円 (¥)、スラッシュ (/) の混在も可能です。例 : file:///C:¥folder1/sub1

ただし、URI 形式の「file:///」の部分には、円 (¥) は使用できません。

入力できる文字数は、1 つのフォルダーのパスに対して、全角で 0 ~ 128、半角で 0 ~ 256 です。

複数のフォルダーを入力する場合は、改行で区切ります。最大 1,000 件登録できます。

次の文字は使用できません。

コロン (:)、カンマ (,)、セミコロン (;)、アスタリスク (*)、クエスチョン (?)、ダブルクォート (")、山
かっこ (<>)、パイプ (|)

ただし、コロン (:) はドライブ文字には使用できません。



フォルダーの選択ページでは、円 (¥) をフォルダーの区切り文字とした UNC 形式で表示されます。
たとえば上記の例は、すべて「C:¥folder1¥sub1」と表示されます。

属性出力用フォルダーリスト

属性ファイルを出力するフォルダーのパスを、次のどちらかの形式で入力します。

- URI 形式 :
file:/// {ローカルフォルダーのパス}
例 : file:///C:/folder1/sub1 、 file:///C:¥folder1¥sub1
- UNC 形式 :
{ローカルフォルダーのパス}
例 : C:¥folder1¥sub1、C:/folder1/sub1

フォルダーの区切り文字には、円 (¥)、またはスラッシュ (/) を使用します。

円 (¥)、スラッシュ (/) の混在も可能です。例 : file:///C:¥folder1/sub1

ただし、URI 形式の「file:///」の部分には、円 (¥) は使用できません。

入力できる文字数は、1つのフォルダーのパスに対して、全角で0～128、半角で0～256です。
複数のフォルダーを入力する場合は、改行で区切ります。最大1,000件登録できます。

次の文字は使用できません。

コロン (:)、カンマ (,)、セミコロン (;)、アスタリスク (*)、クエスチョン (?)、ダブルクォート (")、山
かっこ (<>)、パイプ (|)

ただし、コロン (:) はドライブ文字には使用できます。



フォルダーの選択ページでは、円 (¥) をフォルダーの区切り文字とした UNC 形式で表示されます。
たとえば上記の例は、すべて「C:¥folder1¥sub1」と表示されます。

プリントジョブ監視の設定

[ジョブ監視]

プリントジョブを監視するかどうかを設定します。監視する場合は [する] を選択します。

[監視間隔]

プリントジョブを監視する場合の監視間隔を入力します。

[OK]

設定している内容を保存して、元のページに戻ります。

[キャンセル]

設定している内容を破棄して、元のページに戻ります。